指宿市考古博物館
時遊館COCCOはしむれ

平成10年度

博物館年報・紀要

第3号

指宿市教育委員会

序

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれは、指宿市の文化情報の発信・市民と観光客の交流の場として、平成８年４月２０日にオープンいたしました。この博物館は、南に約4.2ヘクタールの国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡が広がる、野外の遺跡と博物館が一体となった施設です。

指宿市は、天然砂むし温泉で有名な国際観光温泉保養都市です。この博物館では、温泉を含む雄大で恵まれた自然とそこに息づいた指宿の先人たちの歴史と文化を紐解く施設として、「自然と隼人いきづく文化」というメインテーマが設定されています。

指宿市考古博物館 時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは、年間の活動報告書として、博物館紀要・年報を発刊いたしております。

平成１０年度は、指宿市にとって実り多き年でありました。１１月には、第２３回全国遺跡環境整備会議を開催、全国から多くの遺跡整備に携わる方々をお迎えし、史跡等の活用に関する大変有益な議論が展開されました。

また、特に弥次ヶ湯古墳の発見は、鹿児島県の古代史像を塗り変える出来事であったと確信いたしております。発掘調査の成果は、県内外から大きく注目を浴び、多数の見学者の方をお迎えするとともに、高い評価を受けております。

指宿市考古博物館では、こうした活動成果を生かしつつ、今後とも、よりよい博物館をめざしてまいりたいと考えております。

指宿市考古博物館
時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ
館　長　　山下隼雄

目　次

（年報編）

指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの施設概要　1
指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ　平成１０年度の事業について　3
１．事業概要　3
２．各事業の実績と展開　4
◆　博物館事業の部
（１）ゴールデンウィークイベント　4
（２）ＣＯＣＣＯ歴史セミナー（全８回）　5
（３）古代にチャレンジ（古代住居宿泊体験）　6
（４）企画展「指宿・喜入発掘速報展」　8
（５）緊急企画展「弥次ヶ湯古墳とその時代」　9
（６）ミニ企画「弥次ヶ湯古墳発掘調査速報」コーナー開設　13
（７）第２３回全国遺跡環境整備会議開催　14
（８）いぶすきシルバー美術展　17
（９）ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会　18
(10）博物館資料保存・修復活動（実物資料・書籍等・写真等）　19
(11）学芸員研究活動　20
(12）博物館教育・普及活動（ミュージアムティーチャー会による解説活動）　21
(13）ミュージアムティーチャー研修会　21
(14）「ＣＯＣＣＯだより」の発刊　22
(15）博物館実習生受入　46
◆　後援・共催・協賛事業の部
(16）鹿児島県考古巡回展　47
(17）指宿商業高校作品展　48
(18）薩摩焼発祥４００周年記念「いぶすき窯元会作品展」　48
(19）あざみの会発表展　48
(20）水墨画店「大谷喜郎」展　48
(21）県民大学書道講座生徒作品展　48
(22）いでゆ会発表展示会　48
(23）揖宿地区美育協会（保育園の部）絵画作品展示会　49
(24）指宿地区川柳会川柳展示会　49
(25）夢空間ひな人形展　49
(26）ようこそフラワーアレンジメントの世界へ「第８回アトリエＢＬＯＯＭ生徒作品展」　49
◆　発掘調査の部
(27）国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡等範囲確認調査　50
(28）県営弥次ヶ湯住宅建設に伴う発掘調査　50
◆　文化財保護管理の部
(29）国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡買上事業　49
(30）国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡住居再建事業　53
(31）体験広場設置工事　54
◆　刊行・編集書籍等
(32）緊急企画展「弥次ヶ湯古墳とその時代」展示図録　56
(33）県営弥次ヶ湯住宅建設に伴う発掘調査報告書博物館事業の部　56
(34）重要遺跡範囲確認調査発掘調査報告書　56

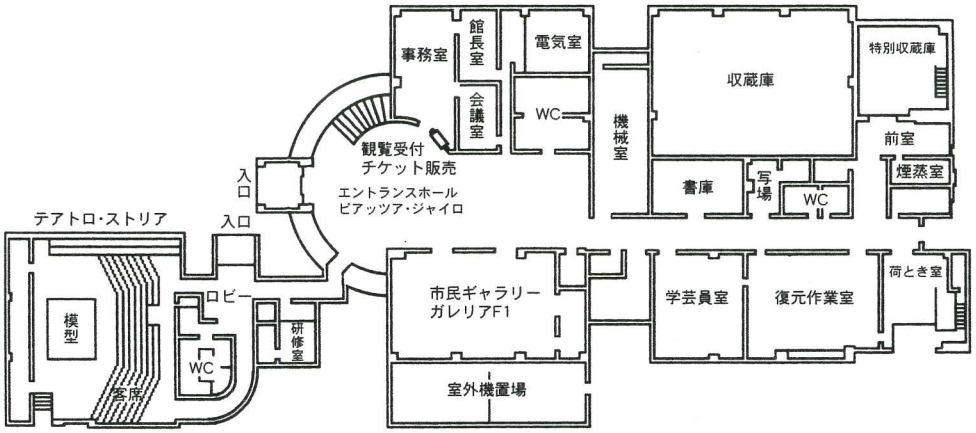
指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ平成９年度の入館者推移表　57
指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の設置及び管理に関する条例　57

（紀要編）

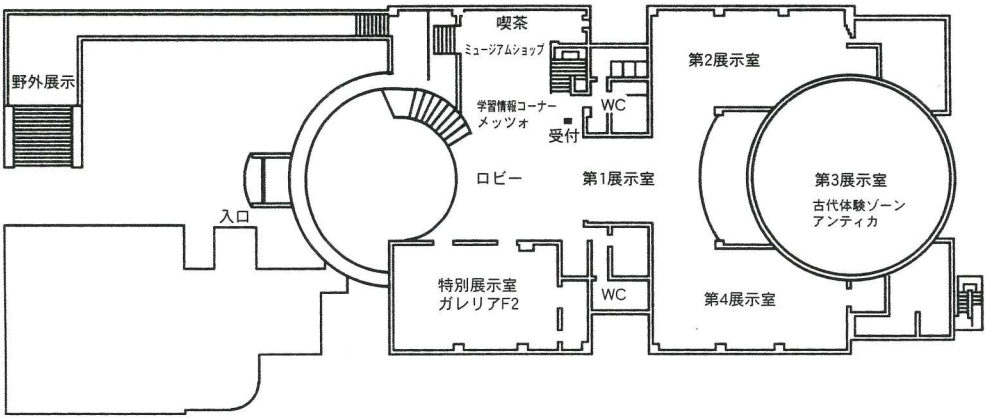
弥次ヶ湯古墳の発見とその意義　64～65
弥次ヶ湯古墳の報道記事　66～70
平成１０年度学芸員研究報告　71～77
国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡復元古代住居の火災について　78～83

指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの施設概要

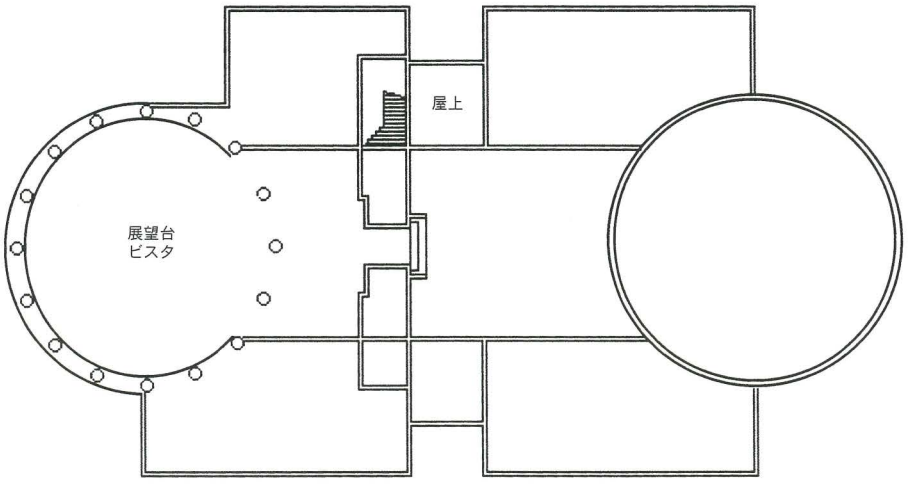
1階平面図



2階平面図



3階平面図



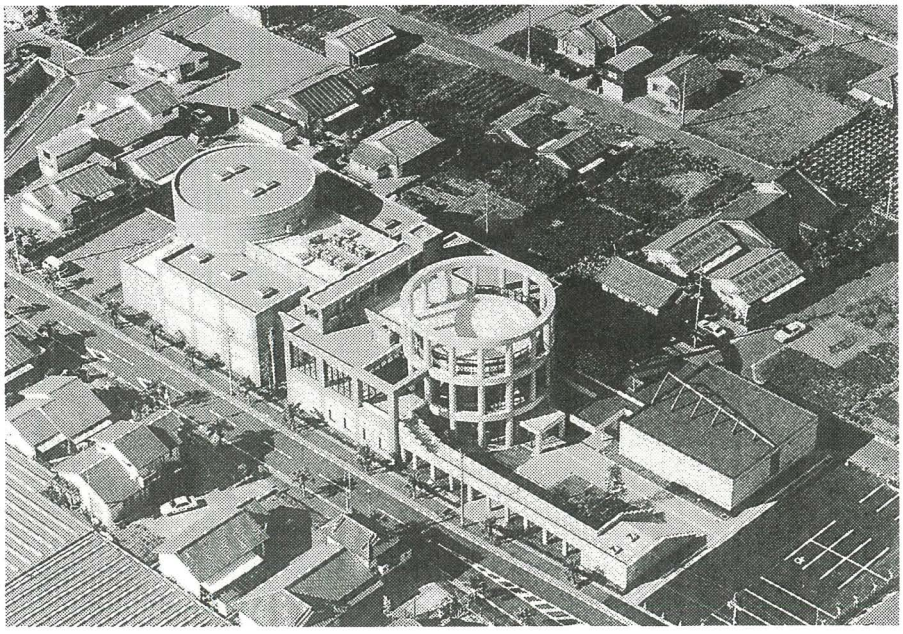
博物館建設事業の概要

・所在地	鹿児島県指宿市十二町２２９０番地
・敷地面積	４，９００㎡
・建築面積	１，５００㎡
・延床面積	３，１６３㎡
・展示面積	８３０㎡
・構造	鉄筋コンクリート造２階建
・総事業費	１９億３千万円
・工期	着工平成６年１０月～完成平成８年３月
・建築設計・監理	安井建築設計事務所
・施工建築主体工事	株式会社間組・迫田建設株式会社共同企業体
・電気設備工事	株式会社佐電工
・展示工事	株式会社丹青社
・空気調和設備工事	川本工業株式会社
・給排水衛生設備工	有限会社丸山水道工務店
・Ｃ・Ｇ製作株式会社	アイ・エヌ・エー

ふるさと歴史の広場事業の概要

＜ガイダンス施設＞

・建築面積	４２６㎡
・延床面積	４２３㎡
・構造	鉄筋コンクリート造
・総事業費	３億４千万円（史跡整備費含）
・工期	着工平成５年７月～完成平成８年３月
・建築設計・監理	株式会社空間文化開発機構
・施工建築主体工事	興南建設株式会社
・電気設備工事	有限会社オーデン
・空気調和設備工事	南栄設備株式会社
・給排水衛生設備工事	九州電気水道株式会社
・模型設置工事	株式会社京都科学
・映像製作委託	株式会社オフィス・トゥ・ワン



時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ全景

指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ
（指宿市教育委員会社会教育課文化係）
平成１０年度の事業について

１．事業概要

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは平成１０年度において以下の事業を行った。

＜博物館事業の部＞

（１）ゴールデンウィークイベント
（２）ＣＯＣＣＯ歴史セミナー（全８回）
（３）古代にチャレンジ（古代体験学習）
（４）企画展『指宿・喜入発掘速報展』
（５）緊急企画展『弥次ヶ湯古墳とその時代』
（６）ミニ企画『弥次ヶ湯古墳発掘調査速報』コーナー開設
（７）第２３回全国遺跡環境整備会議開催
（８）いぶすきシルバー美術展
（９）ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会
(10) 博物館資料収集活動（実物資料・書籍等・写真等）
(11) 博物館資料保存・修復活動
(12) 学芸員研究活動
(13) 博物館教育・普及活動（ミュージアムティーチャー会による解説活動）
(14) ミュージアムティーチャー研修会
(15)『ＣＯＣＣＯだより』の発刊
(16) 図録・ミュージアムグッズの頒布
(17) カフェの委託
(18) 博物館広報・ホームページ管理
(19) 博物館実習生受け入れ

＜後援・共催・協賛事業の部＞

(20) 鹿児島県考古巡回展
(21) 指宿商業高校作品展
(22) いぶすき窯元会作品展
(23) あざみの会発表展
(24) 県民大学書道講座生徒作品展
(25) いでゆ会発表展
(26) 揖宿地区美育協会（保育園の部）絵画作品展示会
(27) 指宿地区川柳会川柳展示会
(28) 第８回アトリエＢＬＯＯＭ生徒作品展

＜発掘調査の部＞

(29) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡等範囲確認調査
(30) 県営弥次ヶ湯住宅建設に伴う発掘調査

＜文化財保護管理の部＞

(31) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡管理
(32) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡買上事業
(33) 市指定文化財管理
(34) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡住居再建事業
(35) 体験広場設置工事

＜刊行・編集書籍等＞

(36)『弥次ヶ湯古墳とその時代展』展示図録　　(38)　重要遺跡範囲確認調査発掘調査報告書
(37) 県営弥次ヶ湯住宅建設に伴う発掘調査報告書

本編においては、上記の業務の内代表的なものを選択し、掲載している。

２．各事業の実績と展開

◆　**博物館事業の部**

（１）　ゴールデンウィークイベント

①体験！まがたまアクセサリーづくり

日時　平成１０年５月３・４・５日（３日間）
　　午前10：30～12：00，午後１：00～4：00
場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ１階講堂（形作り），国指定地（焼成）
成果　５月３日　参加者数　６８名
　　５月４日　参加者数　６２名
　　５月５日　参加者数　５２名
　　計　１８２名
　　取材等　ＫＫＢ（４日６時30分から放映）

②こども名画劇場

日時　平成１０年５月３・４・５日（３日間）
　　午後3：00～4：30
場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ歴史劇場
成果　５月３日　参加者数　２１名
　　５月４日　参加者数　３２名
　　５月５日　参加者数　５２名
　　計　１０５名

③はじめての人のためのインターネット講座（全２回）（担当　下山）

日時　平成１０年５月３・４日（２日間）
　　午後1：00～3：00
場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ歴史劇場研修室
成果　参加者数１５名　（２日間参加者）

④古代おにぎりプレゼント（担当　渡部）

日時　平成１０年５月３・４・５日（３日間・１００パックづつ準備）
場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ２階受付
成果　５月３日　10時30分までで配布完了
　　５月４日　11時までで配布完了
　　５月５日　11時までで配布完了
※　古代おにぎり配布に当たっては，グループ・すてっぷあっぷの協力を頂いた。

（２） ＣＯＣＣＯ歴史セミナー（全８回）

ａ．目的　　博物館に関わりのある自然・歴史分野について広く教養を深め、合わせて、博物館の利用促進をはかる。セミナーは生涯学習講座の一環として位置付け、講座生を募集して参加を募るとともに、一般聴講者も参加できるものとした。

ｂ．日時・題目

第１回　平成１０年７月１１日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：本田道輝
　演題「縄文土器とその時代」

第２回　平成１０年９月５日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：川野和昭
　演題「南九州と東南アジアの民俗比較」

第３回　平成１０年１０月３日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：永山修一
　演題「隼人と律令制」

第４回　平成１０年１１月２１日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：松尾千歳
　演題「天璋院篤姫をめぐる人々」

第５回　平成１０年１２月５日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：鎌田洋昭
　演題「陶磁器からみた指宿」

第６回　平成１１年１月２３日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：渡部徹也
　演題「古代の祭りについて」

第７回　平成１１年２月１３日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：中摩浩太郎
　演題「古代住宅事情について」

第８回　平成１１年３月１３日（土）午後３：00～午後４：30
　講師：下山　覚
　演題「火山と遺跡」

ｃ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ　ガレリアＦ１（１階講堂・ギャラリー）・歴史劇場

ｄ．主催　指宿市教育委員会

ｅ．実績（参加者数）

第１回	４１名（受講生１４名）	第５回	３５名（受講生１０名）
第２回	３６名（受講生１０名）	第６回	２５名（受講生　６名）
第３回	４５名（受講生　９名）	第７回	２７名（受講生　６名）
第４回	５５名（受講生１１名）	第８回	３０名（受講生１０名）

（３） 古代にチャレンジ（古代住居宿泊体験）

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれと隣接する国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡とを有機的に結びつけて活用する事業として、「古代にチャレンジ」を実施した。

ａ．目的　古代の歴史・文化を素材にした体験学習や古代住居での宿泊体験などを通じて、地域の歴史や文化についての学習を深める。

ｂ．日時　Ａコース（参加者小学４年生～中学１年生計２１名）

平成１０年７月２５日（土）午後２時～７月２６日（日）午前９時２０分まで

Ｂコース（参加者小学４年生～中学１年生計19名）

平成１０年８月５日（水）午後２時～６日（木）午前９時２０分まで

ｃ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡、敷領遺跡発掘調査現場他

ｄ．体験学習の内容

（１）Ａコース

①指宿史跡巡り

江戸時代の島津家ゆかりの史跡を見学。コースの最後では、市の指定文化財にもなっている殿様湯の温泉で入浴体験。

②古代人からのメッセージ

古代を題材にしたゲームや講話で、鹿児島の歴史について学習する。

③博物館見学

博物館を見学しながら、古代人の生活について調べる。

（２）Ｂコース

①体験発掘調査（敷領遺跡発掘調査地点）

発掘調査を通じ、遺跡や地層について学習する。

②勾玉づくり

勾玉などの装飾品を作りを通じて古代の文化について学習する。

③古代人からのメッセージ

古代を題材にしたゲームや講話で、鹿児島の歴史について学習する。

④博物館見学

博物館を見学しながら、古代人の生活について調べる。

ｅ．成果

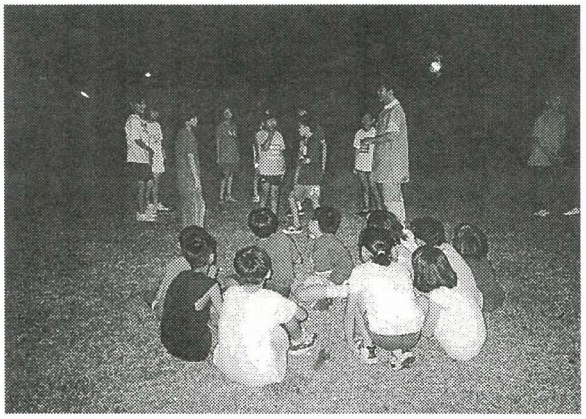
学習プログラムの修了時には、参加者に修了証をわたし、後日、時遊館ＣＯＣＣＯはしむれのロビーで活動内容の写真展を実施した。Ａコースについては、指宿市青年団の協力を得、史跡巡りや宿泊指導に大いに活躍していただいた。Ｂコースについては、体験発掘調査の時に、地元の発掘調査作業員の方々に協力をもらい有意義な活動を実施することができた。

ｆ．参加者の感想と今後の展望

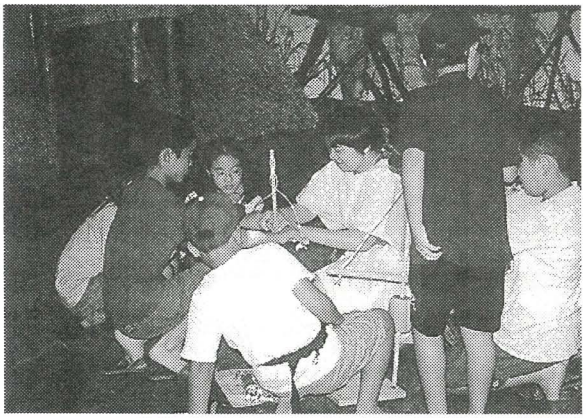
火起こし体験や、発掘調査などは、初めて経験する子どもたちも多く、熱中して取り組む姿が見られた。また、「古代の服を作って着てみたい」、「土器づくりに挑戦したい」「古代の食事を作ってみたい」など様々な要望もよせられ、次回も参加したいとの声が多く聞かれた。今後、こうしたニーズの実現に向けて、地域の歴史や文化財などの素材を十分に生かした魅力ある学習プログ

ラムを開発するとともに、引き続き、県内各地から参加者が集まるような広報・運営に取り組むことが肝要である。また、青年団やジュニアリーダー、地域のボランティア等への参加協力をよびかけながら支援体制づくりを進め、より多くの人々に地域の歴史や文化に興味・関心を抱いてもらえるよう広がりを持った事業展開を目指していきたい。

史跡めぐり（Aコース）

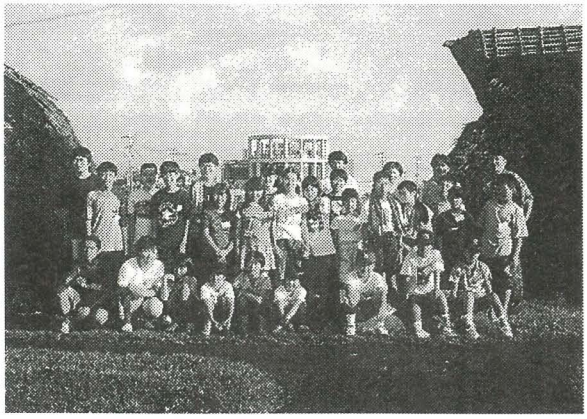


古代人からのメッセージ（Bコース）



古代人からのメッセージ（Aコース）

古代食試食（Aコース）



史跡公園記念写真（Aコース）

体験発掘（Aコース）

（４） 企画展「指宿・喜入発掘速報展」

ａ．目　的

平成９年度に揖宿郡内で行なわれた埋蔵文化財発掘調査で出土した土器や石器などの資料を一堂に展示し公開することで、郡内の方々に郷土の埋蔵文化財への関心を深めさせると同時に、埋蔵文化財愛護思想の啓発を図る。

ｂ．主催者

指宿市教育委員会、喜入町教育委員会

ｃ．後　援

揖宿教育事務所、鹿児島県立埋蔵文化財センター

ｄ．開催期間

平成１０年４月２９日（水）～５月５日（火）

ｅ．開催場所

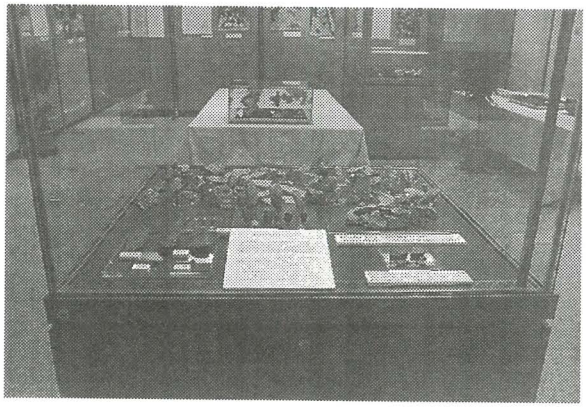
時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ２階特別展示室

ｆ．展示資料

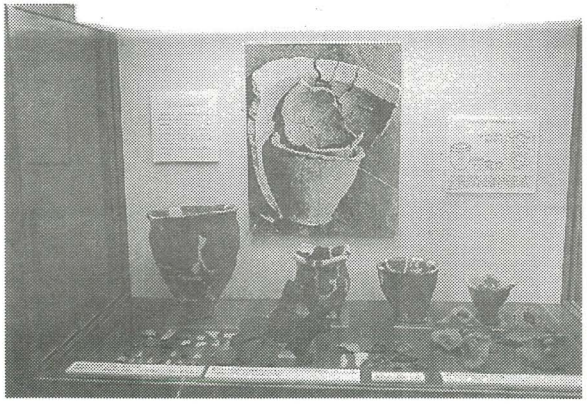
・指宿市：　南迫田遺跡・・・　近世陶磁器、近世鍛冶遺構関連資料、縄文土器、弥生土器

小牧３Ａ遺跡・・　旧石器時代石器資料

・喜入町：　帖地遺跡・・・・　旧石器時代石器資料、縄文時代（草創期・早期・前期・後期）資料



展示室風景Ⅰ



展示室風景Ⅱ

（５） 緊急企画展「弥次ヶ湯古墳とその時代」

企画展示，特別展示は，博物館活動の最も注目される活動の一つである。この活動によって，博物館活動が一般に評価されるといっても過言ではない。つまり，日頃の博物館の調査･研究活動を発表する場であり，日常見ることができない資料を公開する事で文化意識の高揚がはかられる。

通常博物館の常設展示は，恒常的な資料展示を行なうことが目的となっている。一方，企画展示・特別展示は，短期的に，テーマを持って行なわれるものである。このことによって，博物館の活性化がはかられ，また，博物館のリピーターを増やすことができるものと考えられる。

ａ．目的　１１月段階で弥次ヶ湯古墳の存在が確認されており，この学術的な重要性を鑑み，緊急に企画展を開催したものである。従来，指宿市を含む薩摩半島では，古墳の存在は知られておらず，また，古墳自体が不在の地域とされていた。このような状況で，指宿市に古墳が存在することが判明したことは，従来の古墳分布線を書き換えるとともに，薩摩半島の古墳時代の従来のイメージを刷新する成果となっている。しかし，この弥次ヶ湯古墳が持つ意味は，それだけには留まらない。この古墳の形態や構造，そして，主体部の形態によって，薩摩半島北部の影響で成立した古墳であるのか，または，大隅半島の影響で成立した古墳であるのかといった問題なども提起される。

これまでの南部九州における古墳研究の現状を把握し，そして，今後予想される問題を予測しながら，博物館における諸活動を展開するためには，このような企画展示を実施し，市民や一般来館者にその到達点を示すことは重要であると考えられる。 このような意図により，今回の企画展示を行なった。

ｂ．会期　　平成１１年１月１日（金）～１月３１日（日）
ｃ．場所　　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ　　２階特別展示室
ｄ．内容　　緊急企画展示『弥次ヶ湯古墳とその時代－南九州の古墳を探る－』

大テーマ
①古墳時代とは
②古墳とは
③南九州の古墳時代
④指宿の古墳時代
⑤弥次ヶ湯古墳の発見
⑥古墳の系譜
⑦日向系古墳
⑧肥後系の古墳
⑨土壙墓
⑩南九州の古墳文化

資料点数　１１０点

ｅ．成果

本企画展では，指宿市で発見された弥次ヶ湯古墳を通じて，南部九州の古墳時代の概要を全体的に理解できるような展示を実施した。従って，展示解説図録も，弥次ヶ湯古墳に加え，県内全域の古墳について概観し，その上で，弥次ヶ湯古墳の評価を明確にした。

来場者からは，南九州の古墳時代全体が理解できるという声も聞かれた。このような企画展を継続的に実施していく事で，指宿市の文化高揚がはかられると同時に，博物館の活性化につながるものと考えられる。

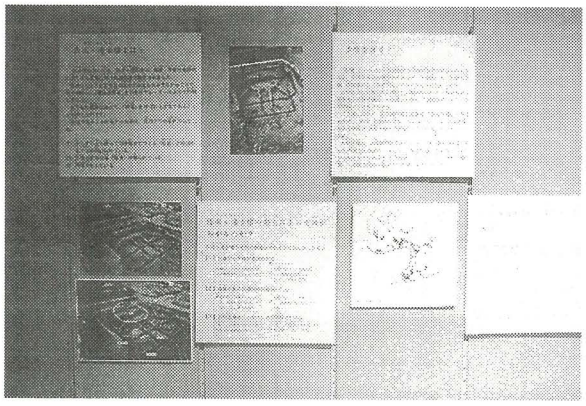
入場者数　　１，１０３名

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ企画展示『弥次ヶ湯古墳とその時代ー南九州の古墳を探るー』

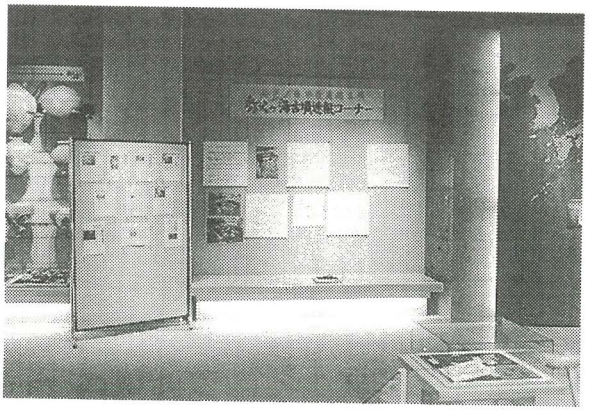
	大テーマ	中テーマ	小テーマ	資料種別	内 容
NO.1			あいさつ	解説パネル	館長あいさつ
NO.2	古墳時代とは			解説パネル	古墳時代の位置付けと概要
NO.3				写真	横瀬古墳全景
NO.4				表	年表
NO.5	古墳とは	古墳の発生と意味		解説パネル	古墳伝播と大和政権
NO.6				図	
NO.7		古墳の種類		図	
NO.8		副葬品の意味		解説パネル	
NO.9	南九州の古墳時代	南九州の墓制の状況		解説パネル	南九州墓制の概要
NO.10				図	墓制分布図
NO.11	指宿の古墳時代	古墳時代集落分布		解説パネル	指宿の古墳時代の概要
NO.12				図	古墳時代集落遺跡分布図
NO.13		威信財の意味		解説パネル	威信財とは・・・
NO.14				子持勾玉	
NO.15				鈴	
NO.16				解説パネル	初期須恵器の分布について
NO.17				須恵器(高坏)	
NO.18				須恵器(坏)	
NO.19				須恵器(はそう)	
NO.20				須恵器(長頸壺)	
NO.21				鉄器	
NO.22	弥次ヶ湯古墳の発見		弥次ヶ湯古墳とは	解説パネル	発見の経緯、プロフィール
NO.23				写真	全景、鳥瞰
NO.24				図	弥次ヶ湯古墳模式図
NO.25				図	弥次ヶ湯古墳の構造
NO.26				土器	弥次ヶ湯古墳周溝出土資料
NO.27			弥次ヶ湯古墳の背景	解説パネル	橋牟礼川遺跡等の状況
NO.28			弥次ヶ湯古墳の意義	解説パネル	通説との比較
NO.29				図	古墳分布域の広がりを示す
NO.30		古墳時代の南九州の	ハヤトとの関連	解説パネル	考古遺物からの見解
NO.31		社会像に迫る		解説パネル	文献史学からの見解
NO.32				図・表	ハヤト関連年表
NO.33	古墳の系譜			解説パネル	日向系・肥後系の古墳
NO.34				図	系譜と伝播ルート
NO.35				写真	
NO.36	日向系古墳		大隅の古墳	解説パネル	大隅の古墳とその意義
NO.37				写真＋図	横瀬古墳

NO.38				陶質土器	横瀬古墳資料
NO.39				円筒埴輪	横瀬古墳資料
NO.40				解説パネル	岡崎４号墳
NO.41				写真＋図	岡崎４号墳
NO.42				須恵器(はそう)	上小原古群資料
NO.43				須恵器	上小原古群資料
NO.44			地下式横穴	解説パネル	地下式横穴とは
NO.45				解説パネル	島内地下式横穴について
NO.46				解説パネル＋図	短甲一式
NO.47				短甲一式	島内地下式横穴
NO.48				解説パネル	蛇行剣についての解説
NO.49				図	蛇行剣の分布
NO.50				蛇行剣	島内地下式横穴
NO.51	肥後系の古墳		北薩の古墳	写真	鳥越古墳
NO.52				解説パネル	北薩の古墳とその意義
NO.53				写真＋図	白金崎古墳
NO.54				勾玉	白金崎古墳資料
NO.55				切子玉	白金崎古墳資料
NO.56				金環	白金崎古墳資料
NO.57				管玉	白金崎古墳資料
NO.58				丸玉	白金崎古墳資料
NO.59				小玉	白金崎古墳資料
NO.60			地下式板石積石室	解説パネル	地下式板石積石室とは
NO.61				写真＋図	横岡古墳＋模式図
NO.62				鉄鏃	横岡古墳資料
NO.63				直刀	横岡古墳資料
NO.64				銀環	横岡古墳資料
NO.65				蛇行剣	横岡古墳資料
NO.66				須恵器(坏・蓋)	横岡古墳資料
NO.67	土壙墓		土壙墓	解説パネル	土壙墓とは
NO.68				写真＋図	南摺ヶ浜遺跡＋模式図
NO.69				高坏	南摺ヶ浜遺跡資料
NO.70				坩	南摺ヶ浜遺跡資料
NO.71				環頭大刀	亀ノ甲遺跡資料
NO.72	南九州の古墳文化		古墳文化の流入	解説パネル	
NO.73				鏡	東免遺跡資料
NO.74				鈴	中尾遺跡資料
NO.75				鏡片	麦ノ浦貝塚資料
NO.76				鏡	向栫城資料

NO.85				鉢形土器	中尾遺跡資料
NO.86				台付き鉢	中尾遺跡資料
NO.87				坩	中尾遺跡資料
NO.88				高坏	東田遺跡資料
NO.89				蓋	東田遺跡資料
NO.90				壷	東田遺跡資料
NO.91				甕	東田遺跡資料
NO.92				坩	東田遺跡資料
NO.93				甕	外川江遺跡資料
NO.94				壷	外川江遺跡資料
NO.95				小型壷	外川江遺跡資料
NO.96				ミニチュア	外川江遺跡資料
NO.97				土師器壷	城山山頂遺跡資料
NO.98				小型丸底壷	城山山頂遺跡資料
NO.99				高坏	城山山頂遺跡資料
NO.100				小型甕	城山山頂遺跡資料
NO.101				小型壷	城山山頂遺跡資料
NO.102				器台	城山山頂遺跡資料
NO.103				高坏	白糸原遺跡資料
NO.104				碗	白糸原遺跡資料
NO.105				壷	白糸原遺跡資料
NO.106				家形埴輪写真	



展示室風景Ⅰ



展示室風景Ⅱ

（６） ミニ企画「弥次ヶ湯古墳発掘調査速報コーナー」設置

弥次ヶ湯古墳の発見は、「本土最南の古墳発見」ということもあり、報道各社によって大きく取り上げられた。

指宿市教育委員会では、報道発表直後の平成１０年１１月２８日と２９日の２日間に渡り、弥次ヶ湯古墳の現地説明会を開催、一般に公開した。両日で９００名の見学者の来訪があったが、その後もＣＯＣＣＯはしむれに、多くの問合せが寄せられた。

このため、時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは、速報展示として第４展示室の一角に展示コーナーを設け、出土品や写真などを展示し、弥次ヶ湯古墳古墳時代の集落配置の様相についての展示を提示した。

また、展示室受付においては、弥次ヶ湯古墳の案内図を配置し、見学者の便を図った。

ａ．目的　　弥次ヶ湯古墳の概要とその意義に関して、古墳の写真や若干の遺物を展示し、古墳発見の意義の理解を促す。また、展示室の中にも若干の展示変化を持たせると同時に、常設展示の付加価値を高める。

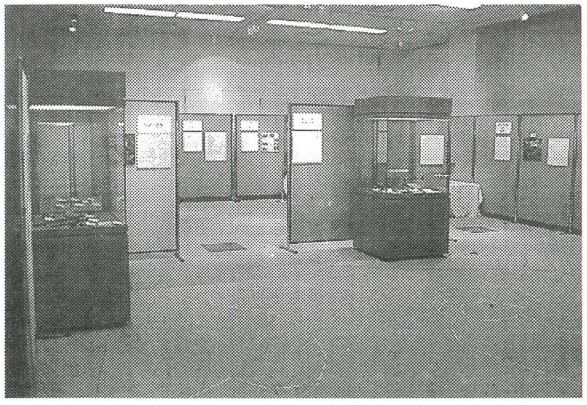
ｂ．会期　平成１０年１２月１８日（金）～平成１１年３月３１日（水）

ｃ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ常設展示室（第４展示室）

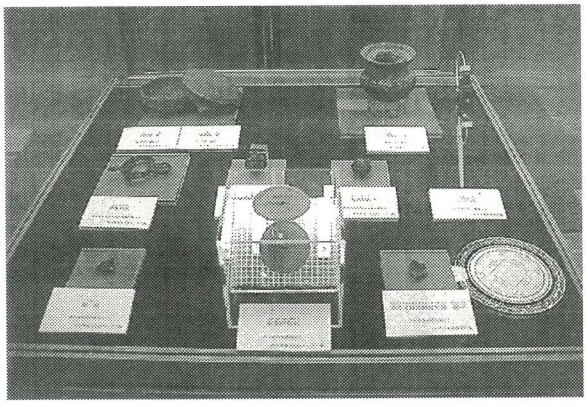
ｄ．内容　入場料は常設展示観覧料。弥次ヶ湯古墳の写真パネル、解説パネル、新聞掲載記事、関連する遺物などを展示。

ｅ．成果　常設展示室は、基本的には恒常的な展示内容を提示する所であるが、新発見や学説の変化などに応じて部分的に改変し、常に新しい内容を盛り込むことも重要である。今回のコーナーの開設は一時的なものであるが、それでも常設展示室に新しい情報を付加する試みとして重要である。

来館者は新しい情報が付加されていることを知り、常に、新しい情報が加えられていることに好意的な印象を持つことと考えられる。



速報コーナー全景



速報コーナーパネル部分

（７） 第２３回全国遺跡環境整備会議開催

ａ、趣　旨

遺跡の環境整備を円滑に行うため、全国の自治体の関係者が集まり、遺跡環境整備についての新しい技術及び方法の研修を行い、各地で進められている遺跡環境整備に役立てるとともに、あわせて遺跡の保存と活用に資することを目的とする。

ｂ、主　催

第２３回全国遺跡環境整備会議実行委員会
（鹿児島県教育委員会・指宿市教育委員会）

ｃ、会　期

平成１０年１１月１２日（木）～１３日（金）

ｄ、会　場　　ふれあいプラザなのはな館・時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ

ｅ、議　題

「史跡活用のためのソフト事業の展開について」
（イベント等の展開・ボランティア育成・史跡の施設を利用したソフト事業等）

ｆ、日　程

第１日　研究討議

１２：３０～１３：３０　受付
１３：３０～１３：４５　開会行事
１３：４５～１６：５５
①研究協議
②事例報告

青森県教育委員会	上野茂樹　文化財保護主査
「三内丸山遺跡」	
千葉県千葉市加曽利貝塚博物館	村田六郎太学芸係長
「加曽利貝塚」	
大阪府羽曳野市教育委員会	辻葩　学　技術職員
「翠鳥園遺跡」	
佐賀県教育委員会	納富敏雄　企画調整主査
「吉野ヶ里遺跡」	
鹿児島県指宿市教育委員会	渡部徹也　主事
「指宿橋牟礼川遺跡」	

③指導・助言

文化庁文化財保護部記念物課	田中　哲　主任調査官
同	本中　真　調査官
奈良国立文化財研究所	内田和伸　技官

１６：５５～１７：１０　次期開催地挨拶
閉会行事

１７：１０～　　移　　動
１８：３０～２０：３０　情報交換会・宿泊（指宿シーサイドホテル）

第２日　現地検討会

８：３０～　９：３０　①現地見学（ガイダンス施設・指宿市考古博物館・国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡）
９：３５～１０：４５　移　　動
１０：５０～１１：２０　②現地見学（知覧町国指定史跡知覧城）
１１：２０～１１：３０　移　　動
１１：３０～１１：５０　③現地見学（知覧麓伝統的建造物群保存地区）
１１：５０～１２：００　移　　動
１２：００～１２：１０　閉会行事
１２：１０～１３：００　＜昼　　食＞（知覧パラダイス）
１３：００～１４：３０　移　　動
１４：３０～１５：３０　④現地見学　（上野原遺跡）
１５：３０～１６：１５　移　　動
１６：１５　鹿児島空港
１６：１５～１７：００　移　　動
１７：００　西鹿児島駅

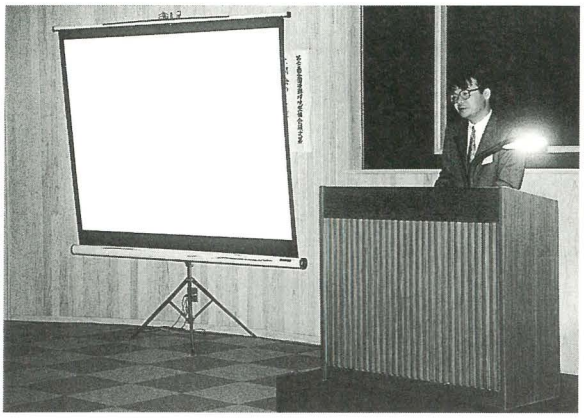
ｇ．参加者
１８７名（１８３団体）

会場全景（ふれあいプラザ菜の花館）

事例報告会場

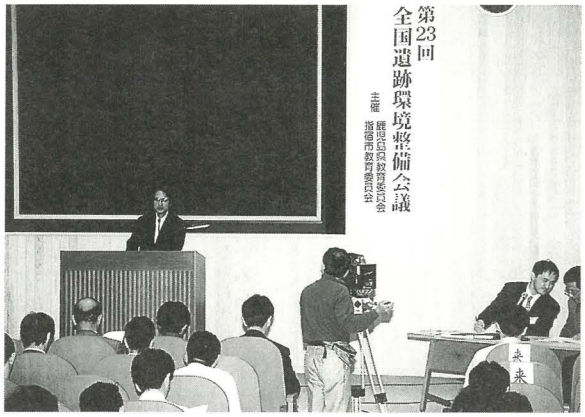
青森県事例発表

千葉県千葉市事例発表

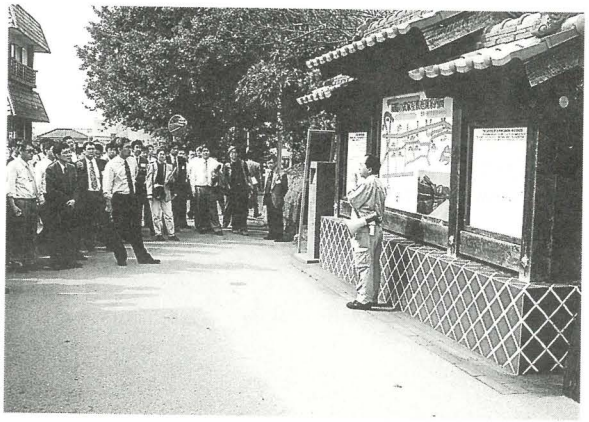


大阪府羽曳野市事例発表

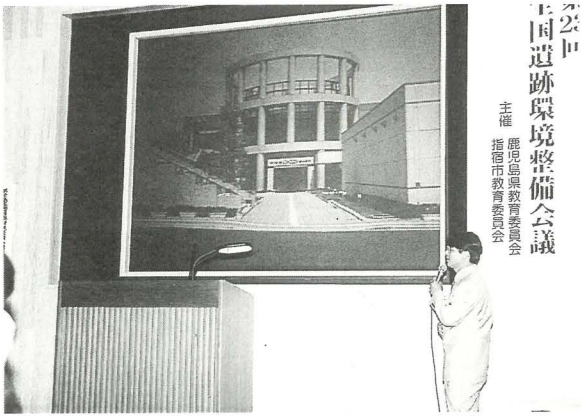
知覧城見学



佐賀県事例発表



知覧麓伝統的建造物群保存地区見学



指宿市事例発表

上野原遺跡見学

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ見学

（８） いぶすきシルバー美術展

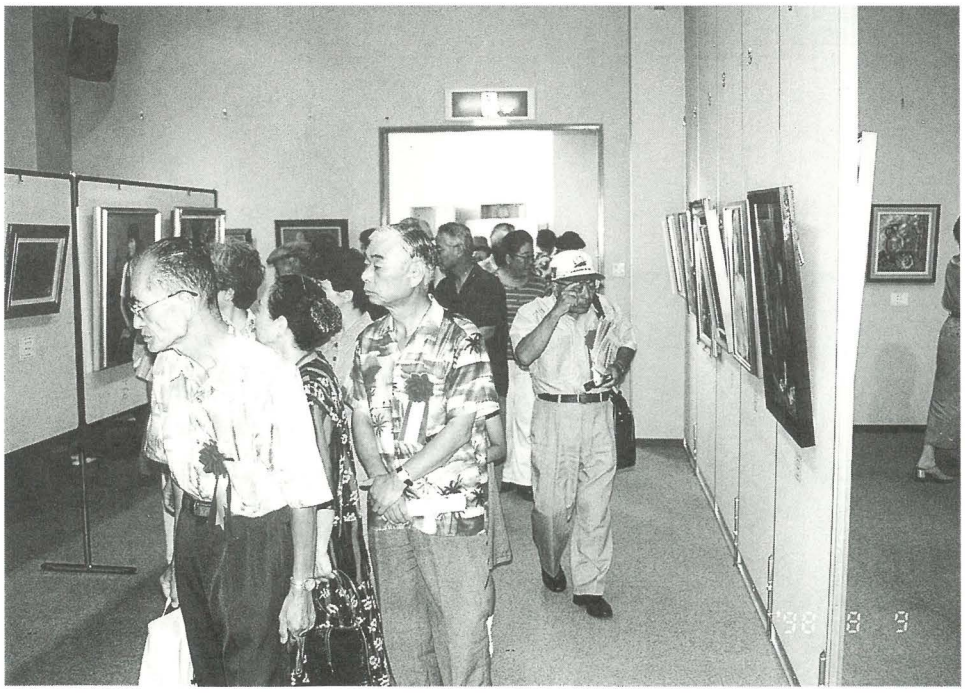
指宿市においては、生涯学習における高齢者の創作活動の一般公開の場として、また、芸術文化の振興に寄与することを目的として平成２年度から開催しており、今年度で第９回目を迎える。

ａ．日時　平成１０年８月９日（日）～２３日（日）
ｂ．主催　指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会
ｃ．出展作品数　２４９点（市内１５点・市外２３４点）
ｄ．出展者数　１９４名（市内１４名・市外１８０名）
ｅ．最高齢者　９６歳　（鹿児島市）
ｆ．平均年齢　７０．１歳

ｇ．年齢別構成
６０歳代	８３名
７０歳代	９５名
８０歳代	１４名
９０歳代	２名

ｈ．出展作品種別
洋　画	１３５点
水彩画	１４点
日本画	２７点
水墨画	４４点
ちぎり絵	２４点
版　画	２点
七　宝	１点
切り絵	２点

ｉ．入場者数　３９２９名



いぶすきシルバー美術展開催風景

（9） ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会

ａ．目的

指宿市考古博物館では、「名画１００選」からソフトを選択し、これを上映する「ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会」を館独自の企画事業として行った。上映作品は下表のとおりである。

ｂ．日時

ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会は、毎月１回のペースで開催した。上映時間は、会場となる歴史劇場での「開け！大地のタイムカプセル」（橋牟礼川解説映像）等の上映とのバッティングを避けるため、土曜日夜７時から行うこととした。これに合わせて、常設展示室の夜間公開を行った。

ｃ．場所　歴史劇場

ｄ．内容

来館者の年齢層は中高年の入場者が主体を占めているが、上映ソフトによっては、小中学生も来館している。地域博物館の活動のひとつの方向性として、今後ともＣＯＣＣＯ名画鑑賞会を継続してゆくべきと考える。

ｅ．主催　指宿市教育委員会

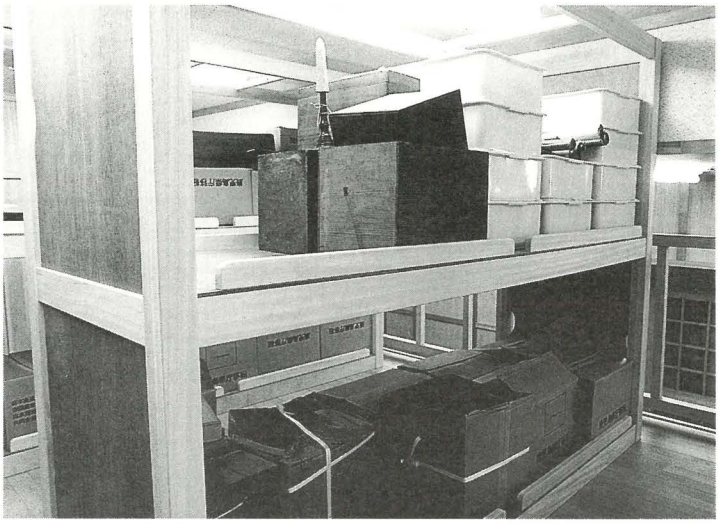
ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会平成１０年度日程

日　時	映 画 名 称	備　　考
5月3日	ガリバー旅行記	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ特番
5月4日	ガリバー旅行記	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ特番
5月5日	ガリバー旅行記	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ特番
5月23日	黄金狂時代	
6月27日	ヒズガールフライデー	
7月25日	ガリバー旅行記	
8月22日	ぼくの村は戦場だった	
9月26日	ストーカー	
10月24日	ある夜の出来事	
11月28日	伊豆の踊り子	
12月26日	道	
1月23日	裁きは終わりぬ	
2月27日	間諜最後の日	

(10) 博物館資料保存・修復活動（実物資料・書籍・写真等）

ａ．目的　博物館の基幹をなす事業の一つとして、資料の保存・修復活動を実施した。
ｂ．場所　復元作業室
ｃ．内容　　今年度は、個人からの寄託物件と旧専売公社跡地倉庫内に収蔵されていた民俗資料・文書資料等について、燻蒸作業を実施した。燻蒸作業は、殺かび、殺虫を期して行なった。
燻蒸作業の完了後は、資料を寄託物件に関しては特別収蔵庫へ収納し、民具資料の内農具などに関しては、一般収蔵庫へ収納した。また、発掘調査によって出土した遺物の復元・整理作業を行った。
ｄ．燻蒸実施実績

平成１０年	６月１７日～	６月１８日	古文書・民具燻蒸
	６月２２日～	６月２３日	古文書・民具燻蒸
平成１１年	２月２３日～	２月２４日	民具燻蒸



特別収蔵庫内風景Ⅰ

特別収蔵庫内風景Ⅱ

(11) 学芸員研究活動

ａ．研究課題　　『考古学的手法による災害履歴分析について』

ｂ．研究助成機関　　財団法人日本科学協会

ｃ．研究助成金額　　７００，０００円

ｄ．研究期間　　平成１０年４月１日～平成１１年２月１５日

ｅ．研究の目的

過去の災害によって様々な文化要素が変化することが指摘されているが、多様な過去の災害を分析することについての考古学的手法や理論に関する研究は途上であり、今後の研究の深化が望まれる。

特に、これらの課題を解決するためには、災害のプロセスに応じて、被災者がどのような評価を下し、激変した環境に適応する行為（災害適応）を試みたかという点について事例を収集し、それを体系的に整理する必要があると考えられる。

今回の研究は、考古学的手法によって収集された過去の災害情報を得て、特に、被災者の評価と適応という観点から、それぞれの文化項目ごとに災害のプロセスに準じて整理することを目的とする。

また、整理した事例をもとに、分類を実施し、時系列に沿って配列することで、災害によって、どのような文化の変化を遂げたのかを明らかにする。

ｆ．研究実施項目とその内容

① 災害情報を有する発掘調査報告書などによる事例収集
（内容）　全国の災害遺跡について、「火山災害」「地震災害」「洪水災害」「火災災害」等の項目分類を設け、事例の収集に当たる。文献と調査票に基づき事例のデータベース化を進める。

② 災害情報を有する遺跡についての文献調査
（内容）　災害遺跡に関する文献を網羅的に収集する。これは発掘調査報告書に限らず、論文集等も対象とし、研究史についても詳細にまとめる。

③ 保管資料としての歴史文献の調査
（内容）　歴史上の文献で、災害に関する文献を収集し、過去の災害評価などに関する分析の補完的な資料とする。特に、発掘調査で明らかになった災害に関する調査を行う。

④ 災害の質・規模に関する自然科学分野の文献調査
（内容）　災害発生時にかかわるメカニズムとプロセス理解のための補助的な資料とする。

ｇ．研究実施経過

５月　８日～１０日	災害文献調査　　於：国立国会図書館
５月２２日～２４日	災害遺跡名集成　於：東京国立文化財研究所
５月１１日～２０日	自然科学系文献調査依頼
５月２０日～３１日	災害遺跡調査票作成
７月３０日	火山災害調査票発送
７月３０日	地震災害調査票発送
７月３０日	その他災害調査票発送
８月３１日	火山災害遺跡調査票回収分検討分類
９月１０日	火山災害遺跡追加調査依頼
９月３０日	地震災害遺跡調査票回収検討分類

９月１０日　　地震災害遺跡追加調査依頼
１０月　１日～　　各調査票分類作業
１０月　１日～　　各調査票入力作業
１１月　１日　　文献資料調査・検討
２月　１日　　文献資料調査・検討
２月　２日～　　報告書『全国災害遺跡事例集（仮称)』印刷

※　学芸員研究成果は、紀要編に掲載。

(12)　博物館教育・普及活動（ミュージアムティーチャー会による解説活動）

ａ．目的　博物館の教育普及活動の最も基礎的な業務の一つである常設展示の案内・解説について、恒常的な情報の提供、教育普及効果の向上を目的にミュージアムティーチャー制度を導入した。安定したサービスの供給に向けて、MT会に委託することによって成立している。

ｂ．内容　ミュージアムティーチャーの組織は下記のとおりである。
ミュージアムティーチャー３名　案内・解説業務
アシスタントティーチャー３名　受付、もぎり業務、および案内・解説業務の補助

ｃ．成果　ミュージアムティーチャーの解説活動については、来館者から、「他の博物館では、ゆっくりと説明をしてもらえないが、時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは、丁寧な説明・案内があって分かりやすい。」というような評価が多い。今後も継続して恒常的に案内・解説業務の提供を行っていくことが必要である。

(13) ミュージアムティーチャー研修会

ａ．目的　研修会を通じて、ミュージアムティーチャーやアシスタントティーチャーの資質を向上し、博物館において、より高い質のサービスを提供することを期する。
ｂ．場所　歴史劇場研修室
ｃ．内容　全６回の研修会を実施した。
第１回　：平成１０年４月２２日（水）
・ゴールデン・ウィークイベント・学習支援活動計画について
第２回　：平成１０年６月２４日（水）
・学習支援（学習プログラム・ワークシート）の作成について
第３回　：平成１０年９月２４日（水）
・体験学習（火おこし・土器の模様付け）の問題点
・博物館実習受入れについて
第４回　：平成１０年11月２５日（水）
・弥次ヶ湯古墳の見学について
第５回　：平成１１年１月２７日（水）
・解説業務の再確認
・屋外施設の建設
・はしむれ友の会の発足について
第６回　：平成１０年３月２４日（水）
・平成１０年度の反省
・次年度の活動内容について

(14) 『ＣＯＣＣＯだより』の発刊

情報紙『ＣＯＣＣＯだより』における広報

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれにおいては、市民もしくは市外の多くの方々の生涯学習の場として博物館を活用してもらうために、博物館での開催行事の情報提供と文化情報の発信を行なっている。

ＣＯＣＣＯだよりは、平成８年８月号から毎月発行しており、平成１１年３月号で、通算３２号を数えている。

時遊館CoCCoはしむれ　お知らせ版　第21号　平成10年4月1日発行　指宿市教育委員会社会教育課

開館2周年

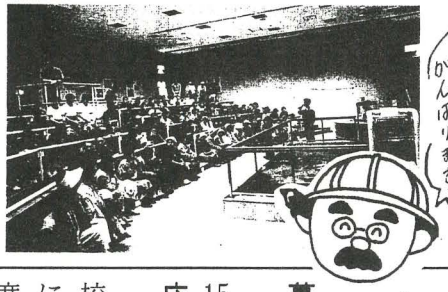
COCCOだより（コ　コ）

指宿市考古博物館「時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ」お知らせ版

4月号

お問い合わせ
23－5100

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれは、4月20日で開館3年目を迎えます。これまで、13万3千人の方々の来館がありました。旅行会社からは、ＣＯＣＣＯはしむれと上野原遺跡をメインにした鹿児島観光のツアープランも売り出されています。古代の遺跡ブームにわいた平成9年度の鹿児島でしたが、当館も今後とも歴史・文化情報の発信基地としてユニークな活動を展開していきたいと思います。



オーストラリアホームステイ

第8回指宿市青少年海外派遣参加者募集のお知らせ

姉妹都市オーストラリアのロックパンプトン市でホームステイしながら国際交流を体験してみませんか。募集の詳細は次のとおりです。

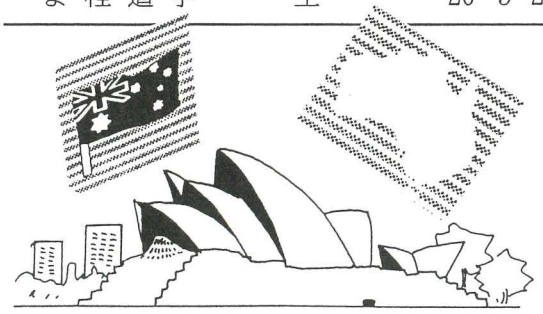
研修期間
平成10年7月20日（月）～8月9日（日）まで、20泊21日

募集人員と応募資格
市内在住の心身ともに健康な中・高生15名

応募方法と応募先
応募申込用紙（各学校にあります）に学校長の応募承諾書、作文「青少年海外派遣に応募して」（四百字詰め原稿用紙3枚程度）を添えて、**平成10年4月24日（金）**までに各学校長まで提出してください。

費　用
四十万二千円（うち二十四万円については市補助金があります）

お問い合わせ
詳しくは、ＣＯＣＣＯはしむれ内、社会教育課社会教育係まで
電話23－5200

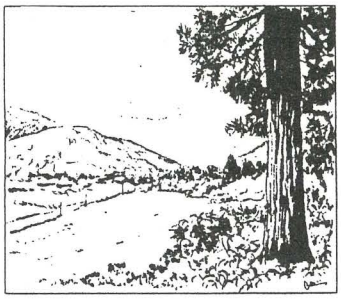


指宿商業高校生徒作品展開催

指宿商業高校の生徒作品、絵画20点、点描画9点、書道35点が一堂に展示されます。若さあふれる作品の数々にふれてみませんか。入場は無料です。みなさまのおいでをお待ちしております。

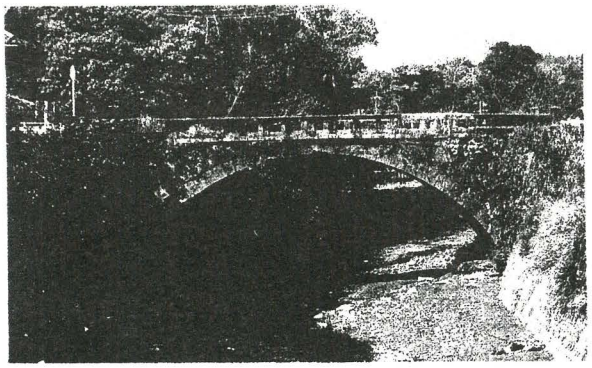
期　間　平成10年4月1日（水）～12日（日）

会　場　COCCOはしむれ1階ロビー



指宿に残る江戸時代

第3回　湊川橋



鹿児島市に五石橋がかけられた頃、指宿でも、肥後の石工、岩永三五郎によって湊川橋が造られました。幅約4m、長さ約19mの石橋は、宮ヶ浜や指宿の港と市内要所を結ぶ重要な役割を果たしていました。当時、様々な物資がここを通り各地に運ばれ、また、たくさんの人々がこの橋を往来して経済や文化の発展・交流を支えていたのです。

COCCOまんが道場

古代の人々にとって狩りは、大切な仕事の一つでした。親から子。子から孫へとその技術は代々伝えられていったのです。狩りをはじめたばかりの男の子は、きっと早く上達するように練習を重ねたことでしょう。

4月の休館日

4月6、13、20、22、27日は休館日です。

楽しいイベント満載!!

ゴールデンウィークは時遊館へ

COCCOだより

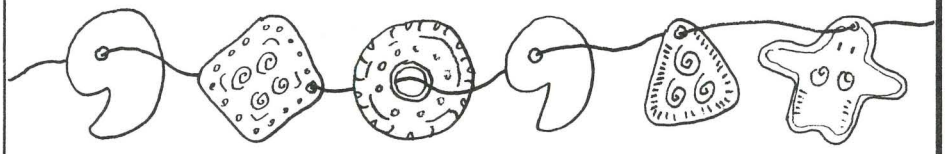
（ココ）

指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版

5月号

お問い合わせ
23－5100

親子で体験!!
古代まがたまアクセサリーづくり



古代をイメージしたオリジナルアクセサリーを作ってみませんか。勾玉を焼く時には 火起こし体験もできます！

5月3、4、5日の3日間
午前10：30～正午、
午後1：00～4：00まで
場　所　1階講堂
参加料　1人500円
（入館料別）

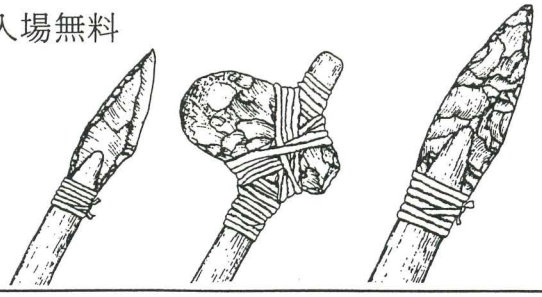
先着100名様
古代おにぎりプレゼント

5月3,4,5日の3日間、ご入場いただいた先着100名の皆様に赤米の「古代おにぎり」をプレゼントいたします。古代の味をお楽しみ下さい。

指宿･喜入発掘速報展

指宿市南迫田遺跡、中尾迫遺跡や喜入町帖地遺跡など平成9年に話題になった遺跡の速報展を開催します。

期間　4月29日（水）～5月5日（火）
会場　2階特別展示室
入場無料



こども名画劇場

ガリバー旅行記

字幕スーパー版（86分）

5月3、4、5日の3日間、午後3時からCOCCOはしむれ1階歴史劇場で上映します。
入場料大人五百円、大学・高校生四百円、小・中学生三百円（常設展示見学料金含む）

ゴールデンウィーク期間と5月の休館日

- 4月27日（月）
- 5月6日（水）
- 5月11日（月）
- 5月18日（月）
- 5月25日（月）
- 5月27日（水）

はじめての人のためのインターネット講座

5月3，4日の2日間インターネット講座を開講します。
場 所　1階研修室
5月3日
午後1：00～3：00
「インターネットってどんなもの」
5月4日

午後1：00～3：00
「使おう！インターネット」
受講料は無料です。お気軽にご参加ください。

COCCO名画クラブ会員募集

平成10年度、ＣＯＣＣＯはしむれでは下記の日程で名画鑑賞会を開催します。
開催に伴い名画クラブ会員を募集いたします。会員特典として10回分を1セットにした前売券を1割引の4000円で販売いたします。詳しくはＣＯＣＣＯはしむれ文化係までお問い合わせ下さい。なお、本券で常設展示もご覧いただけます。

上映予定

5月3～5日	ガリバー旅行記
5月23日	黄金狂時代
6月27日	ヒズガールフライデー
7月25日	ガリバー旅行記
8月22日	僕の村は戦場だった
9月26日	ストーカー
10月26日	ある夜の出来事
11月28日	伊豆の踊り子
12月26日	道
1月23日	裁きは終わりぬ
2月27日	間諜最後の日

鹿児島考古巡回展来る!!

COCCOだより（コココ）
指宿市考古博物館「時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ」お知らせ版
6月号
お問い合わせ
23－5100

鹿児島県下の発掘調査によって出土した貴重な資料をわかりやすく展示する、『鹿児島考古巡回展』（鹿児島県埋蔵文化財センター主催・指宿市教育委員会共催）が、きたる平成十年七月四日から七月三一日まで、時遊館ＣＯＣＣＯはしむれで開催されます。

今年度のテーマは「上野原縄文人と古代ハヤトの人々」と題し、最近注目されている上野原遺跡の出土品をはじめとして、中国からの輸入陶磁器が多量に発見された金峰町持体松遺跡などの出土品など、貴重な資料をご覧いただけます。この展示会のみ入場料は無料です。鹿児島の古代ロマンをこころゆくまでご堪能ください。

また、平成十年七月十九日一時から、時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ講堂では「火山灰と闘ったムラの様子」と題し鹿児島県立埋蔵文化財センターの冨田逸郎文化財主事による講演会も実施されます。講演聴講料は無料です。こぞってご参加ください。

COCCOセミナー開催予定のお知らせ

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは、好評を頂いております毎年恒例のＣＯＣＣＯセミナーの開催をいたします。

毎回、さまざまな分野の専門家による肩の凝らない歴史を中心とした楽しいお話を頂いております。参加費は無料です。毎回午後3時から開催いたします。

今年も多数のご参加をお待ち申し上げております。

年月日	曜日	演題	講師	所属機関
7月11日	土	縄文土器とその世界	本田 道輝	鹿児島大学法文学部助教授
9月5日	土	南九州と東南アジアの民俗比較	川野 和昭	県歴史資料センター黎明館学芸主事
10月3日	土	隼人と律令制	永山 修一	ラ・サール学園教諭
11月21日	土	天璋院篤姫をめぐる人々	松尾 千歳	尚古集成館学芸係長
12月5日	土	陶磁器からみた指宿	鎌田 洋昭	指宿市教育委員会主事
1月23日	土	古代の祭りについて	渡部 徹也	指宿市教育委員会主事
2月13日	土	古代住宅事情について	中摩浩太郎	指宿市教育委員会主事
3月13日	土	火山と遺跡	下山 覚	指宿市教育委員会主査

※　講演題目については、若干の変更がある場合があります。

ＣＯＣＣＯ名画鑑賞会のご案内

平成十年六月二七日（土）午後七時から時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ歴史劇場にて名画鑑賞会を実施いたします。

今回の上映は『ヒズガール・フライデー』です。アメリカの各紙により映画史上に残る傑作とうたわれました。

日本では未公開だった名作を見においでください。（入場料大人５００円・大学高校生４００円・小中学校生３００円）

夏休みは古代にチャレンジに参加しよう！

今年も夏休みに、時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは『古代にチャレンジ』を実施いたします。

古代にチャレンジでは、Ａコース（故郷史跡めぐり・古代人からのメッセージ・古代住居宿泊体験）、Ｂコース（体験発掘調査・古代アクセサリーづくり・古代人からのメッセージ・古代住居宿泊体験）の２つのコースをご用意いたしました。参加費は、一名千円必要です。

募集内容については次のとおりです。ぜひ、ご参加ください。

事前説明会日時・会場　平成10年7月19日（日）午前10時～正午まで　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ

事業実施日

▼Ａコース平成10年7月25・26日（２日間）

▼Ｂコース平成10年8月5・6日（２日間）

会　場　ＣＯＣＣＯはしむれ

対　象　小学４・５・６年生・中学生（毎回20名）

申込方法　電話での申し込みとなります。定員になり次第締め切らせて頂きます。

電　話　２３－５１００

申込先　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ文化係

募集期間　平成10年6月5日～20日

指宿に残る江戸時代

第４回　今和泉島津家墓地

指宿市岩本麓下にあります今和泉島津家墓地には、初代今和泉家の島津忠郷から六代忠冬までの一族の墓が十四基あり、その周りには百基余りの燈篭で囲まれています。

幕末には、時の藩主島津斉彬は、第十代今和泉島津家領主忠剛の娘、篤姫を養女に迎えました。それは、将軍徳川家定の夫人とするためだったのです。家定の亡きあとは、篤姫は天璋院と称しました。

今和泉島津家の歴史を語るこの墓地は、昭和５７年に市指定文化財となっています。

成功させよう！
まごころ揖宿県体
花いっぱい運動
あいさつ運動

訂正

ＣＯＣＣＯだより平成10年４月号の特集記事『指宿に残る江戸時代・第３回湊川橋』中におきまして、「岩永三五郎によって湊川橋が造られました。」と記載いたしましたが、「湊川橋は、岩永三五郎らが造ったものと言い伝えられています。」の誤りでした。

また、ＣＯＣＣＯだより平成10年５月号のＣＯＣＣＯ名画クラブ会員募集記事中の「ある夜の出来事」の上映予定が10月26日となっておりましたが、10月24日の誤りでした。

６月の休館日

６月１、８、15、22、24、29日は休館日です。

COCCOだより

（コ　コ）

指宿市考古博物館「時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ」お知らせ版

7月号

お問い合わせ
23－5100

縄文土器に迫る！

歴史セミナー「縄文土器とその世界」無料

平成10年度第1回歴史セミナーを開催いたします。講師は鹿児島大学助教授の本田道輝先生です。

上野原遺跡を始めとして、今熱く注目されている縄文時代の土器をめぐる世界について、最新の情報を交えた楽しい講演会です。講演聴講料は無料です。皆様のお越しをお待ちいたしております。

日時：平成10年7月11日（土）午後3時～4時30分
場所：時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ1階講堂
対象：市民講座生・一般

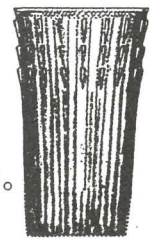
第9回いぶすきシルバー美術展開催

会期　平成10年8月9日（日）～8月23日（日）
場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ　【詳しくは裏面をご覧ください】

親子でどうぞ COCCO名画鑑賞会 ガリバー旅行記

7月25日（土）よる7：00から上映。「ポパイ」のフライシャー兄弟の傑作アニメ。**カラー字幕スーパー版**。場所：歴史劇場。
入場料：大人500円・大学高校400円・小中300円。

いよいよ開催 無料 鹿児島考古巡回展

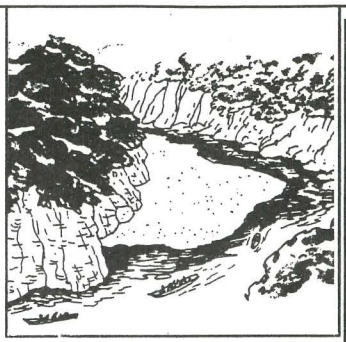


7月4日（土）から7月31日（金）まで開催。
上野原遺跡ほか県内の有名遺跡の出土品をご覧いただけます。

講演会「火山灰と闘ったムラの様子」

7月19日（日）　午後2時開演。講師：冨田逸郎先生（県立埋蔵文化財センター勤務）。聴講無料。

第9回シルバー美術展開催のお知らせ



な美術展です。

洋画・日本画・水彩画・版画・ちぎり絵などの円熟した作品をご堪能ください。

シルバー美術展実行委員会では、市民のみなさまの多数のご来館をお待ちしております。

詳しい美術展の内容につきましては、ＣＯＣＣＯはしむれまでお尋ねください。

シルバー美術展は、県内から公募した60才以上の方々の絵画作品約200点を一堂に展示するユニーク

文化財の防火にご協力を!!

新聞などでご存じのように、実に残念なことではありますが、橋牟礼川遺跡の古代住居2棟が焼失いたしました。

私たちの住む指宿市には、先祖から代々伝えられた貴重な文化財が多数残っています。こうした貴重な文化財は、一度失われてしまうと、二度と私たちのもとには戻って来ません。橋牟礼川遺跡の住居焼失を期に、再度身近な文化財を見直すとともに、文化財の防火にご協力をお願いいたします。

指宿に残る江戸時代

第5回　南迫田遺跡

南迫田遺跡の調査風景
（平成９年度）

平成9年12月に南迫田遺跡の発掘調査が行なわれました。出土品の中には、多数の陶磁器と鍛冶場関連の遺物が多数含まれていました。

陶磁器は、有田などから運ばれたものや、中国南部からもたらされた舶来品があり、近隣に陶磁器の消費地があったことを示しています。また鍛冶場は、当時の道路に沿って置かれたようで、多くの人が集まった町の存在を想像させます。南迫田一帯には、記録には残されていない近世の集落があったのかもしれません。

敷領遺跡発掘調査がはじまります

平成8年度の調査で、古代の建物群や古墳時代の集落跡が発見された敷領遺跡で、今年度も発掘調査が行なわれます。現在、7月中に調査に入る予定です。今年度はどんな新発見があるのか、ご期待ください。

成功させよう！まごころ揖宿県体

はしむれ名物 古代懐石

カフェ　すてっぷあっぷで召し上がれます

7月の休館日

7月6、13、27日

夏休みの始まりの7月19日～22日は休まず開館します！

カフェ・すてっぷあっぷは21日と22日は閉店します。

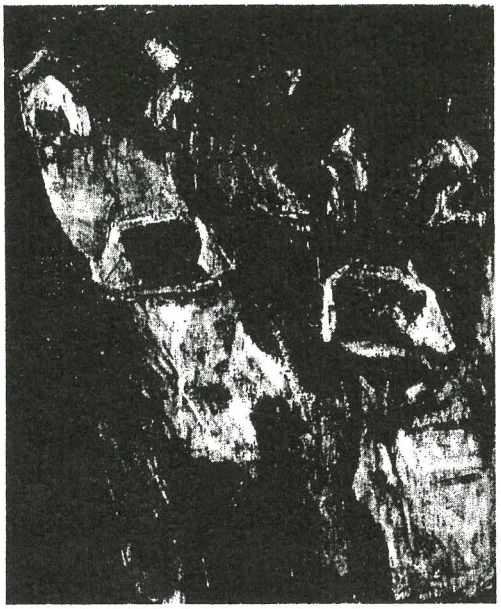
まもなく開催

第9回いぶすきシルバー美術展

シルバー美術展は、県内から公募した60才以上の方々の絵画作品約200点を一堂に展示するユニークな美術展です。洋画・日本画・水彩画・版画・ちぎり絵などの円熟した作品をご堪能ください。

市民のみなさまの多数のご来館をお待ちしております。詳しい内容につきましては、COCCOはしむれまでお尋ねください。

会期　平成10年8月9日（日）～8月23日（日）
場所　時遊館COCCOはしむれ



第8回最優秀作品「瞬きこらえ」樋之口健治氏

COCCOだより

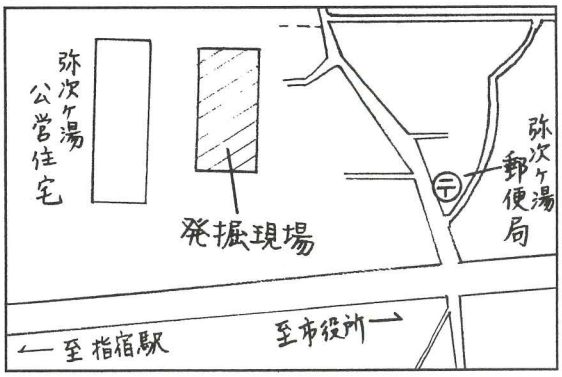
（コココ）

指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版

8月号

お問い合わせ
23－5100

敷領遺跡 発掘調査開始のお知らせ

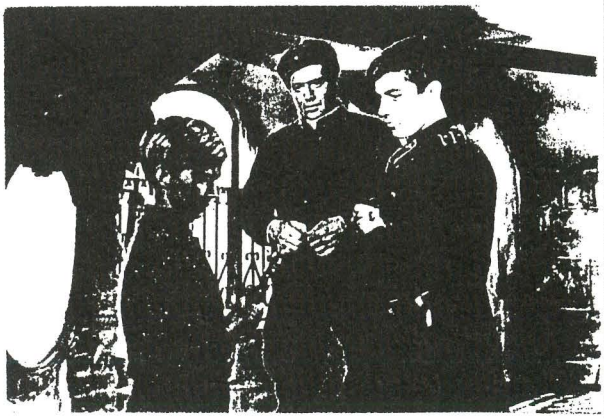


敷領遺跡の発掘調査が開始されます。（8月3日から12月15日までの予定）平成8年度、9年度の調査では、平安時代の田んぼや奈良時代～弥生時代の集落跡が発見されました。今回はどんな発見があるのでしょうか。調査の様子については、COCCOだよりでまたお知らせいたします。

COCCO名画鑑賞会

今回は、1962年ベネチア国際映画祭グランプリ、サンフランシスコ国際映画祭監督賞受賞の名作「僕の村は戦場だった」を上映します。この機会をお見逃しなく！

日　時　8月22日（土）午後7時～
（上映時間　94分）
会　場　歴史劇場
入場料　大人500円・大高校生400円
小中学生300円



平成10年生涯学習講座

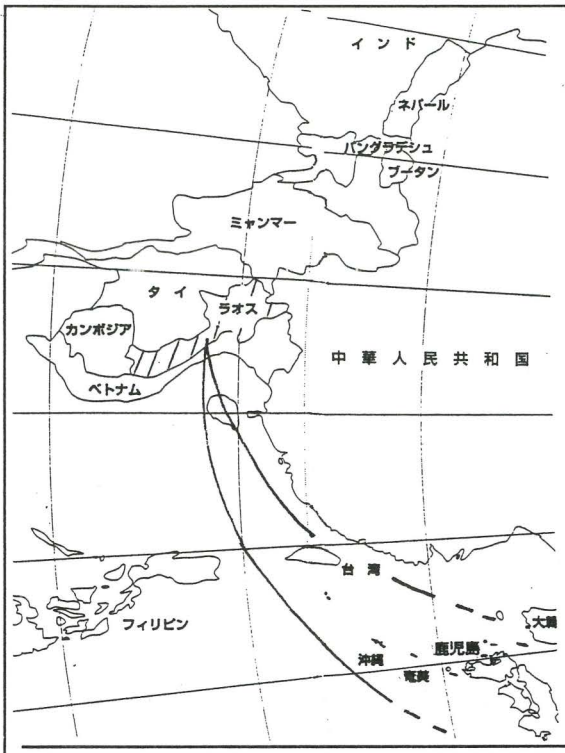
歴史セミナー

ラオスの山岳民族の暮らしと南九州の民俗文化

永い歴史の中で、様々な文化が黒潮にのって鹿児島にやってきました。今回の歴史セミナーは、東南アジアの国「ラオス」の民族の暮らしに鹿児島の民俗の源流を探ります。

日時　9月5日（土）　午後3時から4時30分

講師　川野和昭　先生　（県歴史資料センター　黎明館学芸主事）



子どもの人権感覚は親のひと言から

8月1日から8月31日は人権同和問題啓発強調月間です。

一輪の花　　スローガン「人権は争いふせぐ基本です」

晩秋のこもれ日を浴びながら、落ち葉の感触を楽しんだ山歩きの一日のことです。ひんやりとした心地よい風が、先を歩いていく親子の会話を運んできました。

「お母さん、この花きれいね。何の花」と子どものはずんだ声。やや間があって「ああ、それただの雑草よ」と母親は子どもの言葉をさえぎった様子でした。子どもは「ふうん」と言うなり、今折ったばかりの花を道端に投げ捨てて走り去りました。その足音を耳で追いながら捨てられた花を見ると、それは可憐な「おみなえし」の花でした。子どもは道端にひっそり咲いている一輪の花の美しさに思わず胸をときめかせたのでしょう。ところが母親の何げない一言によって、急にその花がつまらないものに見えたに違いありません。

・・・中略・・・

悪意のない、何げない言葉や態度でも、相手にとっては命にかかわるということもあります。日常生活の中で無意識に相手を傷つけてしまう言葉や態度。それは真に相手の身になって考える姿勢の中からしか、見えてこないのではないでしょうか。　（福岡市啓発資料「あなたの人権　わたしの人権」から）

○ふだん何げなく使っている言葉で、相手を無意識に傷つけていることはありませんか。考えてみましょう。

○心豊かな子どもの成長のために、親としてどのような会話に心掛けたらよいか、考えてみましょう。

8月の休館日

3日（月）
10日（月）
17日（月）
19日（水）
24日（月）
31日（月）
詳しくは当館までお尋ね下さい。

初秋のひととき 歴史にふれてみませんか

平成10年度生涯学習講座 歴史セミナー

※聴講は無料です。

隼人と律令制

日時　10月3日（土）午後3時から4時30分
講師　永山修一先生（ラ・サール学園教諭）

ラオスの山岳民族の暮らしと南九州の民俗文化

日時　9月5日（土）午後3時から4時30分
講師　川野和昭 先生（県歴史資料センター黎明館学芸専門員）

COCCOだより（ココ）
指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版
9月号
お問い合わせ 23－5100

COCCO名画鑑賞会

今回は、1981年公開の旧ソビエトのＳＦ映画『ストーカー』を上映します。

不可思議な立入禁止地帯「ゾーン」。この中心にある「部屋」までいって生還できれば、夢がかなうというううわさが・・・謎の「ゾーン」奥深くにストーカー（密猟者）の案内により作家と物理学者が潜入します・・・

日　時　9月26日（土）午後7時～
（上映時間　163分）
会　場　歴史劇場
入場料　大人500円・大高校生400円
小中学生300円

シルバー美術展閉幕

第9回のシルバー美術展が23日閉幕しました。期間中3929人の入場があり、訪れた人々は円熟した作品の数々に思わず魅せられていたようです。来年は第10回の節目を迎えます。来年もたくさんの方々のご応募をお待ちしております。

敷領遺跡 発掘調査情報

8月3日からスタートした敷領遺跡の発掘調査。開聞岳の火山灰の下から、平安時代の水田の跡が また、幅の広い大きな区画のための畦も見つかりました。弥次ヶ湯付近は、古代から水田経営が行なわれていたようです。調査は12月中旬まで行なわれます。

今、全国で大反響!!
内田玲子先生
（家庭教育カウンセラー）
講演会開催

主な著書
「いじめの根っこ」
「愛のキャッチボール」
「21世紀への旅立ち」
など

期日　11月7日（土）午後3時～4時20分
場所　指宿市民会館大ホール
（市生涯学習推進大会の中で講演）

子育て、不登校、いじめ、非行など青少年をとりまく様々な問題についてお話を聞けます。この機会に関係者はもちろん、全ての方々にぜひ参加いただきたいと思います。皆様のお越しをお待ちしております。

第22回中高生ふるさとの集い
バレーボール大会
優勝は岩本チーム

8月13日（木）、中高生ふるさとの集いが開催されました。美化活動後のバレーボール大会では、岩本チームがみごと優勝をかざりました。中高生、一般を含め約三百人の参加があり、さわやかな汗を流しました。

指宿に残る江戸時代

第6回　田の神さぁ

田の神さぁは、江戸時代に薩摩藩で流行した田んぼの神様の石像です。田んぼのあぜや土手に置かれ、稲の成長を見守り、豊かな実りを願い続けました。指宿市内には46体の田の神さぁが残っています。そのうちもっとも古い田の神さぁは二月田にあるもので、元文五年（一七四〇年）の刻銘があります。食欲の秋、おいしい米には、田の神さぁの願いが込められています。

９月の休館日

７日（月）
１４日（月）
２１日（月）
２４日（木）
２８日（月）

詳しくは当館までお尋ね下さい。

COCCOだより

（コ　コ）

指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版

10月号

お問い合わせ
23－5100

薩摩焼発祥400周年記念

中国弦楽ユースオーケストラ指宿公演開催

薩摩焼発祥四百周年を記念して、中国弦楽ユースオーケストラの指宿公演が下記のとおり開催されます。指宿市からも雅文会と丹波小学校合唱部が出演します。入場は無料です。芸術の秋、中国伝統の音楽はいかがですか。皆様のお越しをお待ちしております。

日　時　10月22日（木）
　　午後6時30分～
会　場　指宿市民会館
入場料　無　料

COCCO名画鑑賞会

今回は、1934年アカデミー賞主要５部門（作品／監督／主演男優／主演女優／脚本）を受賞した恋愛映画の名作『或る夜の出来事』を上映します。

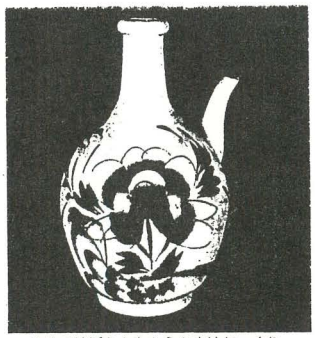
日　時　10月24日（土）午後７時～
　　（上映時間104分）
会　場　歴史劇場
入場料　大人500円・大高校生400円
　　小中学生300円

薩摩焼発祥400周年記念

いぶすき窯元会作品展

薩摩焼発祥四百周年の記念事業の一環として、「いぶすき窯元会作品展」が開催されます。永い歴史の中で育まれた伝統と現代美術の感性がみごとに調和した作品の数々をご堪能下さい。入場は無料です。皆様のお越しをお待ちしております。

期　間　10月17日（土）～
　　11月1日（日）
会　場　２階特別展示室
（月曜日、第４水曜日は休館です。）



染付牡丹文雲助徳利（そめつけぼたんもんうんすけとっくり）
（当館蔵）

いよいよ来月開催！
文化祭・生涯学習推進大会

文化・芸術の秋の到来です。平成10年度の市文化祭・生涯学習推進大会が次のとおり開催されます。

文化祭

展示発表（市総合体育館）
11月7日（土）～8日（日）
舞台発表
11月8日（日）市民会館

生涯学習推進大会

11月7日（土）13時30分～
市民会館
大会テーマ「まなびで築こう南のふるさと」
内容　民俗芸能、意見・体験発表など

記念講演会

家庭教育カウンセラーとして全国で活躍中の内田玲子さんを講師に迎えて、子育て、不登校、いじめなど青少年を取り巻く様々な問題についてお話をしていただきます。入場は無料です。どなたでも参加できますので、ぜひ、おいでください。

成人式実行委員を募集

市教育委員会では、「平成11年度指宿市成人式」の実行委員を募集いたします。

○対象

昭和53年4月2日～昭和54年4月1日までに生まれた人。（各校区から男女1名ずつ、希望者多数の場合は抽選といたします。）

○申込方法

往復はがきに住所、氏名、電話番号を記入し、「成人式実行委員希望」と明記の上、お申し込みください。

○締切　10月31日（土）

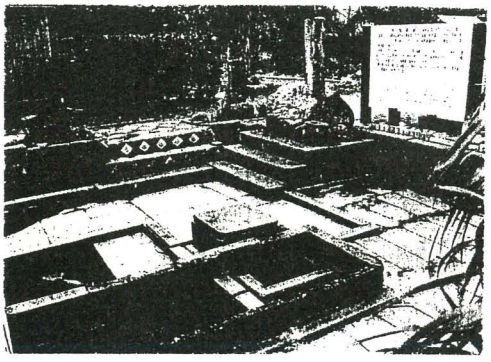
○申込先及び問合せ先

〒891-0403　指宿市十二町2290
時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ
社会教育課　電話 23－5100,5200

指宿に残る江戸時代

第7回 殿様湯跡

島津氏は、元禄の頃には摺ヶ浜、寛政の頃には長ノ井に温泉別館を設けていましたが、天保二年（一八三一年）、この別館を現在の二月田に移しました。その後、島津家代々の藩主の別館として使われ、人々から「殿様湯」と呼ばれるようになりました。現在残っているのは浴室部分だけですが、当時としてはモダンなタイルばりの造りは殿様湯の風格を偲ばせます。浴室の入口には「足軽以下、是より内に入るべからず」と美しい字で彫刻された注意書が今でも残っています。殿様湯跡は泉都指宿の歴史を物語る貴重な文化財です。



10月の休館日

5日（月）
12日（月）
19日（月）
26日（月）
28日（水）

詳しくは当館までお尋ね下さい。

COCCO（コココ）だより

指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版
11月号

お問い合わせ
23－5100

天璋院篤姫の生涯に迫る

数奇の運命に翻弄された将軍夫人

川村清雄が描いた天璋院晩年の肖像画

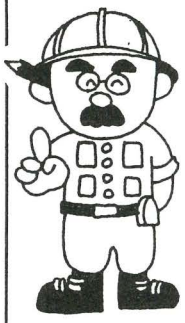
天璋院篤姫は、天保六年（一八三五）十二月、今和泉領主島津忠剛の子として生れ、第十三代将軍徳川家定の正室（妻）となった人物です。

第4回の歴史セミナーはこの篤姫の生涯と彼女をめぐる人々が織りなした歴史のドラマに迫ります。

日時　11月21日（土）
午後3時～4時30分

講師　松尾千歳先生（尚古集成館学芸係長）

※聴講は無料です。皆様のご参加をお待ちしております。



文化祭・生涯学習推進大会

平成10年度指宿市文化祭・生涯学習推進大会が開催されます。皆様のお越しをお待ちしております。

生涯学習推進大会

11月7日（土）13時10分～
市民会館
大会テーマ「まなびで築こう南のふるさと」
内容　民俗芸能、意見・体験発表など

文化祭

講演　内田玲子先生（家庭教育カウンセラー）
演題「こころの教育は家庭教育から」

展示発表（市総合体育館）
11月7日（土）～8日（日）

舞台発表
11月8日（日）

COCCO名画鑑賞会

不朽の名作「伊豆の踊り子」上映

主演：田中絹代

日　時　11月28日（土）午後7時～
（上映時間94分）

会　場　歴史劇場

入場料　大人500円・大高校生400円
小中学生300円

COCCOまんが道場

日本の国土の約70％は森林です。食糧はもちろん、建築材や様々な生活道具にいたるまで、森林資源は古代から人々の生活を支えてきました。

上野原遺跡に代表されるように全国に先駆けて南九州で縄文文化が花開いたのは、豊かな照葉樹林帯の発達があったからとも言われています。市内の遺跡からも大小様々な形の石斧が発見されていますが、これらは、森と人との関りを示す貴重な出土品です。

あざみの会　絵画展開催

COCCOはしむれ2階特別展示室におきまして、あざみの会の絵画展を開催いたします。洋画作品約50点が展示されます。入場は無料です。皆さんのお越しをお待ちしております。

●期　間
11月15日（日）～
11月23日（月）まで

新成人の皆さんへ

平成11年新成人調査および成人式での意見発表の募集について

市教育委員会では、往復ハガキによる平成11年の新成人対象者の調査を行っています。ハガキの届いていない方でも成人式に出席できますので左記までご連絡ください。また、成人式での新成人による意見発表の原稿を左記のとおり募集します。

○成人式
平成11年1月5日（火）
指宿市民会館

○新成人該当者
昭和53年4月2日から
翌年4月1日までに生まれた方

○意見発表のテーマ
①新成人になって思うこと
②私の選んだ道
③21世紀の指宿を夢見て
字数は四百字詰め原稿用紙3枚以上4枚以内

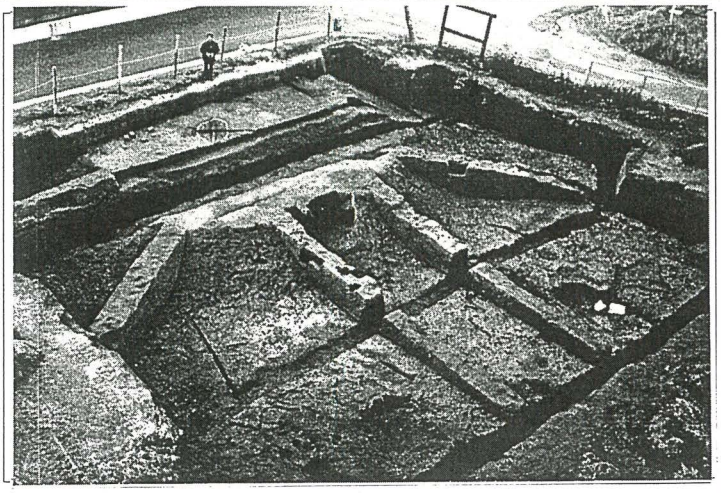
○原稿締切　11月24日（火）

○問合せ、原稿送り先
指宿市十二町2290
時遊館COCCOはしむれ
社会教育課
成人式実行委員会
電話　23の5200

11月の休館日
2日（月）
9日（月）
16日（月）
24日（火）
25日（水）
30日（月）
詳しくは当館までお尋ね下さい。

国内最南端の古墳

弥次ヶ湯古墳



開聞岳火山灰の下から姿を現した弥次ヶ湯古墳。墳丘の直径約18ｍで周囲には境界のための溝がめぐっている。

COCCOだより

（コ　コ）

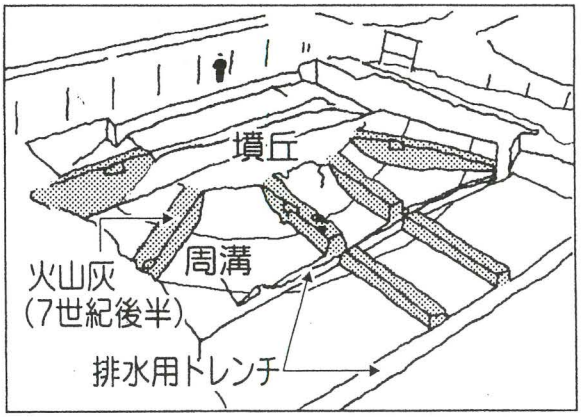
指宿市考古博物館「時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ」お知らせ版

12月号

お問い合わせ
23－5100

古代ハヤトの首長墓

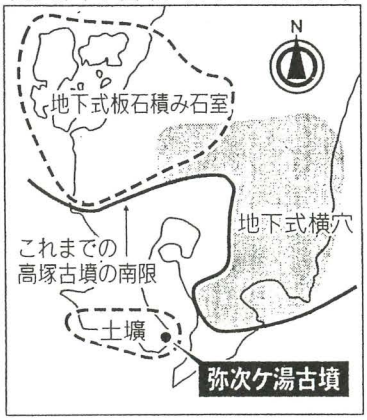
弥次ヶ湯地区の発掘調査現場から、6世紀から7世紀前半にかけて造られたと考えられる古墳が発見されました。古墳は「円墳」と呼ばれる種類のもので、当時指宿を治めていた首長クラスの人物の墓と見られています。



発見状況のイラスト（11月26日付、南日本新聞より）

定説を覆す発見

南九州の古墳時代の墓制分布



（11月26日付、南日本新聞より）

指宿にも「大和」勢力進出か

これまでの考古学の通説では、川内川より南の薩摩半島には、古墳はないと考えられてきました。しかし、今回の発見で、大和王権の勢力が南薩の指宿にも及んでいたことがわかりました。

COCCOはしむれに 弥次ヶ湯古墳速報コーナー設置

12月25日までCOCCOはしむれに弥次ヶ湯古墳速報コーナーを設置して、パネル写真や出土品を紹介します。是非、お越しください。

弥次ヶ湯古墳のプロフィール

①古墳の種類　円墳
②墳丘の直径　約18ｍ
③造られた時期
　6世紀～7世紀前半

一般的な円墳の模式図

県民大学書道講座生徒作品展
水墨画展開催

県民大学書道講座の皆さんの作品展が下記の内容で開催されます。半紙から掛け軸まで約40点が展示されます。また、水墨画の個展も開催されますので、この機会にぜひごらんください。

期間、会場等

書道展
12月17日～12月28日
1階ロビー

水墨画展
12月19日～12月27日
2階特別展示室

歴史セミナー

今回の歴史セミナーは発掘調査によって得られた中世指宿の状況に迫ります。

聴講は無料です。皆様のおいでをお待ちしております。

日時　12月5日（土）午後3時～4時30分
演題「陶磁器から見た指宿」
講師　鎌田洋昭主事（指宿市教育委員会）

12月の休館日
7日（月）
14日（月）
21日（月）
24日（木）
28日（月）
詳しくは当館までお尋ね下さい。

COCCO名画鑑賞会

今回の名画鑑賞会は、1956年アカデミー賞外国映画賞をはじめ数々の賞を受賞したイタリア映画の傑作「道」です。

道
LA STRADA

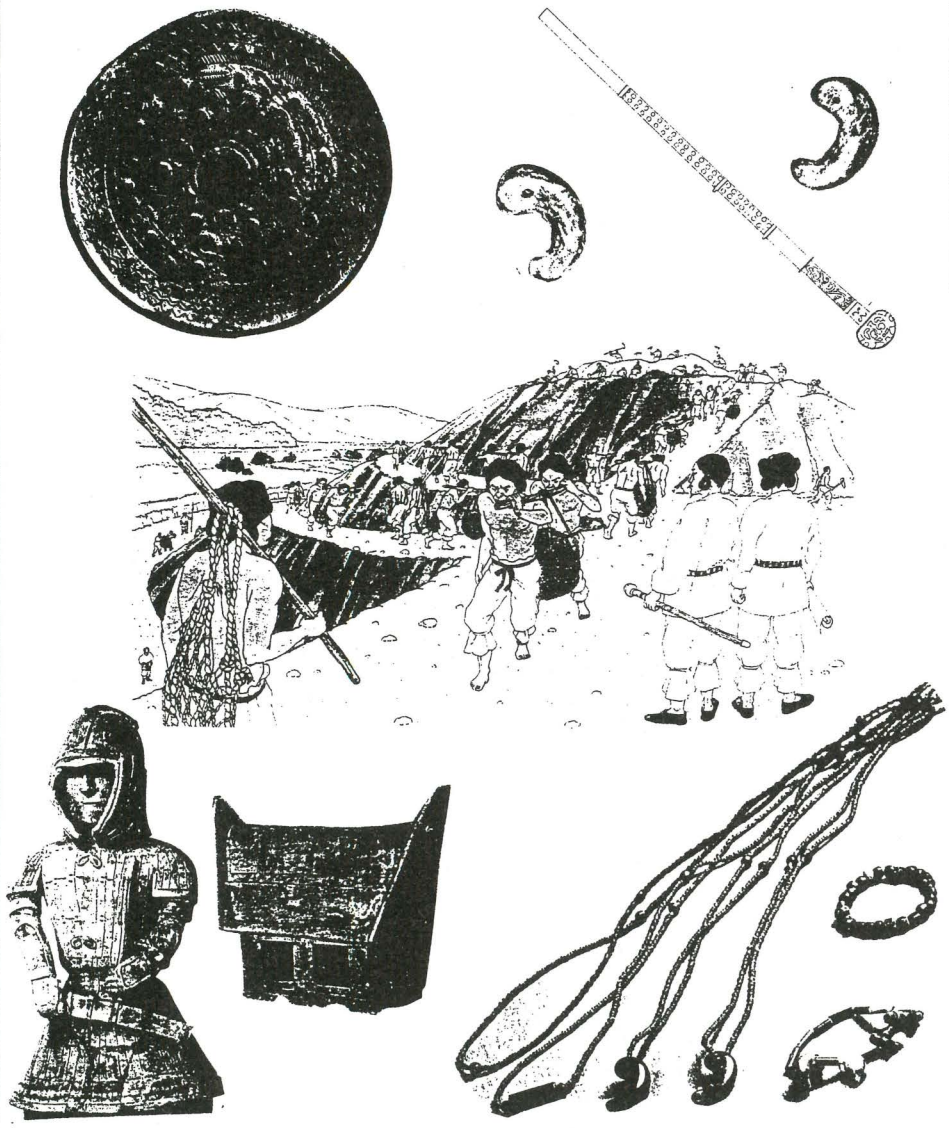
日　時　12月26日（土）午後7時～
（上映時間107分）
会　場　歴史劇場
入場料　大人500円・大高校生400円
小中学生300円

時遊館COCCOはしむれ　お知らせ版　第30号　平成10年12月25日発行　指宿市教育委員会社会教育課

新春企画展開催!

弥次ヶ湯古墳とその時代
－南九州の古墳を探る－

COCCOだより
コ　コ
指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版
1月号
お問い合わせ
23－5100



国内最南の古墳を徹底解剖

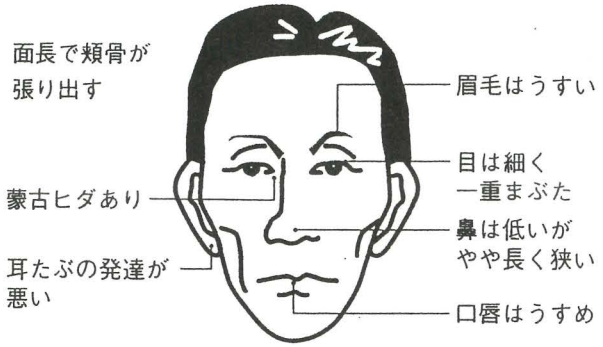
会　期：平成11年1月1日～1月31日まで
会　場：時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ２階特別展示室
入場料：常設展示入場料でご覧いただけます。

新春特別企画

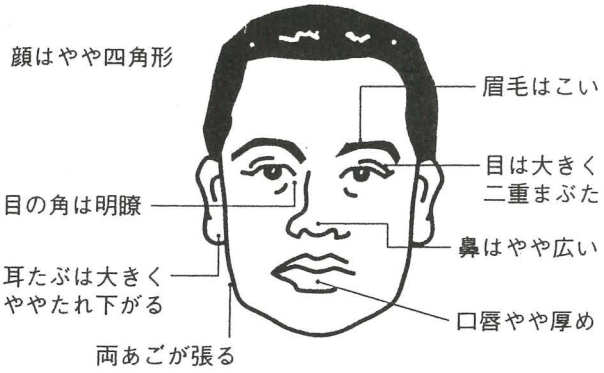
あなたは弥生人系、それとも縄文人系

日本には、数十万年以上前から人間が住んでいたことがわかっています。およそ一万年前続いた縄文時代の後に、渡来人とともに稲作技術が伝来し、弥生時代が始まりました。こうした歴史背景のもとに私たち日本人がいるわけですが、日本人の容姿には大きく分けて二つのタイプがありそうです。さて、あなたはどちらのタイプですか？

北方系モンゴロイド（渡来系弥生タイプ）



南方系モンゴロイド（縄文タイプ）



埴原和郎編『日本人新起源論』（角川書店）より

歴史セミナー

今回の歴史セミナーは、考古資料から見た古代人の祭り・儀式に迫ります。

聴講は無料です。皆様のおいでをお待ちしております。

日時　1月23日（土）午後3時～4時30分

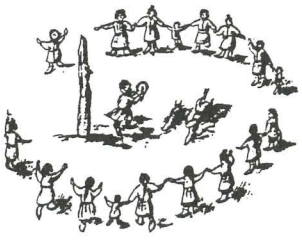
演題「古代の祭りについて」

講師　渡部徹也主事（指宿市教育委員会）

1月の休館日

4日（月）
11日（月）
18日（月）
25日（月）
27日（水）

詳しくは当館までお尋ね下さい。



COCCO名画鑑賞会

今回の名画鑑賞会は、1950年ベネチア映画祭グランプリ、1951年ベルリン映画祭グランプリを受賞した社会派裁判ドラマの傑作「裁きは終りぬ」です。お見逃しなく！！

日　時　1月23日（土）午後7時～
（上映時間100分）

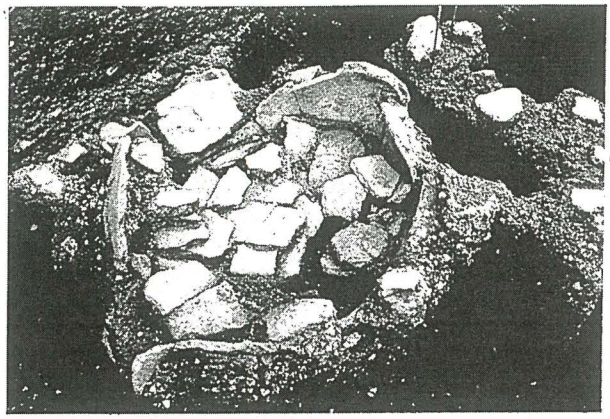
会　場　歴史劇場

入場料　大人500円・大高校生400円
小中学生300円

調査進む弥次ヶ湯古墳

周溝から土器出土

国内最南端の古墳として注目を集めている弥次ヶ湯古墳については、墳丘の周りを巡る堀（周溝）の中から、たくさんの土器片が出土いたしました。土器の種類も、甕、鉢、壷、高坏、坩と豊富で、中には、器の表面を赤く塗った高坏もありました。現在古墳との関連についてさらに調査を進めております。



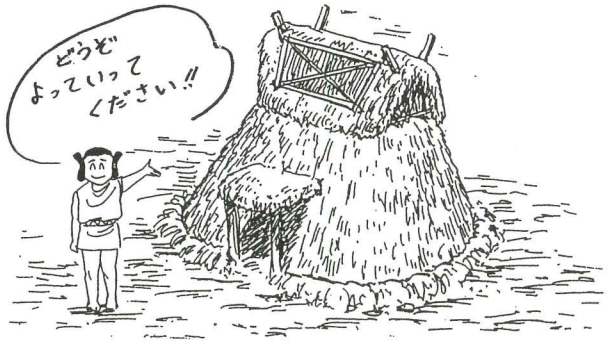
出土した壷形土器。上半分は土の重さでつぶれていた。

COCCOだより
指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」お知らせ版
2月号
お問い合わせ
23－5100

歴史セミナー

今回の歴史セミナーは、考古資料から見た古代の住宅がテーマです。古代の住居住みごこちや住居から見た南九州の生活文化の特色に迫ります。

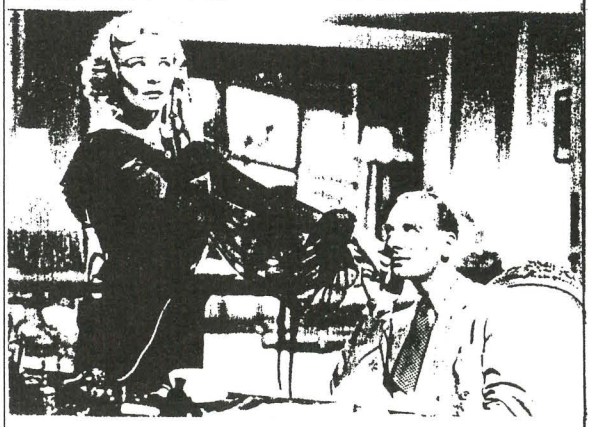
聴講は無料です。皆様のおいでをお待ちしております。



日時　2月13日（土）午後3時～4時30分
演題「古代住宅事情について」
講師　中摩浩太郎主事（指宿市教育委員会）

COCCO名画鑑賞会

今回の名画鑑賞会は、サスペンスの神様ヒッチコックが描くスパイ劇の傑作「間諜最後の日」です。お見逃しなく！！



日　時　2月27日（土）午後7時～
（上映時間84分）
会　場　歴史劇場
入場料　大人500円・大高校生400円
小中学生300円

美術グループ

いでゆ会

第24回絵画展開催

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ２階特別展示室におきまして、いでゆ会の絵画展を開催します。絵画・彫塑・陶芸作品の力作の数々が展示されます。入場は無料です。皆様のお越しをお待ちしております。

開催期間　２月９日（火）～14日（日）まで

沖縄・南薩芸術交流事業開催

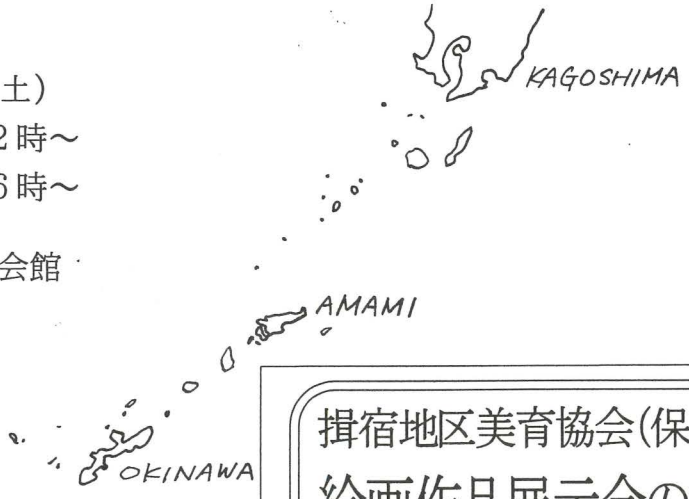
沖縄と鹿児島の歴史を掘り起こしてみると民間レベルでは、相互に深い交流がありました。この歴史に光をあてながら、沖縄県名護市と南薩地域の芸術交流事業が行なわれます。

今回は、琉球の五偉人のひとり、「名護親方（ナグヴェーカタ）・程順則（テイジュンソク）」の活躍を音楽劇というユニークな演劇で紹介します。皆様のお越しをお待ちしております。

音楽劇

名護浦の深さ

～ある日の名護親方～



●とき　２月20日（土）
第１回公演　午後２時～
第２回公演　午後６時～

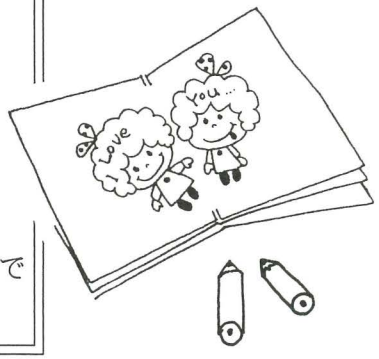
●ところ　指宿市民会館
入場料　五百円

揖宿地区美育協会（保育園の部）絵画作品展示会のお知らせ

揖宿地区美育協会に加盟している指宿市内の保育園園児の作品の中から、金賞と銀賞に選ばれた作品が展示されます。子どもたちの素直で楽しい作品を是非見においでください。

期間　２月２日（火）～14日（日）
場所　ＣＯＣＣＯはしむれ１階ロビー

２月の休館日
１日（月）
８日（月）
１５日（月）
２２日（月）
２４日（水）
詳しくは当館までお尋ね下さい。



COCCOだより

（コ　コ）

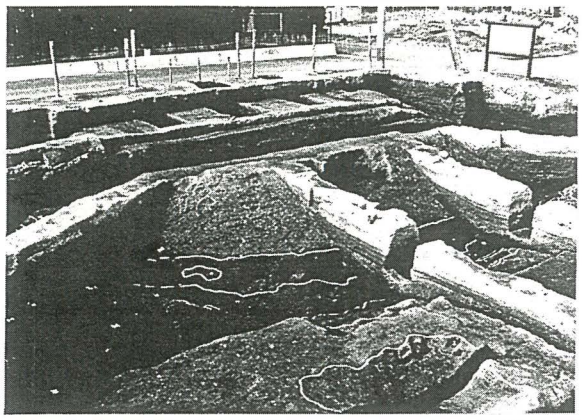
指宿市考古博物館「時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ」お知らせ版

3月号

お問い合わせ
23－5100

弥次ヶ湯古墳調査終了

国内最南端の古墳として注目を集めた弥次ヶ湯古墳の調査が2月15日に終了しました。今回の調査では、残念ながら埋葬施設は検出されませんでした。古墳の上部が一部、すでに削られていましたが、そこに埋葬施設があったのではないかともみられています。

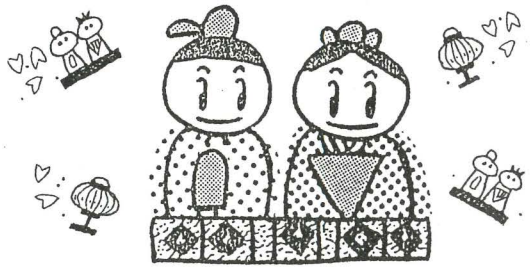


古墳の周りを巡る溝からは、八〇〇点を越える土器片が出土し、現在復元作業に取り組んでいます。

出土した土器を詳しく分析中

夢空間ひな人形展

3月7日まで



ＣＯＣＣＯはしむれ１階ロビーに、かわいらしいひな人形・帖佐人形が飾られています。グループ『人・街・未来、21』の皆さんが手掛けているもので、昨年に引き続き２回目の開催となりました。新たに２組のひな人形が加わって合計105点の人形たちが飾られています。来館した方々も春を誘う人形たちに思わず足がとまるようです。ひな人形は３月７日まで展示してあります。是非、お立ち寄り下さい。

歴史セミナー

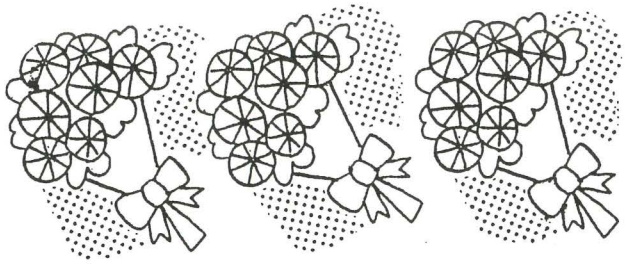
今回の歴史セミナーは、古代遺跡と火山災害がテーマです。近年、橋牟礼川遺跡をはじめ災害で埋もれた遺跡が世界的に注目されはじめました。災害を受けた遺跡から得られる様々な情報をご紹介します。

聴講は無料です。皆様のおいでをお待ちしております。

日時　３月13日（土）午後３時～４時30分
演題「火山と遺跡」
講師　下山覚主査（指宿市教育委員会）

ようこそフラワーアレンジメントの世界へ

3月12日（金）～3月14日（日）



アトリエBLOOM 生徒作品展

春の花を中心とした個性豊かなフラワーアートの世界をのぞいてみませんか。第8回アトリエBLOOM生徒作品展が右記の日程で開催されます。今回の合同作品のテーマはガーデンウェディングです。自然の中でのウェディング、皆様に夢をのせてお届します。入場は無料です。是非、お越しください。

平成十年度 指宿市子ども会 実践研究会開催

近年青少年に関わる様々な問題が各地で起こっています。この問題の解決のためには、地域社会一体となった取り組みが必要です。子どもたちの学校外活動をさらに充実させていくために、右記の研究会を開催します。当日は、地域ＰＴＡ新聞での取り組みがすばらしく、マスコミなどにも取り上げられた宮ヶ浜子ども会の実践発表もあります。たくさんの皆様のお越しをお待ちしております。

日時　3月6日（土）午後2時～4時30分
会場　ＣＯＣＣＯはしむれ1階講堂
内容　一、宮ヶ浜子ども会実践発表
　　二、研究協議『子ども会活動における現状と課題及びその解決策について』

指宿地区川柳会 川柳展示会

ＣＯＣＣＯはしむれ1階ロビーで、指宿地区川柳会の作品、38点を紹介しています。ユニークな作品の数々にふれてみませんか。皆様のお越しをお待ちしております。○展示期間　3月9日（火）まで

J･S･B吹奏楽団 指宿公演のお知らせ

映画音楽やクラシック音楽の演奏はいかがですか。日程は下記のとおりです。皆様のお越しをお待ちしております。

とき：3月7日（日）午後2時
ところ：指宿市民会館/入場料：500円

3月の休館日
1日（月）
8日（月）
15日（月）
23日（火）
24日（水）
29日（月）
詳しくは当館までお尋ね下さい。

(15) 博物館実習生受け入れ

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれでは、開館以来博物館実習生の受け入れを行なっている。これは、博物館法による学芸員単位取得の必修科目となっており、県内外の大学からの受け入れ要望に応えたものである。平成１０年度は、３名の実習生を受け入れた。実習日程は以下の内容となっている。

Ａ日程　平成１０年７月２８日～　８月　７日：鹿児島女子大学２名
Ｂ日程　平成１０年９月２９日～１０月　４日：鹿児島大学３名

実習内容は下表のとおりである。

Ａ日程

日　時	8:50～10:10	10:40～12:00	13:00～14:20	14:50～16:20
28日(火)	教育委員会訪問 オリエンテーション	施設案内	指宿市の文化行政について	時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの事業運営について
29日(水)	受付・接客実習	展示解説実習	展示解説実習	展示解説実習
30日(木)	展示解説実習	ワークシート作成実習	ワークシート作成実習	ワークシート作成実習
31日(金)	シルバー美術展作品 搬入受付実習	シルバー美術展作品 搬入受付実習	資料整理実習	資料整理実習
3日(月)	考古巡回展展示品 撤収・梱包実習	考古巡回展展示品 撤収・梱包実習	展示品クリーニング実習	資料整理実習
4日(火)	博物館特別展示 企画立案実習	博物館特別展示 企画立案実習	博物館特別展示 企画立案実習	博物館特別展示 企画立案実習
5日(水)	資料整理実習	古代にチャレンジ　体験学習準備		
6日(木)	古代にチャレンジ 体験学習準備	博物館特別展示 企画立案実習	博物館特別展示企画立案実習	
7日(金)	シルバー美術展作品 展示実習	シルバー美術展作品 展示実習	地域博物館の今後の展望	実習のまとめ 教育委員会訪問

Ｂ日程

日　時	8:50～10:10	10:40～12:00	13:00～14:20	14:50～16:20
29日(火)	教育委員会訪問 オリエンテーション	施設案内	指宿市の文化行政について	時遊館ＣＯＣＣＯはしむれの事業運営について
30日(水)	展示室案内	受付・接客実習	展示解説実習	展示解説実習
1日(木)	博物館特別展示 企画立案実習	敷領遺跡発掘調査 体験実習	地域博物館の今後の展望	教育委員会訪問
2日(金)	歴史セミナー準備	受付・接客実習	展示解説実習	歴史セミナー補助
3日(土)	ワークシート作成実習	ワークシート作成実習	ワークシート作成実習	実習のまとめ

◆　後援・共催・協賛事業の部

(16)　鹿児島県考古巡回展

平成１０年度歴史のふるさと県民セミナー「発見・感動・よみがえる古代のかごしま」
鹿児島考古巡回展　－上野原縄文人と古代ハヤトのひどびと－

ａ．目　的

地域住民を対象にして県内の代表的な遺跡の出土品を公開する巡回展及び、郷土に密着した講演会を実施することにより、埋蔵文化財愛護思想の普及・啓発を図るとともに、埋蔵文化財への関心を深めさせる。

ｂ．主　催

鹿児島県立埋蔵文化財センター

ｃ．共　催

指宿市教育委員会・国分市教育委員会・金峰町教育委員会・川内市教育委員会

ｄ．対象者　一般・県民

ｅ．入場料　無料

ｆ．「鹿児島考古巡回展」の事業内容

縄文時代早期において、卓越した文化を営んでいた上野原の人々（縄文時代早期）と日本の古代国家成立過程を考える上で重要な意味を持つハヤトの人々について、考古遺物の比較展示を行うことで南九州の古代に迫る。

開　催　期　間	会　場	入　場　数
平成10年７月４日（土） ～ 平成10年７月３１日（金）	指宿市考古博物館 時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ ２階特別展示室	１，２２０人

ｇ．「鹿児島考古巡回展」講演会

開　催　日　時	講　演　者	会　場	入　場　数
平成10年７月１９日（日） 午後２時～午後３時３０分	埋蔵文化財センター 文化財主事　冨田逸郎	時遊館ＣＯＣＣＯ はしむれ１階講堂	４４人

オープニングセレモニー

展示室風景

(17) 指宿商業高校作品展

指宿市における文化意識の高揚を図るため日常の文化活動の発表の場として指宿市文化祭を実施し、相互交流をはかった。

ａ．日時　平成１０年４月１日（水）～４月１２日（日）
ｂ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・１階ロビー
Ｃ．出展作品　絵画　２０点・点描画　９点・書道　３５点

(18) 薩摩焼発祥400周年記念「いぶすき窯元会作品展」

薩摩焼発祥400周年を記念し、いぶすき窯元会の作品を中心に、現代薩摩焼の作品展を開催した。

ａ．日時　平成１０年１０月７日（土）～１１月１日（日）
ｂ．主催　いぶすき窯元会
ｃ．出展作品　薩摩焼４３点
ｄ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・２階特別展示室

(19) あざみの会発表展示会

指宿市文化協会所属の「あざみの会」の作品発表展示会を行なった。

ａ．日時　平成１０年１１月１５日（日）～１１月２３日（日）
ｂ．主催　あざみの会
ｃ．出展作品数　洋画５２点
ｄ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・２階特別展示室

(20) 水墨画展「大谷喜郎展」

ａ．日時　平成１０年１２月１８日（木）～１２月２８日（月）
ｂ．主催　大谷喜郎（鹿児島県坊津町在住、鹿児島県美術協会会員、日本選抜美術家協会委員）
ｃ．出展作品数　水墨画３０点
ｄ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・２階特別展示室

(21) 県民大学書道講座生徒作品展

ａ．日時　平成１０年１２月１７日（木）～平成１１年１月５日（火）
ｂ．主催　県民大学書道講座
ｃ．出展作品数　４０点程
ｄ．場所　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・１階ロビー

(22) いでゆ会発表展示会

指宿市文化協会所属の「いでゆ会」の作品発表展示会を行なった。

ａ．日時　平成１１年２月９日（火）～２月１４日（日）
ｂ．主催　いでゆ会
ｃ．出展作品数　洋画・陶芸作品５８点
ｄ．出展者数　１８名
ｅ．会場　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・２階特別展示室

(23) 揖宿地区美育協会（保育園の部）絵画作品展

揖宿地区美育協会に加盟している指宿市内の保育園園児の作品の中から、金賞・銀賞に選ばれた作品を展示した。

ａ．日時　平成１１年２月２日（火）～２月１４日（日）
ｂ．出展作品数　　７２点
ｃ．会場　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・１階ロビー

(24) 指宿地区川柳会川柳展示会

ａ．日時　平成１１年２月１６日（火）～３月９日（火）
ｂ．主催　鹿児島番傘会指宿支部
ｃ．出展作品数　　３８点
ｄ．会場　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・１階ロビー

(25) 夢空間ひな人形展

ａ．日時　平成１１年２月２１日（日）～３月９日（火）
ｂ．主催　グループ「人・街・未来２１」
ｃ．出展作品数　　雛人形・帖佐人形など１０５点
ｄ．会場　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・１階ロビー

(26) ようこそフラワーアレンジメントの世界へ－第８回アトリエＢＬＯＯＭ生徒作品展

時遊館ＣＯＣＣＯはしむれで開催される２回目の展示会。今回のテーマは「ガーデン・ウェディング」。

ａ．日時　平成１１年３月１２日（金）～３月１４日（日）
ｂ．主催　アトリエＢＬＯＯＭ
ｃ．出展作品数　　合同作品「ガーデン・ウェディング」
　　生徒作品　４０点
ｄ．会場　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ・１階ロビー
　　１階講堂ギャラリー（合同作品）
　　２階特別展示室（生徒作品）

第８回アトリエＢＬＯＯＭ生徒作品展

合同作品「ガーデン・ウェディング」

◆　発掘調査の部

(27)　国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡等範囲確認調査

国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡は、大正１３年に指定を受け、平成８年に追加指定を受けた。本確認調査は、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の範囲を確認すると同時に、市内の重要遺跡について把握するために、平成４年度から継続的に実施されている発掘調査である。

ａ．遺跡名　　国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡　他
ｂ．調査期間　平成１０年７月～平成１０年１１月
ｃ．調査面積　１７０㎡
ｄ．調査担当者　渡部・鎌田

(28)　県営弥次ヶ湯住宅建設に伴う発掘調査

Ａ．敷領遺跡について

平成10年度の敷領遺跡の発掘調査において874年の開聞岳噴火で埋没した水田が検出された。敷領遺跡で検出された水田は、指宿市小田遺跡で発見された棚田、平成８年度の同遺跡の調査に次いで３例目となる。今回、約865㎡が調査され平安時代の水田について多くの情報が得られた。水田は、部分的な検出も含め、10面の田面を検出した。水田は北西から南東に緩傾斜する旧地形に沿うように形成され、その形状、大きさに厳密な規則性は認められず、三角水田のものや台形状のもの、長方形のもの、不定型なものと様々であった。また、南北方向に伸びる大畦が検出され、水田区画の基準線となっている可能性が考えらる。

Ｂ．弥次ヶ湯古墳について

古墳は、７世紀第四４半期に比定されている開聞岳火山灰（通称「青コラ」）の２次堆積層直下から調査区西側に全体の約1/2が検出された。一部調査区外へ逃げていたが、地下レーダー探査の結果、墳丘の直径約17.5ｍの円墳と判明した。なお、当該地は，公営住宅の建設予定地であったが，発見された古墳の重要性に鑑み,建設位置の設計変更を行い古墳を現地において埋め戻し保存することとなった。調査成果については別項を参照されたい。

ａ．遺跡名　　敷領遺跡・弥次ヶ湯古墳
ｂ．調査期間　平成10年７月27日～平成11年２月15日
ｃ．調査面積　８６５㎡
ｄ．調査担当者　渡部、下山

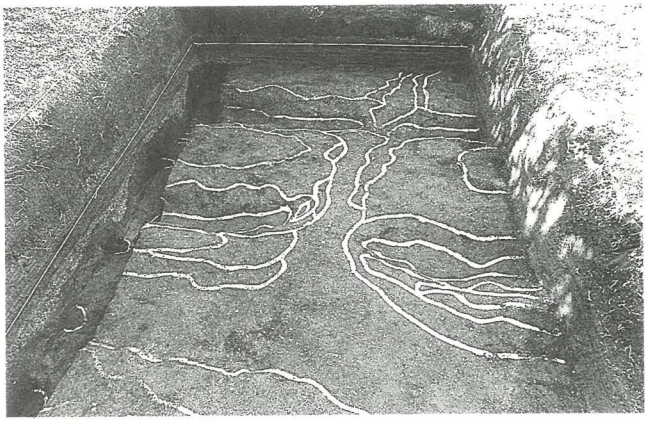
＜平成10年度の成果＞

平成10年度は、３遺跡が調査対象となり、学術調査２件、開発事業に伴う緊急調査１件が行なわれた。

上吹越遺跡は、これまで知られていなかった遺跡であり、当該地付近にも弥生時代の遺跡の広がりを想起させる重要な発見となった。確認調査においては、すでに包含層が削平されていたこともあり、詳細は不明であったが、弥生時代後期～終末期にかけての祭祀遺跡もしくは墓域であった可能性が考えられている。橋牟礼川遺跡の範囲確認調査においては、国指定史跡の北側から、平安時代の畠が検出され、遺跡の広がりが確認された。また、敷領遺跡では、平安時代の水田が面的に確認されるとともに、土地区画の基準線と考えられる南北に伸びる大畦が検出された。敷領遺跡の調査区内から、思いがけず弥次ヶ湯古墳の発見に至った

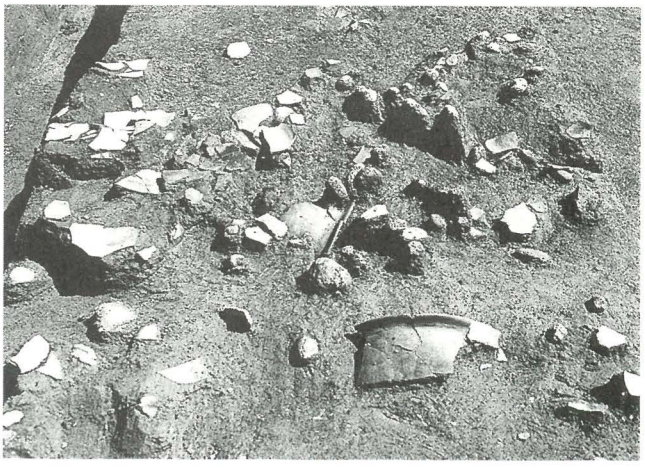
が、この発見は日本列島における古墳分布の限界線を書き換え、これまでの薩摩半島の社会像に再考を迫る契機となった。今後、南部九州の古代史を研究する上ではもちろん、日本全体における古墳文化の広がりとその意味を考える上でも、弥次ヶ湯古墳の位置付けを明確にしていく必要がある。

上吹越遺跡調査地点

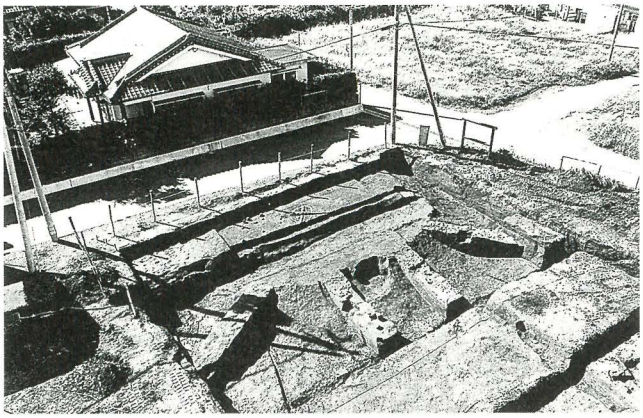


橋牟礼川遺跡（南丹波地点）平安時代畠検出状況

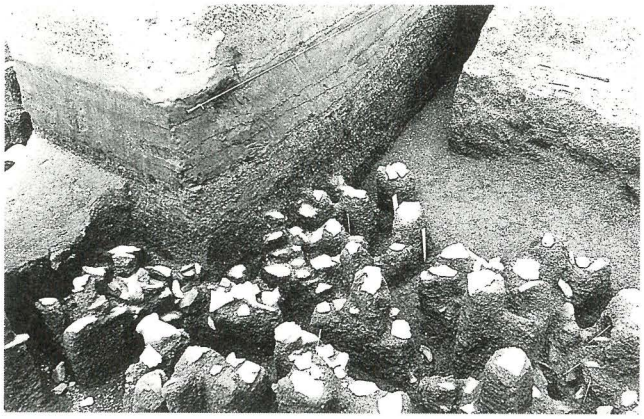
敷領遺跡平安時代水田調査風景



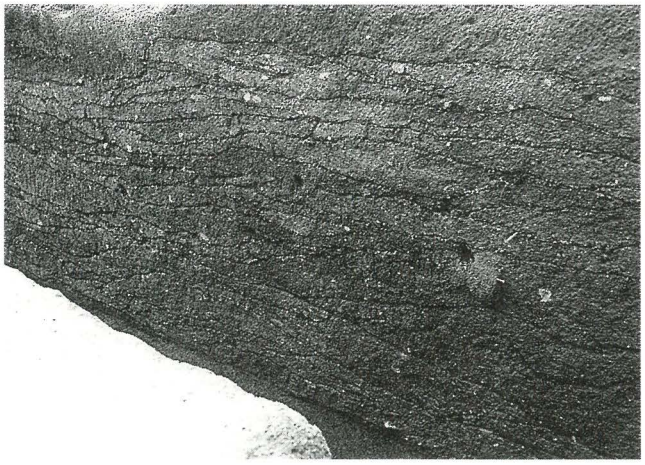
敷領遺跡
平安時代遺物出土状況



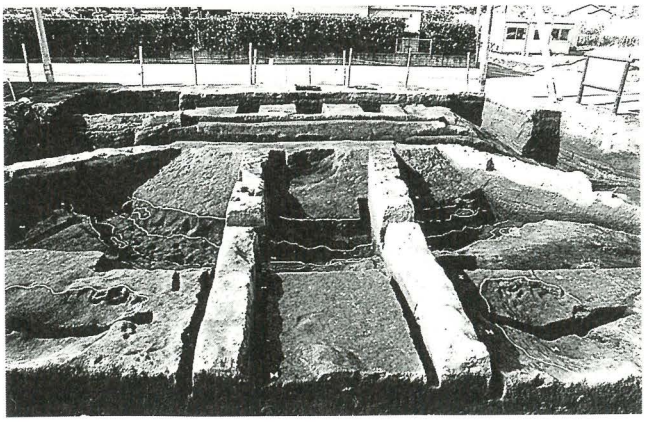
弥次ヶ湯古墳検出状況



弥次ヶ湯古墳周溝内遺物出土状況



弥次ヶ湯古墳版築状に積み上げた墳丘断面



弥次ヶ湯古墳完掘状況

◆　指定文化財保護管理の部

(29)　国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡買上事業

ａ．目的

平成７年度に国指定史跡に追加指定された指定地の北側部分の追加購入を行い、史跡の保存と活用を期する。

ｂ．内容

追加指定地18,636.59㎡の内、1,988.28㎡を購入する。文化庁と鹿児島県の補助事業である。

(30)　国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡住居再建事業

ａ．目的

平成１０年５月２３日に焼失した国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の復元古代住居の再建を行い、史跡を現状に復するとともに、史跡の更なる活用を期する。

ｂ．内容

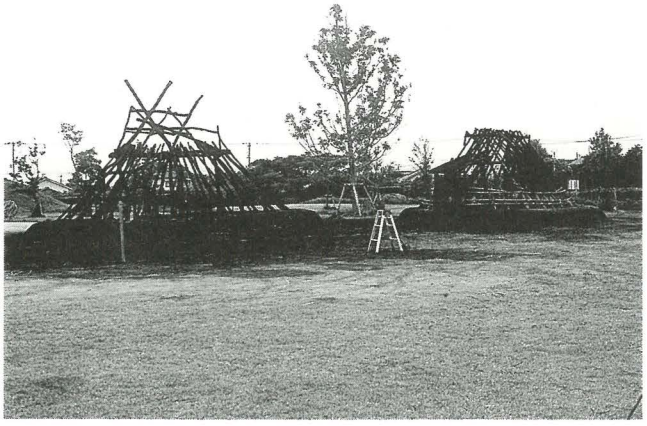
焼失した１号・２号住居の再建。

ｃ．工期

平成１１年２月５日～３月３０日

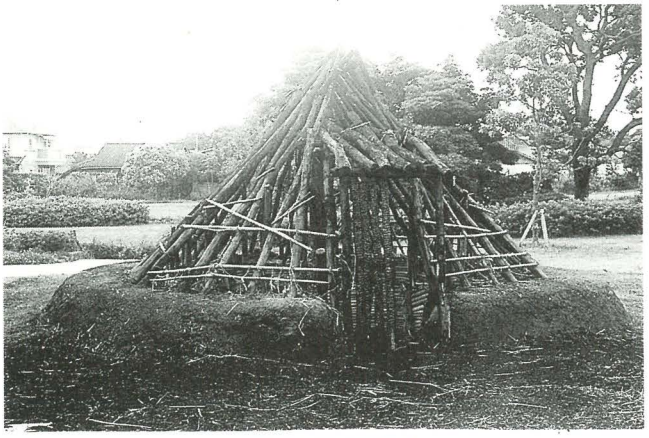
ｄ．再建費用

１１，３９６，０００　円

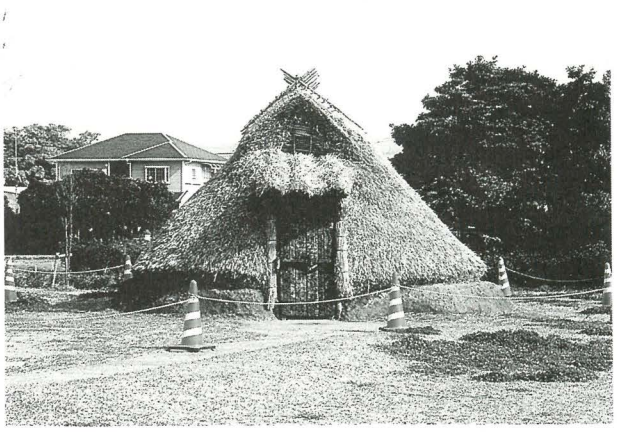


住居再建前全景

住居再建後全景

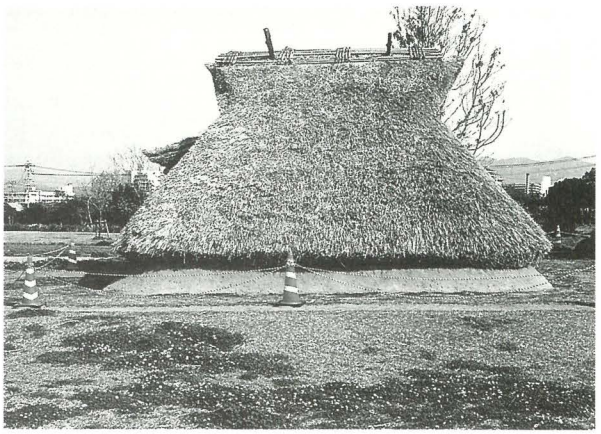


１号住居再建前



１号住居再建後

2号住居再建前



2号住居再建後

(31) 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡体験広場設置工事

a．設置の目的

国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡は、平成５・６・７年度において、史跡等活用特別事業により史跡整備を完了し、現在年間３万人程度の来訪者を迎えているところである。指宿市では、史跡の活用を促進する目的で体験学習行事を行い、土製勾玉づくりや古代住居での宿泊体験等を実施してきている。

この中で、市民や来訪者等から土器づくりなどの体験学習の恒常的な実施を望む声が多く出されていた。これに対し、指宿市では、外部からの多くの要望に答えることと、同時に史跡の更なる活用を促進することを目的とする。

b．施設の内容及び設置方法

(施設内容)

・土器づくり体験を行うための焼成窯５基の設置

構造：耐火煉瓦・耐火モルタル製

・土器づくりの歴史を学ぶための簡易的な説明施設の設置

構造：コンクリート造展示台に解説板設置

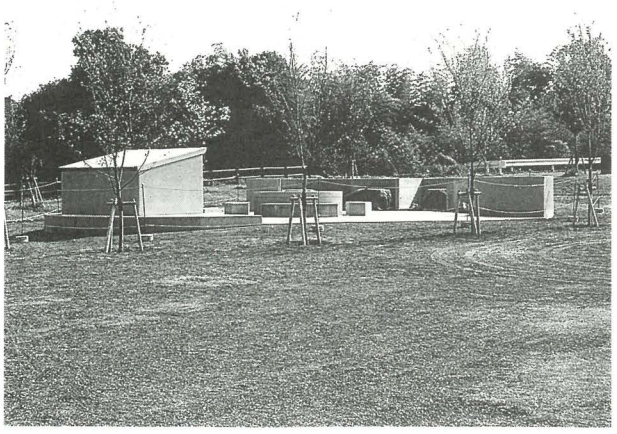
コンクリート造展示台に土器焼成遺構を設置

(設置方法)

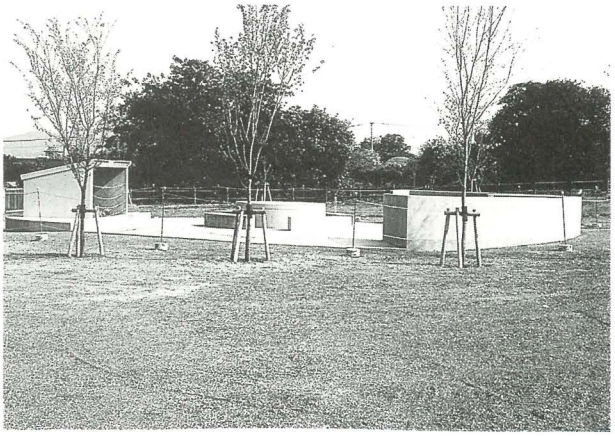
地下の遺物・遺構に対して影響のないよう、できるだけ掘削の伴わない工法を採るとともに、掘削の必要がある際は史跡整備時の造成土中に止める。 また、原状回復が必要な場合は、これが可能な工法とする。

c．工期

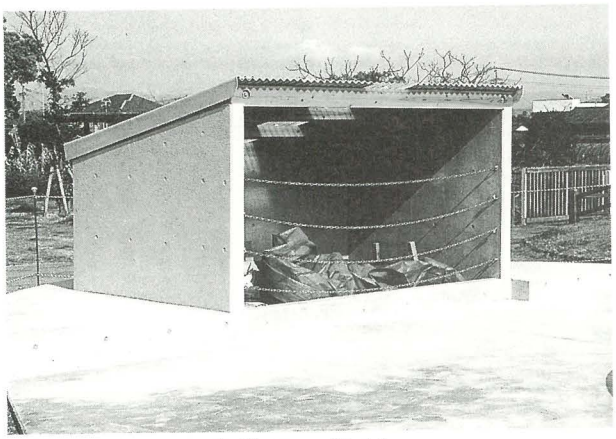
平成１１年２月１２日～３月２５日



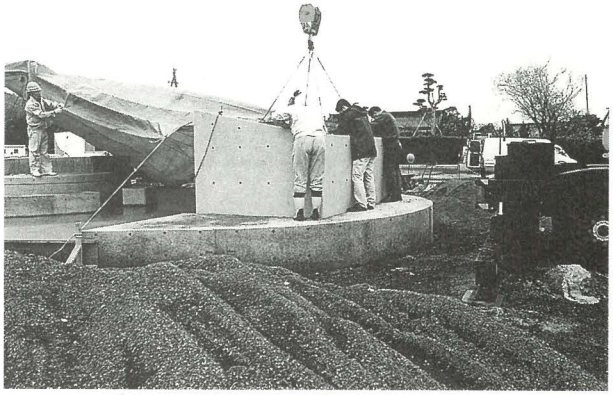
体験広場全景（北東から）



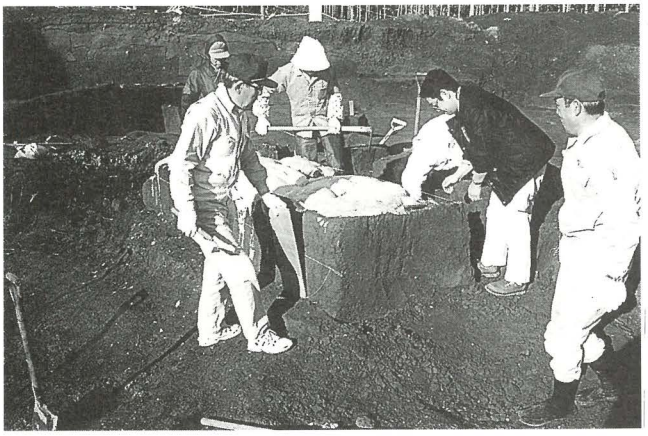
体験広場全景（北から）



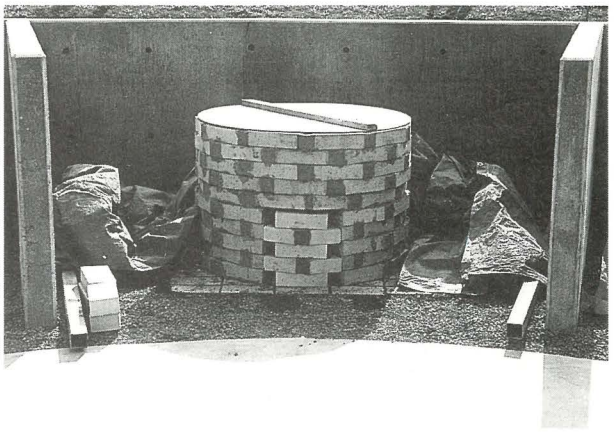
遺構展示施設



遺構設置状況

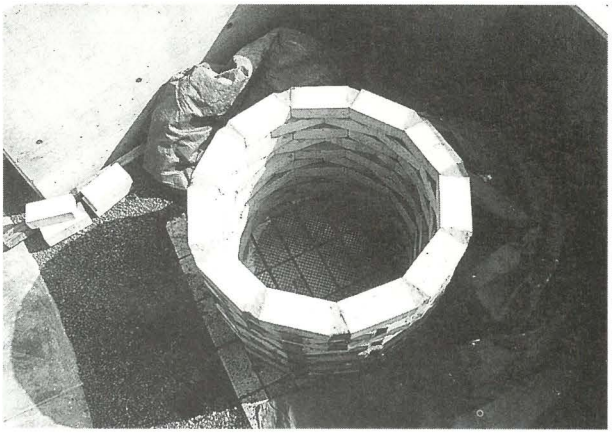


遺構移設状況（平成９年度）



土器焼成窯全景

遺構設置状況



土器焼成窯（上から）

◆ 刊行物の部

(32) 緊急企画展示『弥次ヶ湯古墳とその時代』展示図録

ａ．目的　　企画展開催の主旨、展示意図・出品資料の解説を行うことで、来館者に弥次ヶ湯古墳」が有する価値と、鹿児島県の古墳時代に関する理解を促す。

ｂ．内容　　弥次ヶ湯古墳の発掘調査速報・火山災害遺跡としての価値・出土遺物の紹介・弥次ヶ湯古墳の築造法・弥次ヶ湯古墳の背景（南部九州の墓制）・弥次ヶ湯古墳の価値

(33) 県営弥次ヶ湯住宅建設に伴う発掘調査報告書

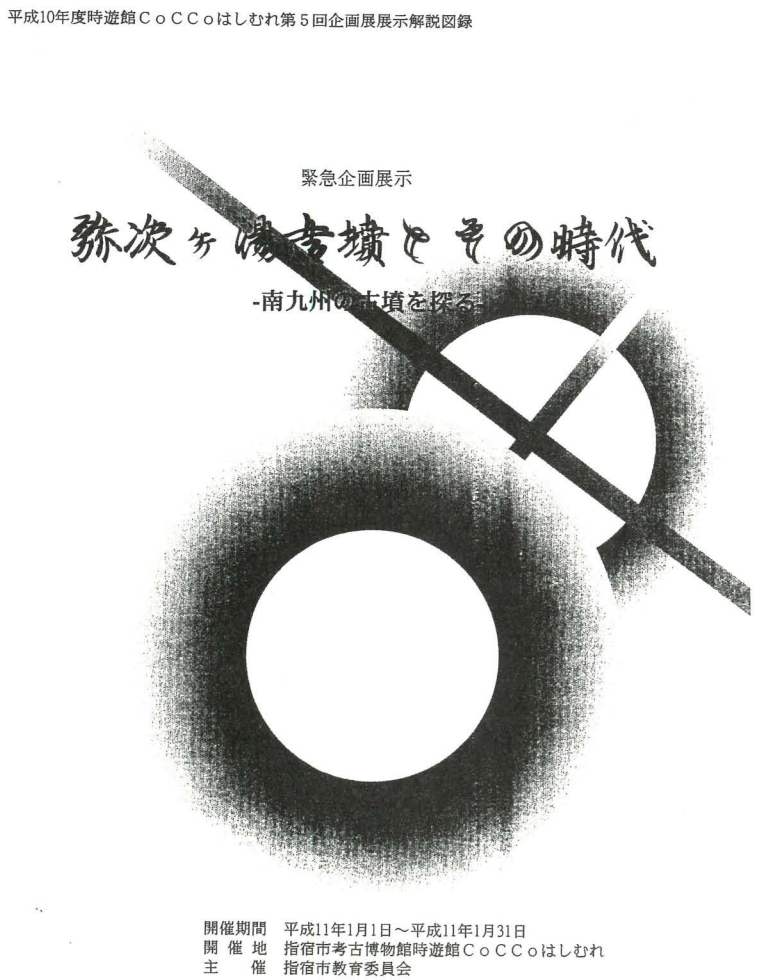
ａ．目的　　平成１０年度に実施した、県営弥次ヶ湯団地建て替え事業に伴う敷領遺跡及び弥次ヶ湯古墳発掘調査の報告書を刊行、遺跡の記録保存を行う。

ｂ．内容　　弥次ヶ湯古墳の調査報告及び敷領遺跡における古墳時代～平安時代の遺構・遺物の報告。

(34) 重要遺跡範囲確認調査発掘調査報告書

ａ．目的　　平成５年度から継続実施している橋牟礼川遺跡周辺の遺跡範囲確認調査の内、平成１０年度に行った南丹波地点の発掘調査の報告書を刊行、遺跡の記録保存を行う。

ｂ．内容　古墳時代～平安時代の遺構・遺物の報告。



『弥次ヶ湯古墳とその時代』
展示図録

指宿市考古博物館　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ
平成１０年度の入館者推移表

年間の入場者数は下表のとおりである。

	入館者(人)	累計入館者	開館日数	平均入館者	有料入館者	無料入館者
４月	2,424	2,424	25	97	2,103	321
５月	5,666	8,090	26	218	5,122	544
６月	1,333	9,423	24	56	1,087	246
７月	2,610	12,033	28	93	2,385	225
８月	3,699	15,732	25	148	3,306	393
９月	2,130	17,862	24	89	1,987	143
１０月	3,039	20,901	26	117	2,881	158
１１月	2,866	23,767	25	115	2,726	140
１２月	1,266	25,033	25	51	1,176	90
１月	1,439	26,472	26	55	1,345	94
２月	1,183	27,655	23	51	1,131	52
３月	2,046	29,701	25	82	1,838	208
合計	29,701	29,701	302	98	27,087	2,614

指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の設置及び管理に関する条例

（設置）

第１条　国指定史跡橋牟礼川遺物包含地を中心とし、指宿の歴史及び文化に対する理解を深めるとともに、 市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼（以下「時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼」という。）を設置する。

（位置）

第２条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の位置は、指宿市十二町２２９０番地とする。

（所管）

第３条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼は、指宿市教育委員会の所管とする。

（事業）

第４条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼は、次に掲げる事業を行うものとする。

（１）　考古、民俗、歴史、美術工芸品及びその他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、整理保管し、及び展示すること。

（２）　博物館資料並びに地域に存する文化財及び史跡等に関する専門的な調査研究を行うこと。

（３）　博物館資料の修復、保存及び一般公開のための技術的研究に関すること。

（４）　展覧会、講演会、研究会、講座等を主催すること。

（５）　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼及び博物館資料に関する案内書、解説書、図録、紀要、調査報告書等の作成及び頒布に関すること。

（６）　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の施設及び設備の使用に関すること。

（７）　その他、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼に必要な事業に関すること。

（職員）

第５条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼に、館長その他必要な職員を置く。

（観覧料）

第６条　観覧者は、別表第１に定める観覧料を入館前に納入しなければならない。ただし、教育委員会が特別な理由があると認めたときは、これを後納することができる。

２　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼が、企画する特別展示の資料等を観覧しようとする者は、教育委員会が別に定める額の観覧料を納めなければならない。

（使用の許可等）
第７条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の特別展示室、講堂等の施設及びこれらに付属する設備等（以下「施設等」という。）を使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。使用の　許可を受けた者（以下「使用者」という。）が、許可を受けた事項を変更しようとするときも同様とする。
２　使用者は、施設等の使用を中止し、又は終了したときは、直ちにその旨を教育委員会に届け出なければならない。
（観覧及び使用許可の条件等）
第８条　教育委員会は、次の各号の一に該当するときは、観覧及び施設等の使用を許可しないものとする。
（１）　公序良俗を乱すおそれがあると認めるとき。
（２）　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の収蔵資料（以下「収蔵資料等」という。）又は施設等を損傷するおそれがあると認められるとき。
（３）　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理運営上支障があると認めるとき。
（４）　その団体の構成員が集団的に、又は常習的に暴力的不法行為等を行うことを助長するおそれのある団体の利益になると認められるとき。
（５）　その他、教育委員会が観覧及び使用を不適当と認めるとき。
２　教育委員会は、前条の許可に時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理運営上必要な条件を付することができる。
（観覧及び使用許可の取消し等）
第９条　教育委員会は、次の各号の一に該当するときは、観覧及び施設等の使用を停止し、又は許可を取り消すことができる。
（１）　観覧者又は使用者が、この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
（２）　使用者が使用許可の条件に違反したとき。
（３）　使用者が偽りその他不正な手段により使用許可を受けたとき。
（４）　公益上特にその必要があるとき。
（５）　前各号に掲げる場合のほか、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理運営上特に必要を認めたとき。
２　前項の規定により、教育委員会が使用許可を取り消した場合において、使用者に損害が生じても、市はその賠償の責めを負わないものとする。ただし、前項第４号又は第５号に該当したことにより、これら　の処分がなされた場合はこの限りでない。
（施設使用料）
第10条　使用者は、別表第２に定める施設使用料を前納しなければならない。ただし、教育委員会が特別な理由があると認めたときは、これを後納することができる。
２　既納の施設使用料は、返還しない。ただし、次の各号の一に該当するときは、その全部又は一部を返還するものとする。
（１）　災害その他使用者の責めに帰することができない理由により施設等の使用が不能となったとき。
（２）　公益上又は時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理上の必要により使用許可を取り消したとき。
（３）　使用者が使用開始前に使用許可の取消しを申し出て、教育委員会がこれを認めたとき。
（４）　前３号に掲げる場合のほか、教育委員会が特別な理由があると認めたとき。
（観覧料等の減免）
第11条　教育委員会は、公益上の理由その他特別な理由があると認めるときは、第６条に規定する観覧料又は前条に規定する施設使用料を減額し、又は免除することができる。
（損害賠償）
第12条　収蔵資料等又は施設等を故意又は重大な過失により損傷若しくは滅失した者は、その損害を賠償しなければならない。
（委任）
第13条　この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　　則
（施行期日）
この条例は、平成８年４月１日から施行する。

指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の設置及び管理に関する条例施行規則

（趣旨）
第１条　この規則は、指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の設置及び管理に　関する条例（平成７年指宿市条例第33号。以下「条例」という。）第13条の規定に基づき、指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼（以下「時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼」という。）の管理、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第２条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。
（１）　月曜日（その日が、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以後の最初の同法に規定する休日でない日）とする。ただし、１月１日から１月３日までの日が月曜日に当たる場合は、この限りでない。
（２）　館内整理日（毎月第４水曜日）
２　教育委員会は、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理運営上必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、休館日を変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

（開館時間）
第３条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の開館時間は、午前９時から午後５時までとする。ただし、入館時間は、 午後４時30分までとする。
２　条例第７条による使用の許可を受けた場合の開館時間は、前項の規定にかかわらず午後10時までとすることができる。
３　教育委員会は、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理運営上必要があると認めるときは、前項の開館時間又は入館時間を臨時に変更することができる。
（観覧券の交付）
第４条　教育委員会は、条例第６条に規定する観覧料を納入した者に、別に定める観覧券を交付する。
（使用許可の申請）
第５条　条例第７条の使用の許可を受けようとする者は、教育委員会に施設等使用許可（変更）申請書（別記第１号様式）を提出しなければならない。
２　教育委員会は、前項の申請書を受理したときは、申請書の記載事項及び条例第７条に規定する事項について審査し、適当と認めたときは施設等使用許可（変更）証（別記第２号様式）を交付するものとする。
（使用許可の中止）
第６条　施設等の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が、使用の中止をしようとするときは、 施設等使用許可中止届（別記第３号様式）を教育委員会に提出しなければならない。
（入館者が守るべき事項）
第７条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼に入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。
（１）　施設、設備又は博物館資料をき損しないこと。
（２）　所定の場所以外で飲食、喫煙、火気使用等の行為をしないこと。
（３）　許可なく、博物館資料の移動、模写又は撮影をしないこと。
（４）　許可なく、物品の販売、募金、宣伝その他これらに類する行為をしないこと。
（５）　その他係員の指示に従うこと。
（施設使用料の返還）
第８条　条例第10条第２項ただし書きの規定による既納の施設使用料の返還は、次の各号に掲げる場合ごとに当該各号に定める額について行う。
（１）災害その他使用者の責めに帰することができない理由により、使用許可を取り消したとき。
未使用期間に相当する額
（２）公益上又は時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理上の理由により、使用許可を取り消したとき。
未使用期間に相当する額
（３）使用者が使用開始前に使用許可の取消しを申し出て、教育委員会がこれを認めたとき。
既納の施設使用料の５割相当額
（４）前３号に掲げる場合のほか、教育委員会が特別な理由があると認めたとき。
既納の施設使用料の５割以内で教育委員会が個別に定める額
２　条例第10条第２項ただし書きの規定により既納の施設使用料の返還を受けようとする者は、施設使用料返還申請書（別記第４号様式）を教育委員会に提出しなければならない。
（観覧料、施設使用料の減免）
第９条　条例第11条の規定により観覧料を減額又は免除する場合の対象となる者は、次の各号に定めるものとする。
（１）教育課程に基づく学習活動として入館する市内の小学校、中学校又は養護学校の児童及び生徒並びに引率者観覧料の全額
（２）その他教育委員会が適当と認めた者観覧料の５割以内
２　条例第11条の規定により施設使用料を減額又は免除する場合の基準は、次の各号に定めるとおりとする。
（１）市が主催する行事のため使用するとき。
施設使用料の全額
（２）その他必要があると認めたとき。
施設使用料の５割以内
３　条例第11条の規定により観覧料及び施設使用料の減額又は免除を受けようとする者は、観覧料・施設使用料減免申請書（別記第５号様式）を教育委員会に提出しなければならない。
（博物館資料の寄贈又は寄託）
第10条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。
２　博物館資料を寄贈しようとする者で、教育委員会が承認したものについては博物館寄贈資料申出書（別記第６号様式）を教育委員会に提出し、教育委員会は、博物館資料を寄贈した者に対して博物館寄贈資料受領証（別記第７号様式）を交付するものとする。
３　博物館資料を寄託しようとする者で、教育委員会が承認したものについては博物館寄託資料申出書（別記第８号様式）を教育委員会に提出し、教育委員会は、博物館資料を寄託した者に対して期間を定めた博物館寄託資料受託証（別記第９号様式）を交付するものとする。
４　博物館寄託資料の返還を請求しようとする者は、博物館寄託資料返還請求書（別記第10号様式）を教育委員会に提出しなければならない。
５　寄託された資料の管理は、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼所蔵の資料の管理に準ずるものとする。
６　教育委員会は、寄託された博物館資料が天災その他の不可抗力による損害に対し、その賠償の責を負わないものとする。

（経費の負担）

第11条　寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、この限りでない。

（博物館資料の館外貸出し）

第12条　時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「博物館資料」という。）の館外貸出しは行わないただし、学術上の調査研究又は教育の普及の目的のために使用されるものであり、かつ、博物館資料の取扱い上の安全性が確認されるものであるといえる場合は、館外貸出しを行うことがある。

2　前条ただし書の規定による博物館資料の館外貸出しを受けようとする者は、教育委員会に博物館資料貸出し許可申請書（別記第11号様式）を提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、館外貸出しの申請による博物館資料が寄託された資料であるときは、博物館資料貸出許可申請書に、当該資　料寄託者の承諾書を添付しなければならない。

3　教育委員会は、前項の規定により博物館資料の館外貸出しの許可をしたときは、当該許可の申請をした者に、博物館資料貸出許可書（別記第12号様式）を交付する。

（貸出期間）

第13条　博物館資料の館外貸出期間は、30日以内とする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、貸出期間を延長することができる。

（博物館資料の特別利用）

第14条　学術上の調査研究のため、博物館資料を特別に利用しようとする者は、博物館資料特別利用申請書（別記第13号様式）を教育委員会に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該申請にかかる博物館資料が寄託された資料であるときは、第12条第２項後段の規定を準用する。

2　教育委員会は、前項の規定をしたときは、博物館資料特別利用許可書（別記第14号様式）を交付する。

（施設、設備等のき損届）

第15条　使用者は、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の施設若しくは設備又は博物館資料を損傷し、又は滅失したときは、直ちにその旨を教育委員会に届け出て、その指示に従わなければならない。

（職員の立入り）

第16条　教育委員会は、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理上必要があると認めるときは、使用許可を受けた者が現に使用している施設に職員を立ち入らせ、必要な指示をさせることがある。

（雑則）

第17条　この規則に定めるもののほか、時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

この規則は、平成８年４月１日から施行する。

※　指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の設置及び管理に関する条例および指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯ橋牟礼の設置及び管理に関する条例施行規則に伴う緒様式については紙数の関係で割愛いたします。

紀　要　編

弥次ヶ湯古墳の発見とその意義

指宿市教育委員会 時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ
下山 覚，中摩 浩太郎，渡部 徹也，鎌田 洋昭

１．調査の概要

弥次ヶ湯古墳は，指宿市十二町小字赤塚に所在する．古墳は山裾から海岸に向けて緩傾斜する海抜６ｍ前後の火山性扇状地末端部に立地している．公営住宅の建替え事業に伴い1998年７月末から建物建設部分約860㎡について発掘調査を実施したところ，７世紀第四４半期に比定されている開聞岳火山灰（通称「青コラ」）の２次堆積層の下から墳丘の約1/2が検出された．調査区外の部分について，地下レーダー探査を実施した結果，円墳と判明した．当該地は，公営住宅の建設予定地であったが，発見された古墳の重要性に鑑み，建設位置の設計変更を行い古墳を現地において埋め戻し保存することとなった．

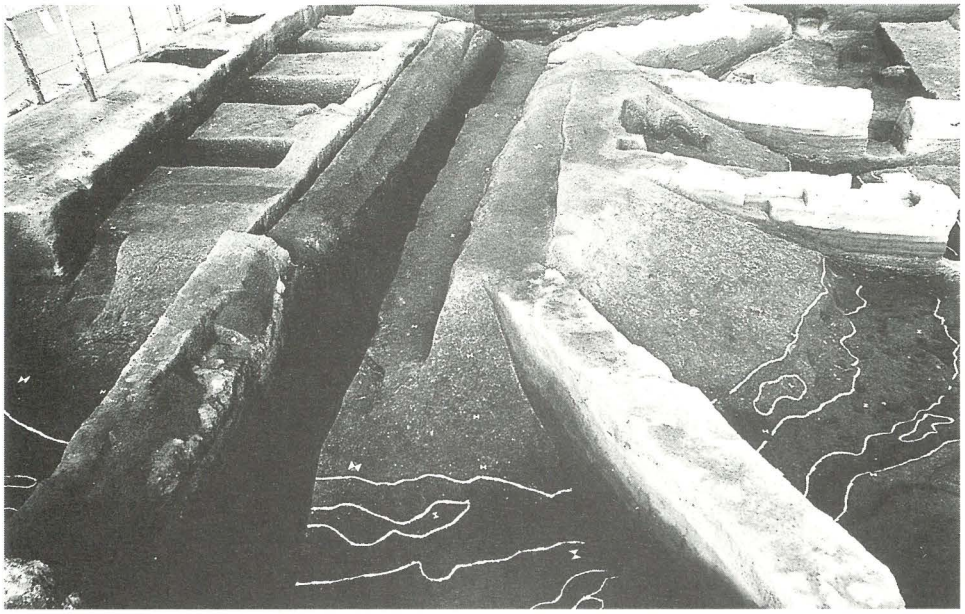
２．弥次ヶ湯古墳の概要

平成10年11月の報道関係機関への発表の際は，火山灰を除去し，周溝の埋土も被った状況であったため墳丘の直径を約18ｍと推定していた．しかし，その後，周溝を完全に検出し，墳丘の下半部を覆っていた埋土を除去すると正確には復元した墳丘の直径が17.5ｍの円墳であることが判明した．古墳の大部分は青コラに覆われていたが，青コラに被覆されなかった墳丘の上部の一部は既に削平を受けていた．残存する墳丘の高さは最大で約1.3ｍを計る．周溝は，幅２ｍ前後，深さ約40～60㎝で，その埋土からは，「成川式土器」と総称される土器様式の中でも，辻堂原式土器の範疇に該当すると思われる一群が多く見られ，破片資料の状態ではあるが約800点出土している．器種構成を見ると，甕，鉢，壷，高坏，坩，ミニチュア土器などが出土している．詳細については，時期の検討も含め現在整理・分析中である．

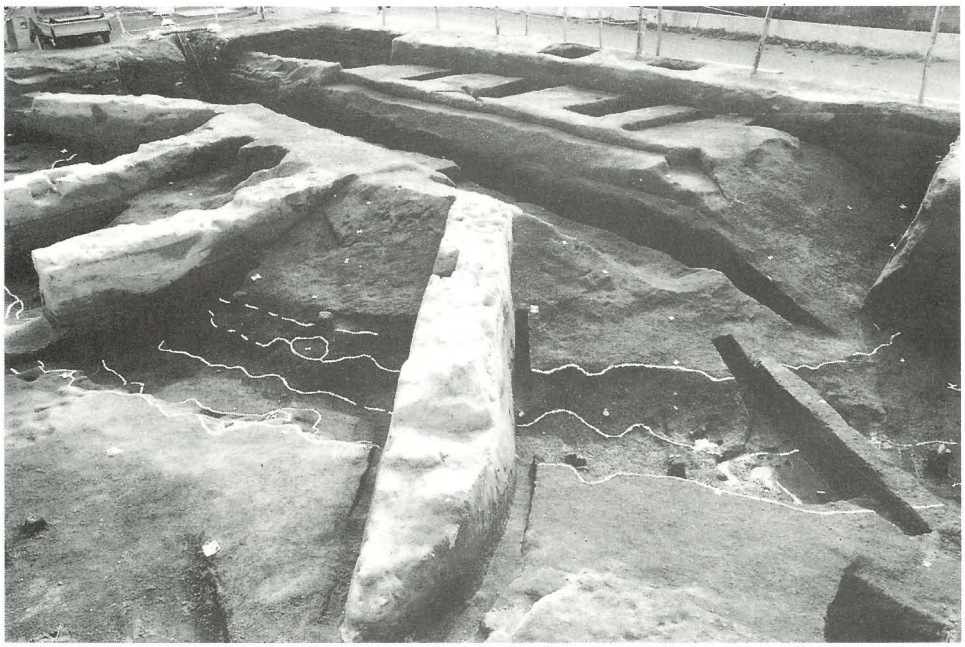
主体部については検出し得なかったが，既に削平を受けた部分にあった可能性も考えられる．

３．弥次ヶ湯古墳の意義

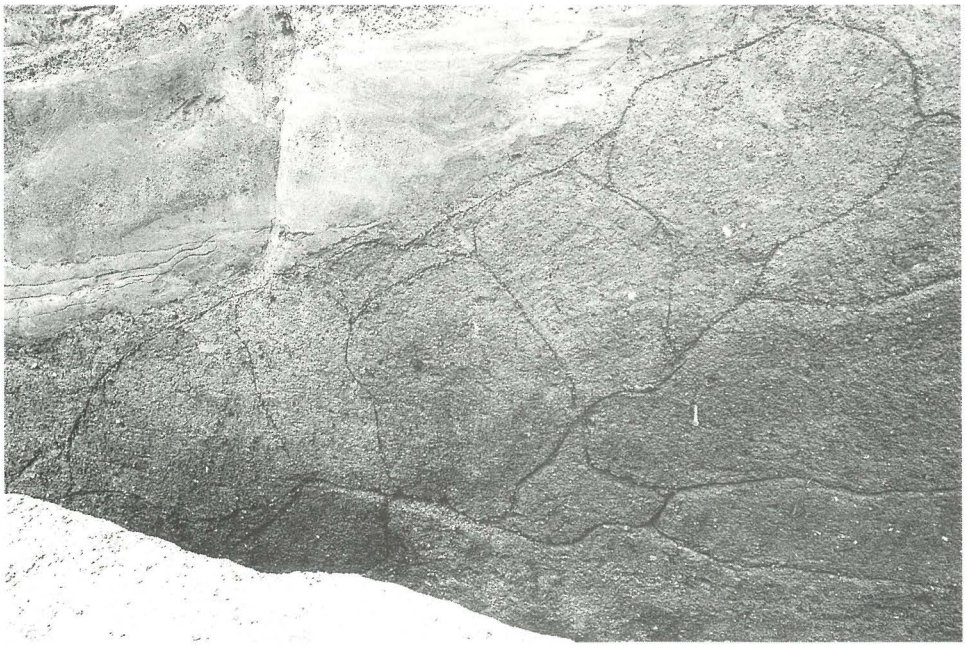
鹿児島県の大隅半島は，高塚古墳分布の南限として知られているが，薩摩半島にはこれまで高塚古墳が見つかっていなかったことから，一般には「高塚古墳空白の地域」として認識されてきた．この高塚古墳の不在や，成川遺跡や松之尾遺跡，南摺ヶ浜遺跡などの土壙墓群の発掘調査例などから，古墳時代の薩摩半島南部は土壙墓分布圏として認識され，高塚古墳分布圏とは異なった階級未分化な社会像がイメージされることもあった．しかし，今回の発見で，古墳時代のある時期には，墓制も含めた古墳文化を受容していたことが判明し，薩摩半島の社会集団においても階層が成立していたことが想定されるようになった．これまで，橋牟礼川遺跡等で発見されている子持勾玉や初期須恵器，青銅製品などの威信財・祭祀遺物も階層の成立を裏付ける資料と捉える事もできよう．弥次ヶ湯古墳の発見は，日本列島における古墳分布の限界線を書き換え，これまでの薩摩半島の社会像の再考を迫る契機となるものと思われる．また，今回の調査で古墳の形態や築造方法を知る上で詳細な情報を得ることが出来た．まず最初に地表面を段状に整地し，周溝を荒く掘りこむ．このときの廃土を墳丘外周にドーナッツ状に盛り上げたものと推定される．次いで，溝を掘った時の廃土と整地段階の廃土を交互に版築しながら墳丘を盛り，最後に，周溝に整形土を入れこむとともに，外側にブロック状に土を小積んで墳丘の形を整えながら仕上げている．弥次ヶ湯古墳の下半部は，開聞岳火山灰でパックされており，良好な状態で墳丘が残存していた．当該地周辺には，まだ他にも，古墳が埋没している可能性があるため，今後継続的な調査が必要である．周辺遺跡との関連を十分に考慮しながら，弥次ヶ湯古墳の位置付けを明確にしていくことが今後の大きな課題であり，急務であろう．



弥次ヶ湯古墳
完掘状況
(南側から)



完掘状況
(北側から)



墳丘裾部分断面
俵状に土を積み
上げている

弥次ヶ湯古墳を巡る報道記事の紹介

指宿市教育委員会では、敷領遺跡地内の発掘調査により発見された弥次ヶ湯古墳の調査成果を、平成１０年１１月２５日に報道関係者に対して公表した。本欄においては、各新聞に掲載された記事を紹介する。

日本最南端の古墳

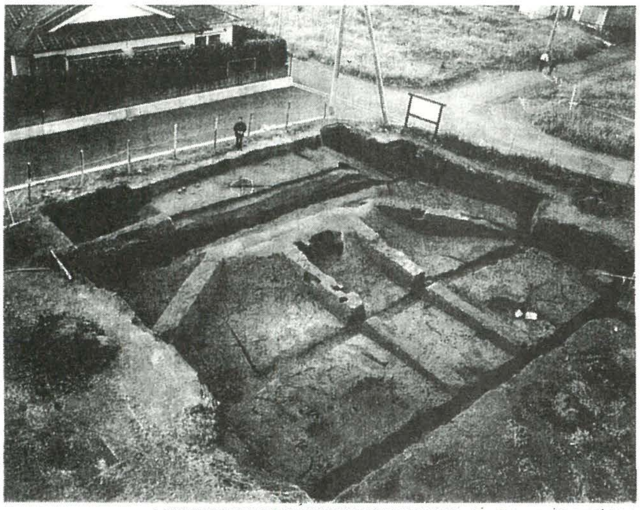
6－7世紀の築造

ハヤトの時代に階層社会

指宿市

弥次ケ湯古墳

指宿市教育委員会は二十五日、指宿市十二町で六世紀から七世紀前半にかけて造られたとみられる古墳が南薩で初めて見つかった、と発表した。これまで南薩では原始共同体的な社会が営まれ、古墳がないとされていた通説を覆す発見で、日本最南端の古墳となる。同市教委は「古墳文化の広がりを知る重要な指標といえ、大和王権の対南九州政策を考えるうえで極めて重要な発見」と話し、名称を弥次ケ湯（やじがゆ）古墳とした。



南薩で初めて見つかった弥次ケ湯古墳＝指宿市十二町で

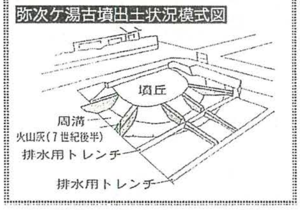
古墳は七世紀後半の開聞岳噴火の火山灰層の下に半円状で見つかり、土を盛って築造した高塚古墳の中の円墳。直径十八㍍、高さ一・三㍍。墳丘の上部は残っていなかった。円墳の周りには幅約二㍍、深さ〇・四㍍の溝が掘られている。火山灰層に埋没した古墳が確認されたのは、西日本で初めてという。石棺、副葬品などは見つかっていないが、同市教委は近く地下探査レーダーを使って埋葬施設の調査を行う予定。

これまで県内の古墳の南限は、大隅半島が肝属川流域で、薩摩半島は川内川流域だった。南薩は古墳が見つかっていなかった地域で、成川遺跡の土壙（どこう）墓群の発掘調査例などから、階級が未分化の集団社会と考えられていた。だが、この古墳の発見で同市教委は「ハヤトの時代に首長クラスの人物が存在し、階層社会が営まれていたのではないか」としている。

古墳は弥次ケ湯団地の建替えに伴い、今年七月から発掘調査を行っていた。同市教委は古墳を保存。二十八日から同市の時遊館COCCOはしむれで速報展、二十八、二十九日には現地説明会を開くことにしている。

鹿児島大学の上村俊雄教授（考古学）は「これまで古墳がないと言われてきた地域で見つかったことは、薩摩半島の社会像を根底から見直す必要が出てきた」とコメント。宮崎大学の柳沢一男教授（考古学）も「この古墳を無視して南九州の古代史を語ることはできない。記念碑的な発見」と話している。

弥次ケ湯古墳出土状況模式図

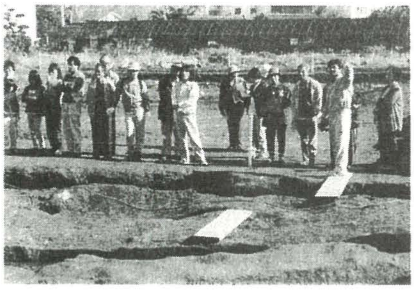


鹿児島新報
98年11月26日付

「古代ロマンに思いはせて」

弥次ヶ湯古墳 考古ファン詰め掛ける

指宿市



古墳を見学に訪れた人たち＝指宿市十二町で

指宿市十二町で見つかった日本最南端の弥次ケ湯古墳で二十八日、現地説明会があった。大和政権との関係や階級社会が存在していたことなどを示す、貴重な古墳とあって約四百人の考古ファンらが訪れた。

同古墳は、六世紀から七世紀にかけて築造されたとみられる円墳。多くの古墳と同様に土を盛って固めた版築構造の形跡がある。これまで階級未分化の社会と考えられていた地域で古墳が見つかったことから、従来の通説を覆す古墳と見られている。

この日、午前九時の公開に合わせて同市内外から大勢の見学者が訪れた。古墳近くに住む西田秋雄さんは「指宿にも古墳があったとは。どんな首長だったのだろうか」と古代のロマンに思いをめぐらせていた。このほか、同市教委の渡辺徹也さんの説明に耳を傾けたり、写真に収める熱心な考古ファンもいた。

同市教委では、まだ埋葬施設や副葬品が見つかっていないことから、近く地下探査レーダーで調べることにしている。

現地説明会は二十九日も午前九時から午後三時まで開かれる。

鹿児島新報
98年11月29日付

指宿に国内最南の古墳

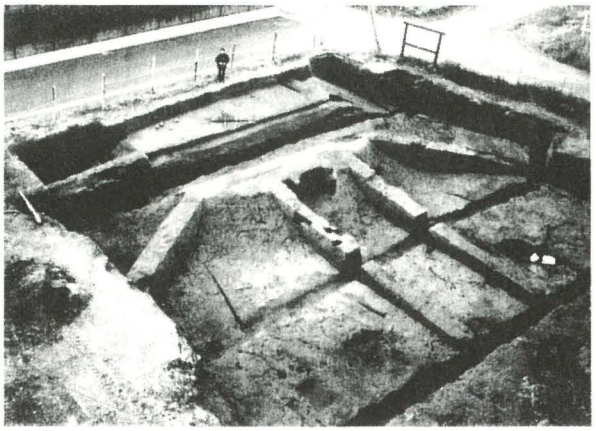
分布の通説覆す

6―7世紀「大和」勢力浸透か

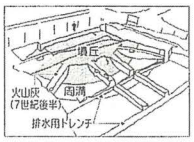
弥次ケ湯

南日本新聞
98年11月26日付

指宿市十二町で六世紀から七世紀前半にかけて造られたとみられる円墳が見つかったと二十五日、指宿市教育委員会が発表した。国内最南端の古墳となる。円墳は大和王権の墓制で、これまで南九州では見つかっていなかった。同市教委は「これまでの古墳分布の通説を覆す発見で、大和王権と隼人のかかわりを考えるうえできわめて重要」としている。



墳丘が見つかった弥次ケ湯古墳



この古墳は弥次ケ湯（やじがゆ）古墳と名づけられ、全体の東側半分が見つかった。円形に土を盛り上げて造った高塚古墳で、直径十八㍍、高さ一・三㍍。墳丘の上部は削り取られており、正確な高さははっきりしない。また、円墳の周りには幅二㍍、深さ四十㌢の溝が掘られている。

被葬者を納めた石棺や副葬品などはまだ見つかっていない。同市教委は近日中に地下探査レーダーなどで埋葬部分の有無を調べる。

鹿児島県内には地中に穴を掘った独特の数種類の墓制がある。高塚古墳は曽於郡大崎町の横瀬古墳や川内市の船間島古墳など大隅、北薩に集中。その南限は大隅が肝付川流域で、薩摩半島では川内川流域だった。南薩は古墳がない地域で、王権がなく身分階級が未分化だったとされていた。

弥次ケ湯古墳は、七世紀後半の開聞岳噴火の火山灰層の下にある六世紀の遺物を含む地層から見つかった。火山災害で埋没した古墳が確認されたのは西日本では初めてという。弥次ケ湯団地造成にともなう発掘調査で、今年七月から同市教委が調査していた。

鹿児島大学の上村俊雄教授（考古学）は「これまで古墳が見つかっていない地域だけに大きなショックだ。南部九州の古墳文化を考え直さなくてはならない。日向地方から大隅半島へと南下してきた大和王権の勢力が、鹿児島湾を渡って西へ進んできたのではないか」と話している。

（24面に関連記事）

日本経済新聞
98年11月26日付

国内最南古墳、指宿で確認

6―7世紀 大和王権が浸透

市教委

鹿児島県指宿市教育委員会は二十五日、同市内で国内最南の古墳を確認したと発表した。六世紀から七世紀前半の、南部九州に勢力を持っていた隼人（はやと）の首長クラスの円墳とみられ、「大和王権の勢力が当時、隼人の抵抗が激しいとみられていた薩摩半島南端にも及んでいたことを示す貴重な史料」としている。

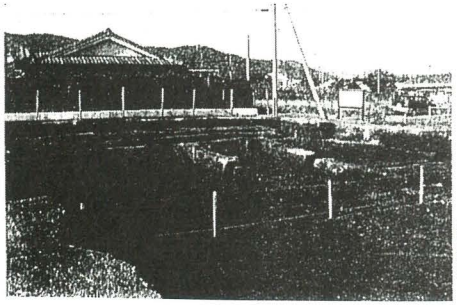
これまで古墳の南限は鹿児島・大隅半島の肝属川流域で、薩摩半島でも川内川流域より南側では発見されていなかった。

同教委によると、最南の古墳は同市十二町で見つかった弥次ケ湯（やじがゆ）古墳で、現状は直径約十八㍍、高さ約一・三㍍。全体の約半分しか発掘されておらず、上部の一部が削り取られていたが、少しずつ土を盛って周めた人工的な構造や、周溝があることから古墳と判断したという。

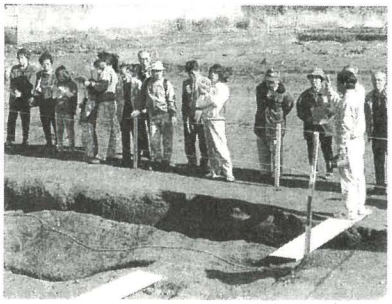
被葬者を納めた石棺などは見つかっていないが、大和王権と後援な関係のあった隼人の有力首長クラスの墓と、市教委はみている。

また、古墳は七世紀後半の開聞岳噴火による火山灰に埋まっており、火山災害で埋没した古墳が確認されたのは西日本では初めてという。

鹿児島大の上村俊雄教授（考古学）は「これまで古墳が見つかっていない地域だけに大きなショックだ。南部九州の古墳文化を考え直さなくてはならない。日向地方（現在の宮崎県）から大隅半島へと南下してきた大和王権の勢力が、鹿児島湾を渡って西へ進んできたのではないか」と話している。



鹿児島県指宿市十二町で見つかった弥次ケ湯古墳（奈良時代前）



古墳発掘現場で説明を聞く見学者

"最南"一目見に400人

指宿 弥次ケ湯古墳を公開

南日本新聞
98年11月29日付

日本最南の古墳と発表された、指宿市十二町の弥次ケ湯古墳が二十八日、一般公開された。川内川流域以南の薩摩半島では初めて見つかった貴重な遺跡。同市教育委員会によると、約四百人が見学に訪れた。二十九日も午前九時から午後三時まで公開される。

同古墳の発見は、これまでの古墳分布の通説を覆すものといわれている。直径十八㍍、残存する高さ一・三㍍の円墳。団地造成に伴う発掘調査中に、開聞岳の火山灰層の下から発見された。同市教委は、遺跡の説明板を準備し、職員を配置して現地説明会を開いた。

鹿児島市から友人ら四人と見学に来た出水徹男さん（六〇）は「上野原などに行ったが、ここもぜひ見てみたかった。中からなにか発見されるのを期待していました」と話した。

同古墳はレーダー探査などの調査をした後、埋め戻して保存される。

弥次ケ湯古墳

「まだある」膨らむ期待

公営住宅ずらし保存へ

日本でもっとも南にある弥次ケ湯古墳が見つかった指宿市十二町の発掘現場では、二十五日の発表後も地道な発掘作業が続いた。今後の最大目標は被葬者の眠る埋葬部分をつきとめることだ。市は建設を予定していた公営住宅の位置をずらして、古墳を保存することを決めた。古墳時代の遺跡が点在する市内で第二、第三の古墳が見つかるのではないか、という期待も高まっている。

弥次ケ湯古墳の発見で、薩摩半島でも大和政権の影響を受けた階級社会が成立していた可能性が高まり、原始共同体的な社会とされた従来の「ハヤト」像が見直されそうだ。

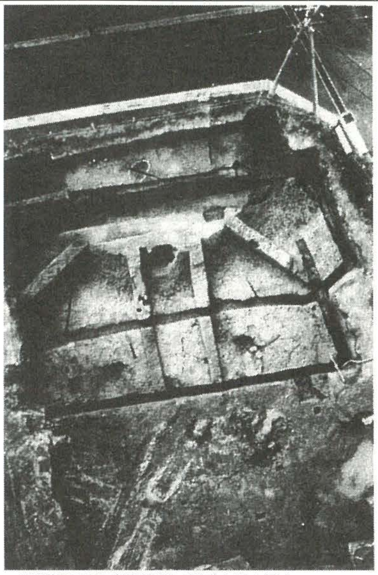
古墳は大和政権と交流を持った「ハヤト」のものなのか。それとも、「ハヤト」を支配した大和政権の豪族のものなのか。市教委は「埋葬施設や副葬品が見つかれば、そのなぞが解けるかもしれない」という。今後も十数人の市発掘調査員が作業を続ける。

発掘現場の学芸員からは「付近にほかにも古墳が眠っているかもしれない」という声も聞かれた。

古墳周辺にある国指定史跡の橋牟礼川遺跡からは、古墳とセットで出土するとされる須恵器や子持ちまが玉、青銅製品などが見つかっている。近くの追田遺跡からも古墳時代の大量の土器破片などが見つかっており、当時、この付近に大規模な集落があったのではないかとみられている。

また、墳丘の周囲に溝のある弥次ケ湯古墳の構造や、少しずつ土を盛って固めて造る版築工法をとっていることから、洗練された古墳の造営が伝わっていたことがうかがえるという。

市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」の渡部徹也主事は「ひとつだけぽつんと古墳ができたとは考えにくい。ほかにもある、とみるのが自然だ」と、住宅街で突然見つかった古墳を見下ろしながら話した。



埋葬施設の発見が期待される弥次ケ湯古墳／写真提供・指宿市教委＝指宿市十二町で

想像される大和政権の影響 研究者の見方

これまで古墳がないと言われていた薩摩半島で古墳が見つかった。九州大学の西谷正教授は「薩摩半島の先端に古墳が見つかったのは面白いですね」と話す。

「通説として、未開な地の印象を与えていた所に、古墳文化が及んでいたのですから。階層化した社会だったことが分かった。薩摩の在地の勢力が、大和との関係で古墳を受け入れたと思われます」

「日本書紀」や「古事記」によると、まつろわぬ（従わない）「熊襲」と違って、隼人は朝廷に服従したものとされている。天武十一年（六八二年）には、阿多隼人（薩摩半島に居住した隼人）と大隅隼人が朝廷で相撲をしたという。天武朝以降は、朝廷に朝貢し、一部は畿内各地に移住し宮門警備や、大嘗祭で犬声を発し、歌舞して服属儀礼を表した。

「後に明確になる服属儀礼などの、前段の現れではないか。「開聞岳の火山灰でパックされたおかげで古墳が残っていた」と西谷教授。

大塚初重明治大名誉教授は「大和政権と何らかの政治的、歴史的関係を一応は想定でき、注目していいのではないか。大和との関係を推定する指標は前方後円墳だが、古墳が一基だけぽつんと存在することは少ない。阿久根市では四世紀後半の竪穴式石室を持つ前方後円墳が見つかっている。近い将来、この地域で前方後円墳が見つかる可能性は十分にあり、今後の調査が期待される」と話している。

朝日新聞
98年11月26日付

日本最南の古墳発見

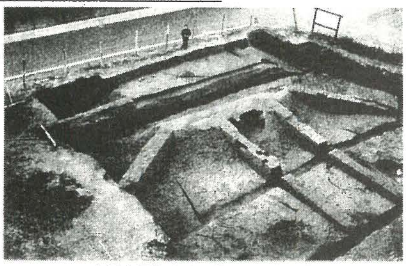
鹿児島 指宿市 「空白の薩摩半島」覆す

鹿児島県指宿市教委は二十五日、同市十二町の弥次ケ湯地区から、六世紀から七世紀前半に造ったとみられる日本最南に位置する古墳が見つかった、と発表した。古墳は県北西部や大隅半島などに点在しているが、薩摩半島での確認は初めて。市教委は、古墳時代にあった大和朝廷の影響力が南九州全域に及んでいたことを示す、貴重な古墳としている。

弥次ケ湯と名付けられた古墳は円墳で、墳丘の直径約十八メートル。上部は、その後の土地整備で削られて平らになっており、現在の高さは一・三メートル。墳丘の周囲には幅約二メートル、深さ約四十センチの周溝が掘られている。遺体を安置した石室や副葬品は見つかっていない。

発掘場所は市役所から南南東約八百メートルの市街地。公営住宅の建て替えにともなう発掘調査で見つかった。古墳は、約半分が今回発掘した住宅の敷地内にあり、残り半分は市道の下に埋もれたまま。

市教委の説明によると、これまでの古墳の南限は、鹿児島県高山町（大隅半島）の塚崎古墳群だった。薩摩半島では古墳が見つかっていなかったことから、古墳に象徴される階級構造を持たない原始共同体的な「ハヤト」の社会集団が存在したと考えられ、大和朝廷の力が及んでいなかったと見られていた。



鹿児島県指宿市で見つかった日本最南の弥次ヶ湯古墳（市教委提供）

今回の発見について、現地を視察した鹿児島大学法文学部の上村俊雄教授（考古学）は「古墳が見つかっていなかった薩摩半島は、階級が未分化な社会地域と評価されてきた。今回の発見は大和朝廷の勢力が南九州の隅々まで及び、この地域に階級社会が存在していたことをうかがわせ、通説をも覆すものだ。古墳文化の広がりを考える上でも極めて重要」としている。

読売新聞
98年11月26日付

「空白」の薩摩から円墳

指宿 大和政権の影響か

発掘された円墳「弥次ケ湯古墳」（中央の盛り土部分）＝指宿市教委提供

鹿児島県指宿市教委は25日、同市十二町の敷領遺跡の発掘調査で、6世紀～7世紀前半（古墳時代）の円墳を確認し、「弥次ケ湯古墳」と名づけたと発表した。市教委は「大和政権の影響を受けた隼人の王墓」とみており「古墳の空白地とされた薩摩半島で初の確認例」としている。古墳としては日本最南端で、古代の薩摩半島にいた隼人が、古墳文化を担った大和政権の影響を受けていた発見例として注目される。

市教委によると、古墳は、団地造成予定地の地中から見つかった。7世紀後半の開聞岳の噴火により短期間に火山灰で埋没したとみられ、保存状態が良い。最大直径約18メートル、高さ約1・3メートルの円形の盛り土。周囲を巡る周溝（幅約1・5～2メートル、深さ約40センチ）もあった。これまでに古墳の東側半分を発掘した。上部構造は失われ、本来の高さは不明。副葬品や石室など埋葬者の所在を示す遺構は確認されていない。

しかし、市教委は、盛り土は、土を突き固めて重ねる「版築法」による人工物▽古墳特有の周溝を伴う▽大和政権の影響下で作られた他地域の円墳と共通する形状、規模を持つ――という点から、大和政権の影響下で作られた円墳と判断した。同時代の円墳は大隅半島では確認されている。

隼人は古代に九州南部地方に居住していた人々のことを言う。市教委は「これまでは階級未分化の共同体社会だったと考えられていたが、古墳の発見により階層社会が成立していたことが分かった」と話している。【居垣 隆弘】

従来の説変える発見

上村俊雄・鹿児島大教授（考古学）の話 形態から見て畿内型高塚に当たる。この時代は隼人の独自性が強く、大和政権の影響は及んでいなかったとする従来の説を変える発見だ。

毎日新聞
98年11月26日付

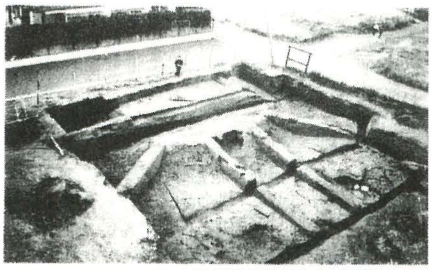
ハヤト文化圏に円墳

大和政権との関係示す

本土最南 指宿 支配階級が存在

6－7世紀前半

鹿児島県指宿市教委は二十五日、同市十二町の弥次ケ湯（やじがゆ）地区の七世紀後半の火山灰層の下から、高塚古墳（円墳）を発掘した、と発表した。同県の川内川以南で古墳が見つかったのは初めてで、本土最南端の古墳となる。川内川以南は大和政権・文化とは違う独自の「薩摩ハヤト」文化圏とされ、従来、古墳もないことから階級未分化の社会と考えられていたが、古墳は階級社会の存在と、中央の大和政権と関係があったことを示し、これまでの定説を見直す貴重な史料といえそうだ。



鹿児島県指宿市の弥次ケ湯地区で見つかった円墳

同市教委によると、見つかった円墳は半円状で、六世紀から七世紀前半にかけてのもの。大きさは直径約十八㍍あり、最も高い墳丘部分の高さは一・三㍍。幅約二㍍、深さ約四十㌢の周溝をめぐらしている。残りの部分は現場横の道路下にあるとみられる。ただ、人を埋葬する石室や人骨、副葬品は見つかっていない。

同県内ではこれまで、大隅半島側の大崎町の「横瀬古墳」で前方後円墳が確認されているほか、川内市でも前方後円墳らしい遺構が見つかり、いずれも当時の大和政権とつながりがあるものとみられている。

しかし、「薩摩ハヤト」の文化圏とされる川内川以南では、山川町の成川遺跡などで、土を掘って埋めるだけの土壙（どこう）墓の確認例があるのみだ。また指宿市内では、これまで六つの遺跡で古墳時代の集落が確認されているが、政治的支配者の存在を示唆する古墳の発見はなかった。

同市教委は、現地を「弥次ケ湯古墳」と命名して保存を目指す方針。今後、道路下に埋まっているとみられる残り半分について、レーダー探査などで調べることにしている。日本書紀では、大和政権が「隼人（はやと）」の呼称を使うようになったのは、七世紀後半からで、それ以前の歴史を解明する手がかりになると期待される。

発掘現場は、JR指宿駅と指宿市役所間の中心街に位置し、県営と市営の団地造成を前に今年七月から発掘調査を進めていた。

古墳時代の通説覆す

柳沢一男・宮崎大教育学部教授（考古学）の話　規模から首長クラスの古墳と想定される。これまで薩摩半島には古墳がないといわれてきており、薩摩半島の人々は階級未分化な社会集団と評価されてきたが、この通説を覆し、古墳時代の社会像の変更が必要になる。日本最南端の古墳で、日本史全体の視点からも大和政権の対南九州政策を考える上で極めて重要だ。

何らかの政治的関係

西谷正・九州大教授（考古学）の話　現地を見ていないが、薩摩半島の南端まで、古墳文化が広がっていたことになり、大和朝廷と何らかの政治的関係があったといえる。また、古墳を築くには支配者が必要で、従来のイメージを塗り替えるものだ。

西日本新聞
98年11月26日付

薩摩半島の古代社会像

「根底から見直す必要」

指宿の古墳発見

市教委、急きょ保存・調査へ

28、29日に現地見学会も

「薩摩半島の古代の社会像を根底から見直す必要がでてきた」。二十五日、指宿市教委が発表した六世紀から七世紀前半の「弥次ケ湯古墳」の発掘は、同半島を中心として存在した「薩摩ハヤト」の解明への扉を開いた。地元では急きょ、古墳保存に乗り出し、さらに調査を進める。

↑弥次ケ湯古墳の発掘調査結果を発表する室屋昭男・指宿市教委社会教育課長（左）ら

同市教委が、今回発表した遺構を古墳と断定した根拠は、各地の高塚古墳と同様に①少しずつ土を盛ってつき固めて築造した「版築構造」が見られる②墳丘の周りを溝が巡っている－二点で、「このような形状の遺構は、古墳以外に考えられない」と説明する。

現地を視察した上村俊雄・鹿児島大教授（考古学）は「古墳に副葬品がなかったのは、当時はまだこの地域に生産技術がなかったことを示すのかもしれない。それでも、古墳を造るだけの階級社会があったのは間違いなく、多分、地元の第一有力者の墓だったのではないか」とみる。

また、本土南端の指宿で古墳が発見されたことについて、中村明蔵・鹿児島経済大教授（日本古代史）は「大和朝廷の勢力が南九州に及んでいく過程では、薩摩・大隅のそれぞれの半島部分に拠点を設け、そこから勢力を拡大させたのでしょう」と指摘する。

現場は県営と市営住宅の建設予定地だったが、同市教委は、関係機関と協議。古墳を埋め戻し、「盛土保存」をすることにしている。

同市教委は二十八、二十九の両日、午前九時から午後三時まで、古墳の現地見学会を開く。

西日本新聞
98年11月26日付

朝日新聞
98年11月26日付

日本最南の古墳発見

鹿児島・弥次ケ湯古墳

大和の王権 全国に影響

住宅街で発見された日本最南端の古墳「弥次ケ湯古墳」＝25日午前11時、鹿児島県指宿市十二町で

鹿児島県指宿市教委は二十五日、六世紀から七世紀前半にできたとみられる日本最南端の弥次ケ湯古墳を同市十二町で発見した、と発表した。これまで、古墳の南限は同県大隅半島中部の塚崎古墳群（高山町）とされており、薩摩半島での古墳発見は初めて。同市教委では、古墳時代に大和にあった王権の影響力が日本列島の隅々まで及んでいたことを示す、画期的な古墳とみている。当時、薩摩半島にいた「ハヤト」と呼ばれる社会集団と大和政権との力関係を探る上でも貴重な古墳との指摘も出ている。

古墳は墳丘の直径が十八㍍の円墳で、上部は後世に削られ、平らになっている。現在の高さは約一・三㍍。墳丘の周囲には幅約二㍍、深さ約四十㌢の周溝が掘られ、多くの古墳で用いられている土を少しずつ盛って固めた「版築工法」の形跡がみられる。埋葬施設や副葬品などはまだ見つかっていない。

古墳は、公営住宅の建て替えに伴う発掘調査で見つかった。周辺の試掘で平安時代の土器などが見つかったことから、七月末から調査を開始。今月初めに古墳の存在がわかり、専門家に調査を依頼していた。

古墳は約半分が住宅の敷地内にあり、七世紀後半の開聞岳の噴火による火山灰層から発掘された。残り半分は市道の下に埋もれている。古墳の土台の部分は六世紀の土器を含む地層にあることから、六―七世紀前半に造られたものだという。

弥次ケ湯古墳の南南東約二㌔には、古墳時代の須恵器や子持ちまが玉などが見つかっている橋牟礼川遺跡がある。

同市教委によると、これまで薩摩半島には古墳はないとされていたため、橋牟礼川遺跡は古墳に象徴される階級構造を持たない原始共同体的な集落の跡と考えられてきた。大和政権とは一線を画す社会集団「ハヤト」の遺跡ではないかとする説もあった。

ハヤト、中央と接触か

中村明蔵・鹿児島経済大教授（日本古代史）の話

文献史学的には、七世紀にハヤトの居住地域へ大和朝廷の力が及んだと考えられている。七世紀後半にはハヤトが朝廷に服属、朝貢を始めており、逆算すると、七世紀前半にはハヤトが中央と接触を開始していたことが想定できる。

大和朝廷の勢力が南九州に及んでいくプロセスをみると、南九州以北から南下するのでなく、薩摩、大隅の各半島部分に拠点を設け、そこから北上するように勢力を拡大させていった、との説が、今回の発見により裏付けられた。こうして朝廷は北薩地域をおさえ、八世紀には南九州一帯を律令国家へ編入していった。

首長クラスの古墳

柳沢一男・宮崎大教育学部教授（考古学）の話

一般の群集墳より規模が大きく、地域の首長クラスの人物の古墳と推定される。日本最南端の古墳として、大和王権の対南九州政策を考えるうえでも重要だ。

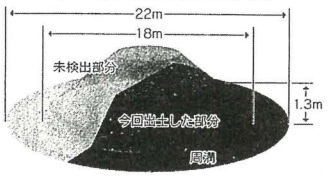
「隼人」の原型 見直す必要も

指宿市の弥次ケ湯古墳

階級社会存在か

薩摩半島の南部、指宿市十二町で、大和王権の墓制である円墳が発見されたことは、川内川流域や肝付川流域が南限とみられていた古墳の分布を塗り替えた。さらに今後、埋葬部分などの調査が進むことにより、中央への抵抗を続けた隼人像や大和王権の南九州への影響など、従来の通説を見直す必要も出てきそうだ。

弥次ケ湯古墳推定復元模式図



南九州の古墳時代の墓制分布

（河口貞徳氏、指宿市教委などによる）

四―七世紀の古墳時代は日本各地の有力者が土を盛り上げて高塚古墳を造った。前方後円墳や、今回発見された弥次ケ湯古墳などの円墳は、畿内を中心にした大和王権が権力を持った時代の象徴とされる。

しかし、同時代に南九州には、地下から水平に穴を掘った「地下式横穴墓」や地下の石室に石を積み重ねた「地下式板石積み石室」という独特の古墳があった。また指宿郡山川町の成川遺跡など南薩では、穴を掘って埋葬しただけの土壙（こう）墓が主流。これら独自の墓制は「階級が未分化だった古代隼人の墓制」（河口貞徳・県考古学会長）と考えられてきた。

指宿市で円墳が確認されたことは、当時の南九州に中央の大和王権の影響が及び、階級差の発達した社会があったことを想像させる。南九州の古代史に詳しいラ・サール学園の永山修一教諭は「異質なイメージで語られた隼人も中央と直接か間接のつながりを持ち、同様の社会を持っていたのだろう。文献に現れる隼人研究の前提を見直す発見」と指摘した。

河口会長は「可能性は十分あるが、古墳と断定するには、埋葬施設などの確認を待ちたい」と慎重な姿勢。同志社大学の森浩一教授（考古学、文化史）も「詳しい調査が必要」としながらも「円墳の被埋葬者は南薩の隼人の首長クラスの人物だろう。南薩の隼人が大和政権との間に文化交流を持っていたことを示す。この勢力が後に（畿内に移住させられた）阿多隼人と呼ばれる集団になるのではないか」と推測している。

古墳は保存

28、29日現地見学会

指宿市などは二十五日までに、同市十二町の弥次ケ湯古墳の古墳部分を埋め戻して盛土保存することを決めた。同古墳が見つかった一帯は団地造成して県営、市営の住宅を建設する予定だったが、古墳部分については造成を中止することにした。

また、同市教委は二十八、二十九の両日、午前九時から午後三時まで現地見学会を実施する。二十八日から十二月二十五日までは同市考古博物館時遊館COCCOはしむれに古墳を詳しく紹介した速報コーナーを作る。

南日本新聞
98年11月26日付

平成１０年度学芸員研究報告

１．財団法人日本科学財団研究助成金研究

本項では，平成１０年度において，日本科学財団から助成金の交付を受けて行った研究概要を報告する．

研究代表者：指宿市教育委員会社会教育課　　主査　下山　　覚
共同研究者：　　同　　主事　中摩浩太郎
　　同　　主事　渡部　徹也
　　同　　主事　鎌田　洋昭
研究指導者：指宿市教育委員会教育長　　山下　隼雄
研究助言者：ラサール学園教諭　　永山　修一
研究期間　：平成１０年４月１日～平成１１年２月１５日

２．研　究　報　告（抄）

２．１　研究の目的『考古学的手法による災害履歴分析について』

日本では高度経済成長期以降，全国的な発掘調査の急増に伴って，考古学対象である遺跡から，過去の災害に関する情報が蓄積されてきている．そして，部分的には，過去の災害のあり方から，現在の防災意識の高揚や災害予知に役立つ情報が引き出されている．

また，先験的には，災害によって様々な文化要素が変化することが指摘されているが，考古学的手法を用いて多様な過去の災害を分析する方法や理論については研究の途上であり，文化変異と災害との因果関係を明らかにする上でも，一層の研究の深化が望まれる．

こうした課題を解決するためには，災害のプロセスに応じて，被災者が災害に対してどのような評価を下し，激変した環境に適応する行為（災害適応）を試みたかという点について事例を収集し，それを体系的に整理する必要があると考える．

したがって，今回の研究では，考古学的手法によって収集された過去の災害情報の中でも，特に，被災者の「評価と適応」という観点から，災害を受けた遺跡の情報を整理し，収集した全国の事例の分類から過去の災害の様相を明らかにするとともに，災害と文化変異の関りについて考察を加える．

２．２　研究実施項目とその内容

今回の研究では，考古学的手法によって収集された過去の災害情報を得て，特に，被災者の評価と適応という点について，災害のプロセスに準じて整理するため，以下の研究実施項目について取り組んだ．

①　災害情報を有する遺跡の事例収集

（内容）全国の災害遺跡について，「火山災害」「地震災害」「洪水災害」「火災災害」「その他」の項目分類を設け，事例の収集にあたった．

その際，事前に基本的な文献等の調査を通じて入手した災害遺跡事例に関して，災害事例調査票（別添１）を作成，全国の自治体・埋蔵文化財センターなどへ照会するとともに，事例所収の文献（発掘調査報告書）の収集を行った．また，群馬県，北海道においては火山災害事例が多数知られているめ，詳細な事例収集を目的とした現地調査を行った．以上の作業から得られた事例についてデータベース化を実施した．

②　災害情報を有する遺跡についての文献調査

（内容）発掘調査報告書に限らず，論文集等も対象とし災害遺跡に関する文献を網羅的に収集した．

③　保管資料としての歴史文献の調査

（内容）過去の災害評価などに関する分析の補完的な資料とするため歴史上の文献で，災害に関する文献を収集した．

④　災害の質・規模に関する自然科学分野の文献調査

（内容）災害発生時にかかわるメカニズムとプロセス理解のための補助的な資料として文献を収集した．

２．３　研究の成果

①　災害情報を有する遺跡の事例収集について

災害遺跡調査事例のある自治体，埋蔵文化財センター等１６８箇所に全国災害遺跡調査票を送付するとともに，群馬県高崎市教育委員会，子持村教育委員会，群馬県埋蔵文化センターを訪ね，災害遺跡事例を調査した．収集した災害遺跡事例は，６９７件，災害種類別の内訳は以下のとおりである．

（内訳）　A　地震災害遺跡　２７４件
　　B　洪水災害遺跡　　６４件
　　C　火山災害遺跡　３４７件
　　D　火災災害遺跡　　１２件

調査の現状では，地震災害事例，火山災害事例が卓越している．研究の目的に鑑みた場合，これら数ある事例の中でも特に注目されるのが，直接的に災害からダメージを受けた遺構（直接被災遺構）と復旧痕跡が検出されている事例である．以下，災害種類別に代表的な直接被災遺構と復旧痕跡の事例をあげたい．

A・地震災害遺跡事例

（１）縄文時代

八木A遺跡（北海道茅部郡）では，大規模地震による地滑りが発生し，海岸段丘状に営まれた縄文時代前期中葉の集落遺跡が被災している．竪穴住居，盛土遺構，土壙墓等が崩壊したが，被災後，集落は段丘の中央に移動し継続したと見られている．また，矢頭遺跡（神奈川県足柄郡）では，地震に伴う地割れによって竪穴住居の床面が崩れたが，地割れ痕跡の直上に完形の浅鉢が２個体重ね合わせた状態で出土し，地割れ部分が埋まった後，意図的に土器が置かれた可能性が指摘されており興味深い．

（２）弥生時代

松林遺跡（香川県高松市）では，弥生中期の地震に伴う噴砂で吹きあがった砂脈の上から，甕と壷がそれぞれ伏せられた状態で出土した．地震痕跡以後の時期には，遺構が皆無であるため，隣接地の多肥松林遺跡に移住した可能性も指摘されている．二伝寺前遺跡では，弥生後期の地震によって竪穴住居が被災したが，地割れによってひび割れた床面に新しい床面を構築している状況が看取されている．

（３）古墳時代

原の前遺跡（島根県松江市）では，５世紀ごろの地震によって舟着場に伴う杭が折れ曲がり，新たに杭を打ち直して復旧している痕跡が発見されている．

（４）古代

多賀城附寺跡（宮城県多賀城市）では，貞観11年の陸奥国大地震によって，政庁第Ⅲ期が廃絶したが，その後，陸奥国修理府が臨時に設けられ，政庁第Ⅳ期が再建されている．これについては日本三代実録や続日本紀に記載が有り文献資料と考古学的成果との対比によって，災害と復興の状況が詳細に分析されている．

（5）中～近世

中・近世の事例としては，長浜町遺跡（滋賀県長浜市）が挙げられる．中世においては，天正13年の天正地震によって町家の倒壊や火災に見舞われているが，焼けた町を整地して，町屋を再建している．近世においても寛文2年の琵琶湖西岸地震によって，被災したが，焼土の上に盛土を行い町屋を再建している．

（6）概括

地震による直接被災の事例は，上記のものも含め27例を収集した．縄文時代の矢頭遺跡や弥生時代の松林遺跡のように地震によって生じた地割れや砂脈の上に土器を被せる事例は，地鎮という呪術的な手段で災害に対峙した興味深い事例である．また，古代以降は，文献記録との対比によって災害と復旧の状況を出来る事例が多くなるため，往時の社会状況と復旧行為との関わりについても詳細に把握することが可能であろう．また，集落構造の変化に伴い，地震によって誘発された火災によって被害が拡大している点も地震災害のプロセスを復元する上で重要である．

地震考古学の分野では，地震痕跡と遺構の年代との関りから，活断層の活動のサイクルを把握し，防災に役立てようとする研究が行なわれている．今後，こうした研究と並行して，考古資料を中心に，被災した人々が地震をどのように評価し対応していったのかを往時の社会状況を踏まえたうえで通時的・体系的に整理することで地震災害に対する災害認識の変化とその要因を追求できるものと期待される．

B．洪水災害遺跡事例

縄文時代以前の直接被災した洪水災害事例は，今回の調査では管見に触れなかった．以下，弥生時代以降の事例について報告する．

（1）弥生時代

田村遺跡群（高知県南国市），池島・福万寺遺跡（大阪府八尾市）など砂層に覆われた水田のほとんどは洪水災害に見舞われた事例である．池島・福万寺遺跡では，度々発生する洪水災害に対して，水田の一部に「島畠」を形成し土砂に埋もれない耕作地を確保していた．これまで，「洪水災害による埋没遺構」といった視点で調査がされた事例が稀少なため，今後，砂層形成のプロセスをはじめ，砂層直下の水田面の状況や関連遺構・遺物の状況に十分な注意を払いながら調査を進める必要がある．

（2）古墳時代以降

富永西小敷町遺跡（福岡県波羽郡）では，集落遺跡全体が洪水砂に被覆され，洪水によって発生した流路が竪穴住居を切っている事例が発見されている．集落そのものは災害以前に廃絶されていた可能性も指摘されているが，洪水災害以降は，集落が営まれず，付近一帯は現代まで水田として利用されている．

中・近世の富田城の城下町であった富田川河床遺跡（島根県広瀬町）では，被害にあった遺構の補修痕跡や，大規模な洪水で埋没した遺構の上部に集落の再建を繰り返していたことが判明している．この集落は1666年に完全に水没した．洪水の原因については，上流に位置する製鉄施設の経営に伴う廃土の流入による河床上昇との見解がある．屋代遺跡群（長野県更埴市）では，5世紀中葉，7世紀後半，8世紀初頭，8世紀前半，9世紀末，中世～近世の各時期に洪水災害を被り，田畠や集落が埋もれている．特に9世紀末の

災害では，水田，畠，竪穴住居等が埋没したが，一部の集落では住居を再建した痕跡が見られた．しかしながら，水田の復旧痕跡は確認されていない．同じく，長野県の川田条里遺跡でも，弥生時代から近世に至る洪水災害が見られ，その都度，水田が復旧されている．

（３）概括

洪水災害は，毎年の自然条件によって発生する，いわば「定期的災害」と考えられる．洪水災害は，雨季の河川増水に伴い発生し，特定の地域において被害が繰り返される場合が多い．そのため，災害に対して様々な適応策がとられている．古いものでは，古代の水田で見られる井堰跡や堤防跡が挙げられるであろう．また，木曽川・長良川・揖斐川が合流する濃尾平野南西部での輪中集落が発達は，集落全体を洪水から保護することを目的とした囲堤である．

洪水災害は，頻発するが故に，適応の実態を知る手掛かりを残す場合が多い．上記の事例だけを見ても，洪水災害に対する適応手段として，主体的な取り組みとして町づくりを行い，それに備えた事例があることがわかる．また，洪水後に旧集落域を再利用する事例も知ることができる．

災害への適応手段については，各集団の技術的背景を含めた選択がなされたものと看做される．そして，その方策については，従来知られている堤防等の防御的な施設等，個別の施設の観察に留まらず，継続的な集落経営を前提とした町づくりの視点からも，遺構の観察が必要となってくるものと考えられる．

Ｃ．火山災害遺跡事例

（１）縄文時代

南部九州は，縄文時代早期，約6400年前の鬼界カルデラの噴火によって大きな被害がもたらされたと考えられている．この時の「アカホヤ」と呼ばれる火砕流堆積物層を前後して土器型式が一変するとの指摘もあり，早くから研究者の間では注目されていた．現段階では，直接被災遺構は未検出であるが，「アカホヤ」の中から炭化材の発見例などがあり，将来的には災害遺跡が発見されるものと期待される．

伊勢谷遺跡（宮崎県都城市）では，縄文時代後期の霧島御池軽石の降下時期に極めて近い段階で廃棄されたと考えられる竪穴住居跡が検出され，軽石層の直下から建物建材の一部と見られる炭化材や炭化粒の散布域が確認されている．

（２）弥生時代

山ノ口遺跡（鹿児島県肝属郡）では，弥生時代中期の祭祀遺構が発見されたが，この時期の開聞岳噴出物が遺構面を被覆していた．被災状況は定かではないが，祭祀遺構に伴う集落遺跡，あるいは生産遺跡の発見が期待される．

（３）古墳時代

黒井峯遺跡（群馬県子持村），西組遺跡（群馬県子持村），中筋遺跡（同県渋川市）では，６世紀の榛名山の噴火に伴う火山灰と軽石層の下から集落跡がほぼ完全な形で発掘されている．こうした事例は，被災直前の状況を良好に残しており，往時の属性の抽出作業にも有効性が高い．

（４）平安時代以降

胡桃館遺跡（秋田県）では，十和田湖の平安時代に起きた噴火に伴う土石流によって，平安時代の建物がそのまま発見されている．

また，天明三年の浅間山の噴火によって発生した火砕流によって埋没した旧鎌原村の発掘調査では，な

まなましい状態で被災者の遺体が発見された.これらの事例は,火山災害が瞬時にして当時の生活面をパックすることを物語っており，ゆえに膨大な情報が保存されていることを強く印象付ける事例である.

火山噴出物の除去痕跡としては，鹿児島県福山町藤兵衛坂段遺跡で発見された「ボラ塚」が知られている.畠に堆積する軽石層を後世に除去しようとしたものである.土地利用の変化に伴い,条件を改善しようとする行為事態は，災害が発生してから時間が経っても災害適応の手段としてみなされよう.

橋牟礼川遺跡（鹿児島県指宿市）では，874年の開聞岳噴火で埋没した集落跡が発見されている.約30～50cmの厚さの火山灰の下からは畠，道，倒壊した建物跡，貝塚，土石流で埋まった旧河川などが火山灰直下から検出され災害状況の復元が可能となった.火山灰の上層には復旧痕跡が認められず,上層から発見される土器の年代もおおむね10世紀以降のものであることから，火山灰降下後は集落は廃棄されたものと考えられる.一方，この平安時代の包含層の下には，7世紀第4四半期の開聞岳火山灰も堆積しており，その火山灰層下からも遺構群が検出され,この火山灰降下の前後で生活が継続していることが貝塚の形成状況から確認されている.つまり火山灰降下以前から貝が捨てられはじめ,火山灰降下後も同じ場所に貝が捨てられ続けてる状況であった.また,火山灰の上面を利用した道路跡も発見されており,集落の機能を回復させようとした意図が読み取れる.

橋牟礼川遺跡の場合は2つの時期の火山災害の状況とその適応事例を比較できる災害考古学研究にとっては標識的な遺跡である.さらに,噴火の時期（特に7世紀代4四半期）は南部九州に律令制度が波及する時期と関連している.従って火山災害と日本史的なレベルでの社会変化が当該遺跡の所在する地域の文化内容の変化にどのような影響を与えたのかを追求できるため,災害考古学研究のモデルケースとして位置付けることができる.

（5）概括

火山災害遺跡の事例は，347箇所を数える.うち直接被災遺構の見られる火山災害遺跡の調査例は，現在のところ群馬県榛名山周辺と指宿市内に圧倒的に多い.いずれの災害プロセスを見ても,噴火後,土石流が発生している場合が多く,火山灰や軽石の降下による加圧と2次的に発生した土石流による破壊･埋没が集落に大きな被害をもたらしている.復旧された事例は少なく,厚く積もったテフラの前に集落が埋没している事例がほとんどである.今後,テフラの降下範囲と火山灰の層厚から比較的ダメージの少ないと予想されるエリアの遺跡の調査が期待される.すなわち復旧状況を解釈する際,集落に居住していた人々が,災害によってダメージを受けたものの中で,何を優先的に考えて復旧したのかということから,災害に対する評価に加え，生活の中で何を重視していたのかが見えてくる可能性がある.

D．火災遺跡事例

古代においては,焼失住居として取り扱われ,火災の原因につては不明の場合がほとんどである.小塚遺跡（群馬県富岡市）では，弥生中期の竪穴住居，貯蔵穴などが焼失し，火災が集落全域に及んだと考えられている.復旧措置はとられておらず，集落は廃絶している.難波宮跡では，686年，朱鳥元年正月条に見られる出火の痕跡が確認されている.焼け残った宮殿の掘立柱建物の柱の撤去,宮域全体の整地が行なわれたが,建物の再建はなされていない.近世では,大阪城跡の調査に伴い大阪冬の陣，夏の陣の戦に伴う火災痕跡，1863年の五幸町の大火による被災痕跡が確認され，焼土層の整地や城下町の開平拡大などが文献資料に加えて遺構からも追認されている.火災は,落雷や山火事,戦争などの人為的な要因等様々な事由で発生する.焼失住居については,炭化した建材等が焼け落ちている場合が多く,住居の構造復元に有効な情報を得ることが出来る.近世に見られる戦乱に伴う火災は,戦争という人為的な災害が引き起こした2次災害とも言える.

総　括

現状並びに今後の研究の方針をまとめ総括としたい.

世界的にも災害考古学研究は,まだ緒についたばかりではあるが,国内だけを見ても,697例に及ぶ調査例が判明し,研究素材が豊富に存在することが確認できた.中でも火山災害については,火山国日本の特質を歴史的にも示すように分析に際して有効な直接被災事例が多数得られた.これらの情報については,今後の分析に資するようデーターベース化を行った.また,橋牟礼川遺跡をモデルケースに災害考古学の分析手法のセオリーを提示する試みも行なわれている.

今後の研究においては,得られた多くの事例と橋牟礼川遺跡の分析事例をもとにa.災害後の適応措置に関する災害文化の類型化,b.災害評価の推定とその類型化,c.災害プロセスと災害適応の実態復元のための発掘調査の３本を柱に行っていきたい.

②　災害情報を有する遺跡についての文献調査

発掘調査報告書・論文集等の災害遺跡に関する文献を下記のとおり収集した.

発掘調査報告書　２１４件,　論文　６件,　その他参考資料　　３５件

保管資料としての歴史文献の調査

過去の災害評価などに関する分析の補完的な資料とするため歴史上の文献で,災害に関する文献を収集した.

書名

『日本震災凶饉攷』権藤成卿著　1987年

『日本旱魃霖雨史料』荒川秀俊　大隅和雄　田村勝正編　1964年

『日本の天災・地変（上)・(下)』東京府社会課編　　1938年

災害の質・規模に関する自然科学分野の文献調査

災害発生時にかかわるメカニズムとプロセス理解のための補助的な資料として文献を収集した.

書名『地震考古学』寒川旭著　中公新書　1992年

『揺れる大地 日本列島の地震史』寒川旭著　同朋舎出版　1997年

２．４　研究成果の公表

（１）資料集の作成

全国災害遺跡事例集（仮称）

（２）学会発表

火山・災害考古学研究会における事例報告（平成11年９月予定）

今回の研究を基礎に,さらなる研究の深化をはかり,今後一層,積極的に研究成果の公表に努めたい.

２．５　今後の課題

先述のとおり,国内だけを見ても697例に及ぶ災害遺跡の調査例が判明し,研究素材が豊富に存在することが確認できた.災害遺跡事例は発掘調査の進展に伴って増加していくことが予測され,今後の新たな事例収集とその整理を継続的に行うことが基礎的な作業として肝要であると考える.

また,イタリアのポンペイやエルコラーノ,南米のティオティワカン等の海外の災害遺跡についても研究

が行なわれているが，災害と文化変容，当時の社会背景との相関について詳述された研究は少ない．1999年１月に南アフリカ共和国で開催されたWorld Archaeological Congressの中でもArchaeology and the Environmentといったテーマが設けられ研究報告がなされるなど,世界的に見ても災害遺跡研究の一層の進展が期待されている分野である.遺跡の事例数や遺構の残存度を見ると日本が卓越した情報を有しており，世界的な研究動向を見ても,今後大きく貢献することが可能である.今後,世界の災害遺跡の情報についても収集し，国内事例との比較検討を行っていくことが重要であろう．

さらに，収集した災害遺跡事例の分析をもとに

a.災害後の適応措置に関する災害文化の類型化

b.災害評価の推定とその類型化

c.災害プロセスと災害適応の実態復元

を進めることが課題として挙げられる.こうした体系的な研究によって考古学の立場から「災害と人類の適応」といった研究テーマについて寄与し,災害と人類の歴史的考察から将来起こりうる災害に対する適応・評価について多くの情報を提供することが可能になるものと考える．

<付編>　平成１０年度指宿市考古博物館学芸員研究実績

ａ．研究会等発表実績

下山　　覚　世界考古学会議（1.12)「Disaster Archaeology in Japan」（於：南アフリカ共和国）

下山　　覚　先史学研究会（11.28)「指宿橋牟礼川遺跡における火山災害と人類の適応－考古学から－」

下山覚・中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭　　鹿児島大学史学会（2.5)　　「弥次ヶ湯古墳について」

ｂ．論文

下山　　覚　災害の評価をめぐる諸問題,『渡辺誠先生還暦記念論集』.

Shimoyama,S A Case Study on the Development of Disaster Archaeoloy：Especially, on problems of adaptation against disaster.WAC4 Homepage.

中摩浩太郎　南部九州弥生時代竪穴住居の分類.『人類史研究』，１０．鹿児島：人類史研究会.

渡部　徹也　南部九州の軽石製加工品にみる祭祀の変遷.『人類史研究』，１０．鹿児島：人類史研究会.

ｃ．小論

下山　　覚　災害遺跡は何を語るか（１）災害に学ぶ.『歴史九州』．１２月号．福岡：九州歴史大学講座事務局.

災害遺跡は何を語るか（２）災害と集落.『歴史九州』．１月号．福岡：九州歴史大学講座事務局.

災害遺跡は何を語るか（３）『歴史九州』．２月号．福岡：九州歴史大学講座事務局.

災害遺跡は何を語るか（４）『歴史九州』．３月号．福岡：九州歴史大学講座事務局.

中摩浩太郎　コラム　災害に適応した集落遺跡の事例.『歴史九州』．１月号．福岡：九州歴史大学講座事務局.

渡部　徹也　コラム「先史時代のポンペイ」を科学する.『歴史九州』．１２月号．福岡：九州歴史大学講座事務局

鎌田　洋昭　コラム　姶良tn火山灰を基準とした後期旧石器文化研究の現状.『歴史九州』．３月号．福岡：九州歴史大学講座事務局

ｄ．資料紹介

渡部　徹也　国内最南の古墳，弥次ヶ湯古墳について.『文芸指宿』.

火山灰に覆われた日本最南端の古墳.『歴史九州』．１２月号．福岡：九州歴史大学講座事務局.

鎌田　洋昭（共著）宮ノ上遺跡出土・小形縦長剥片資料の紹介,『古文化談叢』，４１．福岡：九州古文化研究会.

下山覚・中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭

指宿市弥次ヶ湯古墳について（速報).『九前研通信』，４．宮崎：九州前方後円墳研究会.

国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡復元古代住居の火災について

1　.本稿の目的

毎年国内各地で実施される発掘調査において多数の竪穴住居遺構が発見されている.こうした多数の調査事例は，竪穴住居の構造解明にとって有効な資料として生かされて来ている.

しかしながら,日本の酸性土壌では建物部材が残存する事例が極めて少なく,竪穴住居の上部構造や詳細な付帯施設の解明にはまだ困難な点が多いものとの指摘もある（山本1996).

こうした中,焼失住居においては炭化した建築部材自体や,上部構造が火災で焼け落ちた直後の状況などをよく残していることから，上部構造の解明に有効な資料のひとつと位置付けられている（石野1994,p16.).特に近年では土葺屋根に関する議論の発端となる等（浅川1998,pp517-521.大塚1998,pp23-40.),焼失建物が提供する情報量は非常に多いと思われる.

さて，国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の復元竪穴住居２棟が，平成10年5月23日に不審火による火災で焼失するという出来事があった.指宿市では史跡を現状に復するため,同年度内に再建工事を完了させた.指宿市考古博物館では,この工事に先立ち,焼失から約８ヵ月が経過した焼失家屋の床面の清掃を行い炭化材の埋没状況を記録した.発掘調査で得られる焼失住居の検討作業にとって,復元的工事によって焼失以前の状況が明確に判明している家屋の焼失後の状態の記録は,今後の焼失家屋の調査･研究に有効な資料のひとつになるものと考えたからである.

本稿では,国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の復元竪穴住居２棟の内,ほぼ全焼状態であった２号復元住居の記録を掲載するものである.

2　２号住居の概要

焼失した１・２号住居は,平成４年度に指宿市が実施した,国指定史跡の遺構確認調査によって検出されたものである.遺構の詳細な情報は,平成７年度に指宿市教育委員会が刊行した発掘調査報告書(下山ほか1996）を参照して頂きたい．ここではその概要と復元後の概要を記す.

住居の時期は，上下の開聞岳テフラの降下年代から７世紀第４四半期（AK-II降下時期）以降から西暦８７４年（MK降下時期）までの間の時期に建築されたとされる.

住居形態は方形平面であり,竪穴の１辺に張り出しを有するプランである.主柱は４,内１は立て替えられた等のためか２穴が隣接し存在する.また竪穴下端部には，直径10cm内外，深さも同程度の小ピットが並んで見られた.床面には埋土中にコップ状鉄さいを包含した炉跡が見られた.

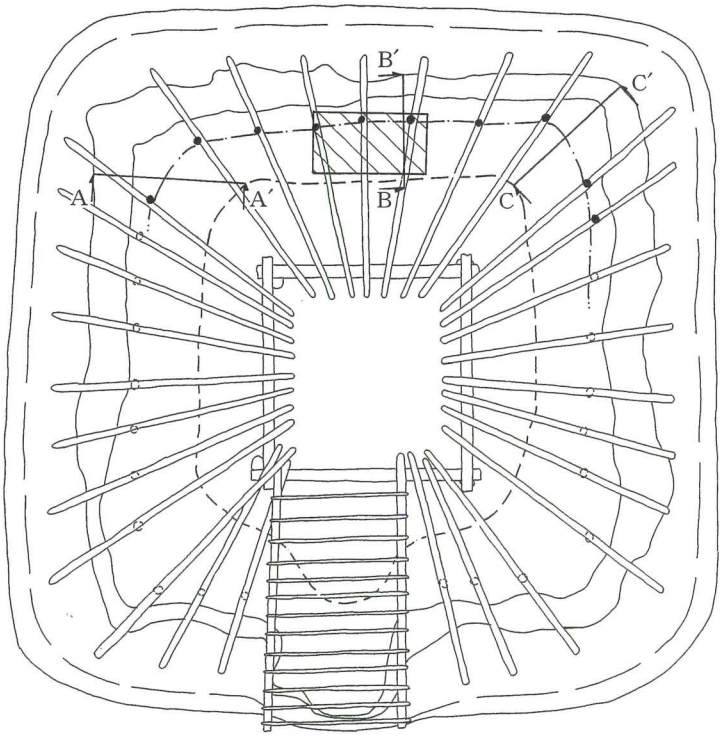


図１　２号住居平面図（S=1/75）

図１は復元平面図である．復元に当たっては，鹿児島大学工学部教授土田充義氏の指導を受けたものである．主柱は４本,主柱の股部分に梁桁を載せ,垂を廻し，梁に差し込んだ合掌で棟を受ける形態とした伏屋式寄棟構造で復元された.竪穴下端部の小ピットは土留め壁用の桟として垂に留め,竹を編んだ壁（柴垣）を組み,裏地に杉皮を入れ,排土を掘り方と竹壁の間に充填した.屋根は,小舞に割ったメダケを用い，植物珪酸体分析結果に基づきススキで４０cm厚に葺上げた.柱材は分析結果に基づき，クスノキ属バリバリノキを用い，事前にクレオソートをがん浸させたものを用いている．垂材はスダジイ･アラカシなどを用いた.木材は

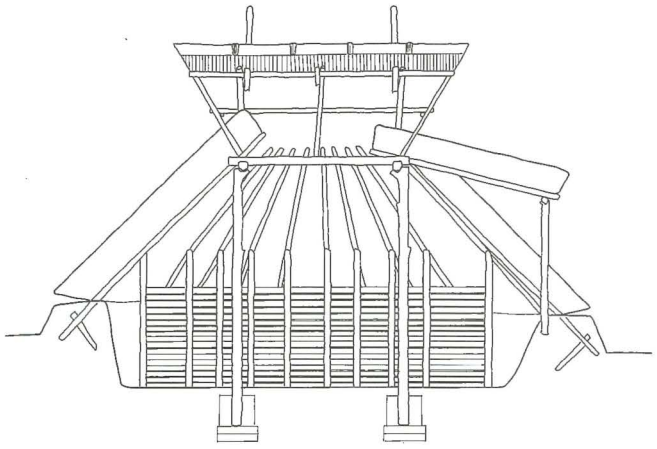


図２　２号住居立面図（S=1/100）

すべて山取り材である．

さて，指宿市は台風常襲地帯である．復元住居の設計段階であった平成５年度には，最大瞬間風速７４mを記録した事例がある．このため，管理上台風対策として，主柱はコンクリート基礎に設置し，また主要部材はボルト締めするとともに，垂材なども目隠しをした上で釘留めしている．また，周堤帯は土にポルトランドセメントを配合し突固めたもので，この中に差し込んだ垂には抜け防止のための横木（杭）を組み合わせ，これもボルトで固定している．

今回の火災は，２号住居からの出火であり，消防署が現地に到着した出火後約１０分経過した時点では，葺材と小舞は残っていない状態であった．それにも関わらず，構造材が倒壊・崩落しなかったのは，このような台風対策の補強策の結果も関係しているものと考えられる．

３　焼失状況

３．１　構造材

上記のように構造材は，倒壊を免れたが，現地における部材の残存状況からは，補強材を用いずに建築した「古代住居」が火災に見舞われた場合の，鎮火後の状況を推定する有効な資料となりうる可能性がある．

このことは，発掘調査によって検出された火災住居の，床面から検出される炭化材の配置状況の観察に際して，具体的な比較検討のための資料となりうることを示している．また，火災住居から上部構造を検討する際の検討材料としても，有効な資料となりうると考えられる．

こうしたことから，今回の火災の状況から想定される構造材の倒壊状況を述べてみたい．

合掌部は西側が梁から外れ，ぶら下がる状態まで焼けており（写真１），この部分の燃焼が激しく，おそらく出火は住居西側であることが推定できる．土留め壁の支柱の先端も西側がより焼けている状況（写真２）も出火位置を示していると考えられる．また，垂材は特に西側のもので芯近くまで炭化が進んだものもある（写真３）．

写真１

本来なら，このような部材は蔓や縄等で縛られたか，あるいは木栓などで留められた可能性が高いが，この場合なら，垂・合掌は床面に崩落していた状況である．ただ，棟木は２支点の内ひとつを失った時点で床面に落下することが考えられる．このため，落下地点は真下の床面とは限らない可能性がある．

また，垂木は本来なら突固めただけの周堤帯に差し込まれていたことが考えられる．火災によって焼け

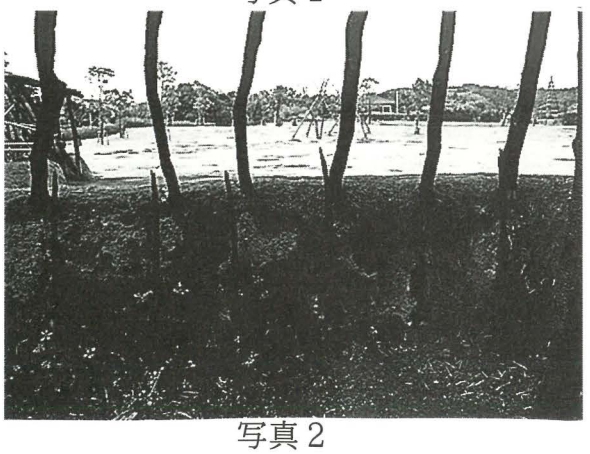


写真２

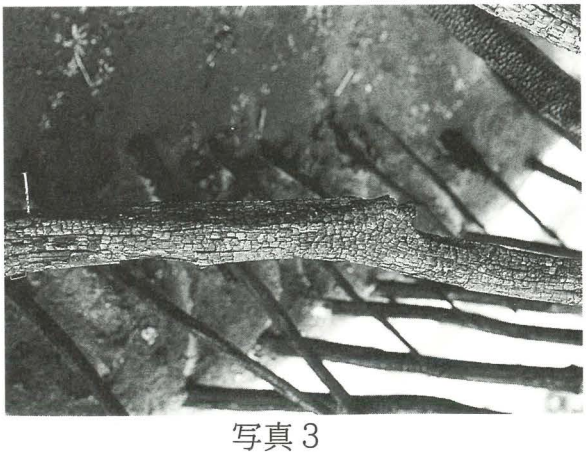


写真３

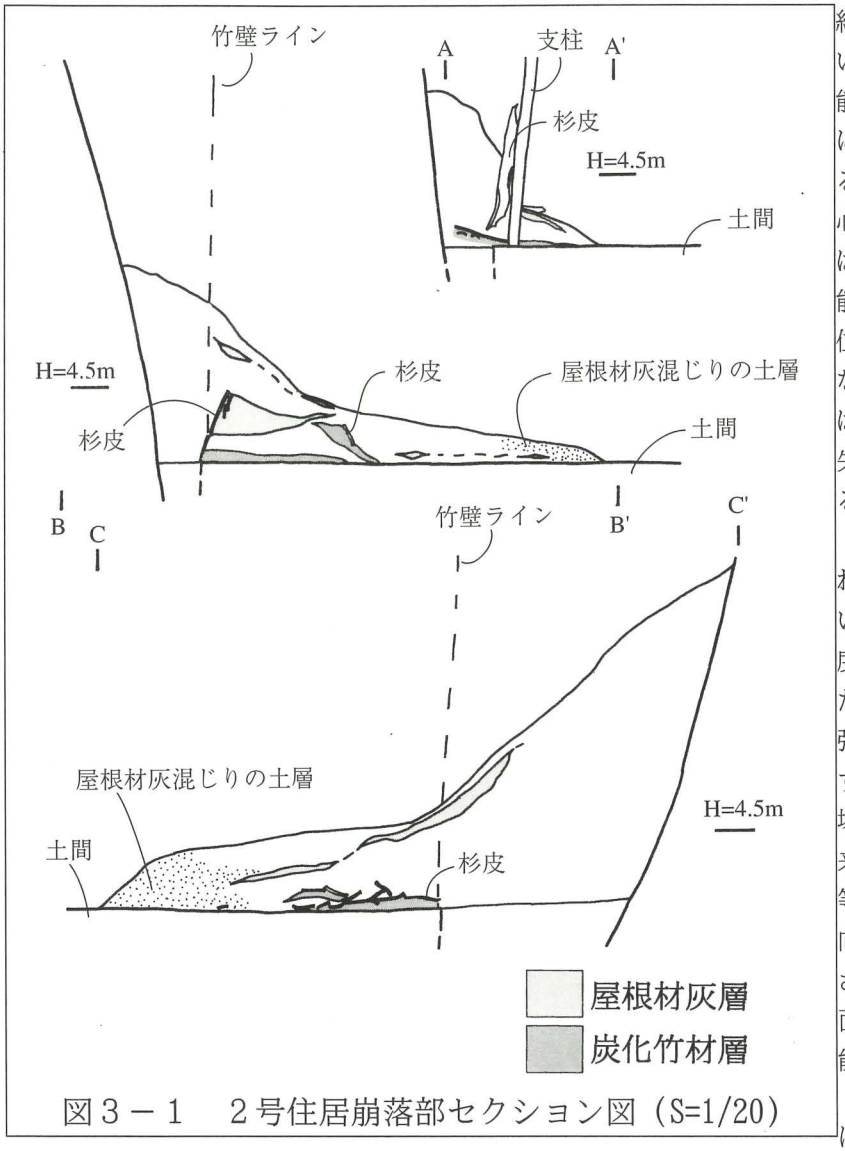


図３－１　２号住居崩落部セクション図（S=1/20）

細った垂材は自重で折れるか，あるいは先端が梁から外れ倒れ落ちた可能性がある．この場合，垂材は直下に落下する可能性は高いと考えられる．火災住居で特徴的に見られる中心部分から放射状に配置する炭化物は，こうしたことから垂木である可能性は高い．また，既に棟木の落下位置が，本来あった位置の直下ではない可能性を述べたが，垂木の状態は棟木の落下位置にかかわらず，焼失前にあった本来の位置を示している可能性が高いと考えられる．

一方，梁桁と主柱であるが，いずれも直径１５ｃｍ弱の部材を用いていたため，今回は表面から１ｃｍ程度の深さまでしか焼けていなかった．また同時に，固定がもっとも頑強になされていたため，倒壊・崩落することはなかった．このため，倒壊状況の推定は困難である．ただ本来古代家屋の部材固定材が蔓や木栓等であった場合，垂木による水平方向からの荷重によって梁桁は押し出されるような動きをし，結果的に床面に落下し，屋根全体が倒壊した可能性も考えられる．

ただ，燃焼状況からは屋根材がほぼ焼け落ちた状況でも，なお柱材は転用が可能な状態である可能性があることを指摘しておきたい．

ただ、今回の火災では，火災途中における放水などの消火行為があったため，本来の自然鎮火に至るまでの火災現象の詳細な情報は得られていない．群馬県においては、火災発生からの一連の火災現象を記録した事例が複数ある。その中で、特に竪穴住居の焼成実験の詳細な記録を行った事例として、石守　晃氏の報告（石守，1995）がある。この報告は、イベントの中で建築した竪穴住居を、片付けを目的として焼却処分する際の焼失状況を非常に克明に記録したものである。注意したいのは、部材を「スジカイ」等で固定した事例と、部材を結束するに留めた事例との対比が行なわれている点である．これを見ると、指宿市の橋牟礼川遺跡復元住居の焼失状況に酷似していることが注目でき、家屋火災のモデルケースとして重要であると評価できるものと考える。

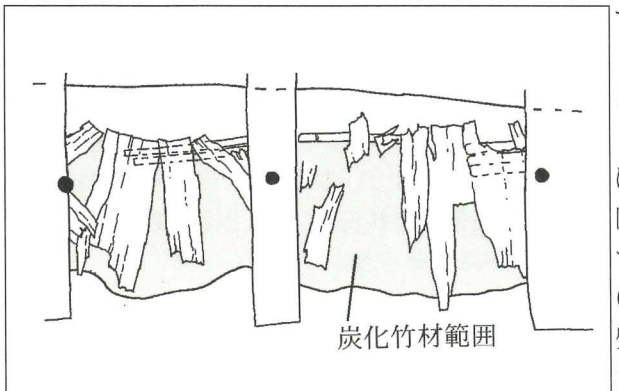


図３－２　竹壁崩落状況平面図（S=1/20）

３．２　他の部材

今回の火災で倒壊・崩落状況が明確に観察されたのは，土留め壁部材と屋根葺材である．

図３－１は埋没状況の断面を記録したものである．すでに述べたように，住居内の壁の造作は「竹を編んだ壁（囲柴）を組み，裏地に杉皮を入れ，排土を掘り方と竹壁の間に充填した」構造としている．倒壊後のセクションは，延焼のプロセスを良く示している．図化は良好なセクションが観察された３地点で行った．両者には共通する層位が認められた．層位の概要は以下のとおり

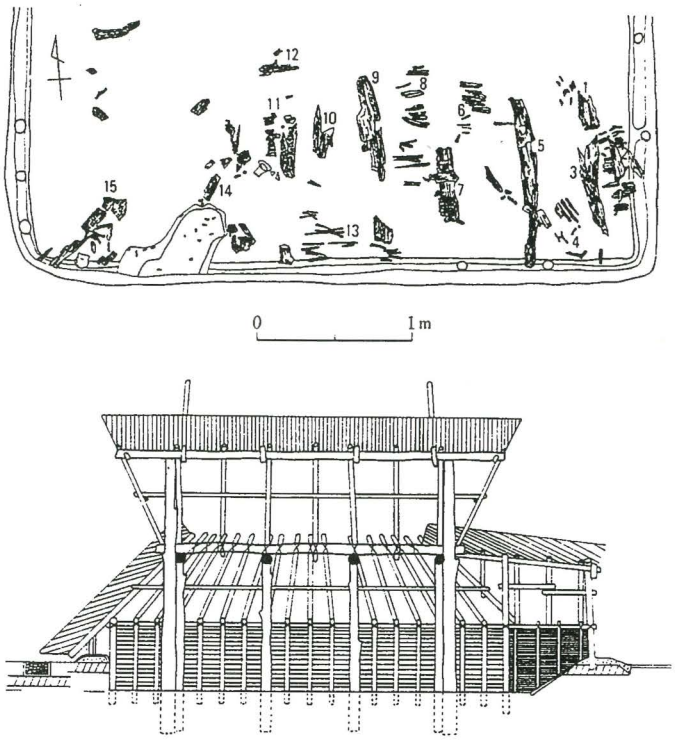


図４　福岡県道添遺跡１５号住居
（石野 1990 より転載）
上：炭化物出土状況，下：同復元図

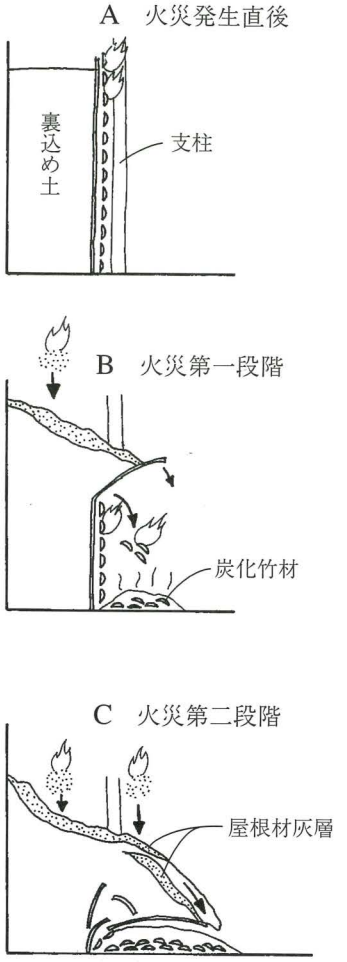


図５　竹壁崩落過程模式図

である．

① 壁の裏込め土が壁を失うことによって流れ落ちている（埋土）．

② 流れた埋土の先端部分には，茅や小舞竹の炭化物が混入している．

③ 埋土の上部に茅の灰が１層確認できる．層の傾斜は埋土の傾斜と一致している．

④ 壁材の竹は炭化しており，杉皮ともに原位置から住居内部に向かって倒れた形となっている．竹材は炭化が進んでおり，住居内部に向かった崩落状態を見せ，炭化物は床面直上で検出された．床面直上の炭化物中には茅の炭化物も認められる．

⑤ 杉材は竹壁に面した部分のみが炭化し，裏側は生の状態であった．このため，壁支えの木材付近では，直立した状態で残ったものもあった．

竪穴壁付近を掘削し，埋没平面状況を記録したのが図３－２である．これでは，杉皮が一様に住居内部に向かって倒れている状況が観察できた．杉皮の下端は壁下端部ラインより掘り方側に入り込んでいる．恐らく竹壁が上から順に焼け落ちていく過程で，下端の竹材を支点にして倒壊した状態を示すのであろう．

特にここで注意したいのは，上記の２号住居の竹壁の倒壊状態は，焼失住居である福岡県道添遺跡１５号住居（石野1990）の炭化物検出状況に酷似している点である（図４）．土田・宮原両氏が提示した復元案は，２号住居の竹壁と同様の構造が示されてる．焼失家屋が示した焼失後の状況と，それとよく類似した構造部を有する復元家屋の焼失後の姿が酷似している点は注目すべき点であろう．

さて，断面と平面の観察から，竹壁部分の焼失過程を以下のように復元してみた（図５）．

A　火災第１段階：火災発生直後．竹壁に着火．

B　火災第２段階：炭化した竹材が裏込め土の重量で崩落し始める．屋根材が燃え落ち，灰が竹壁の裏側に堆積，前面にも若干堆積する．

C　火災第３段階：竹壁が広く燃え落ち，壁の支持強度は失われ，裏込め土が崩落．流れた裏込め土の上

に屋根材灰が堆積，灰層を形成．

E　鎮火後堆積　：若干残った裏込め土が雨水などで完全に流れ，茅灰層の上面を被覆．土は灰や炭化物を巻き込み流れ落ちたため，堆積先端のカーボン混じりの部分を形成．

上記の焼失過程は，竪穴住居の炎上中に住居内でどのような現象が起こっていたかの一端を示している．一つ注意したいのは，出火地点である．指宿消防組合によると出火場所は，住居西側とされており，前記の様に焼け跡が示す焼失状況がそれを如実に示している．

竹壁の炭化材の堆積層中には茅灰が認められたが，埋土中の灰層と比較して薄いことが特徴的である．竹壁が崩落した時点では，屋根材の茅はまだ激しく燃え落ちていない段階であったことが想定できる．このことから，今回の復元住居の出火地点は住居の内部であった可能性は高いものと考える．

さて，焼失した復元家屋の土層観察は焼失から約８ヶ月後である．復元住居は掘り方をセメントを混ぜ込んだ土でつき固めていたため，掘り方の崩落は認められなかった．本来なら，「雨水による掘り方の崩落→泥水の流入」の過程を繰り返して竪穴部は埋没していくのであろう．この際，埋土中の炭化していない材は腐蝕するものの，炭化材は原位置を保ち遺存する筈である．

このことから，焼失建物の床面に認められる炭化木に限らず，各種の炭化材・灰等には十分注意を払う必要性が出てくると考えられるのである．というのも，主要構造以外の付帯的な住居内施設の姿を知る手がかりは，依然として床面に残された遺構のみであり，それもかなりの部分推定に頼らざるを得ないからである．

4　まとめ

これまで，国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡２号住居の焼失後の状況と，その観察から得られた知見に触れてきた．

焼失家屋に関する総合的研究は，近年の調査事例の増加に伴い更に進められるべきと考える．これは単に，原始・古代家屋の構造的研究への寄与に止まるものではない．例えば，古代の家屋火災の出火要因について論及した石野博信は，それを「失火」や「飛び火」などの偶発的火災と「忌避」を目的とした放火や住居廃絶後の「焼却」などの意図的火災とに分類している（石野1990,pp303-328）．石野が両者を分別した根拠は，住居内の生活雑貨の残存状況からである．石野は，様々な焼失家屋を通して焼失原因が示す社会状況に迫ろうと試みている．この独創的な研究は，高く評価されるべきであろう．

焼失住居の良好な検出例は，出火位置と延焼状況の復元を可能とし，例えば内部からの出火か外部からの出火かを明確にする可能性がある．そうした資料の増加は，焼失家屋の出火要因を更に明確にしていくことになると考えられる．またその進展は，焼失家屋とそれが属する集落全体を含めた視点を加えることで，往時の社会背景を映し出すためのひとつの手掛かりとなるかもしれない．

また，家屋火災を火災災害という視点から検討することは，指宿市考古博物館の研究テーマの一つである「災害考古学」の研究深化へも貢献するものと考えられる．　　（文責：中摩浩太郎）

（参考文献）

浅川　滋（1998）．『先史日本の住居とその周辺』，奈良国立文化財研究所シンポジウム報告．東京：同成社．

石守　晃（1995）．復元住居を用いた焼失実験の成果について，『研究紀要』，12．群馬県北橘村：(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団．

石野博信（1990）．『日本原始古代家屋の研究』．東京：吉川公文館．

（1994）．総論．『古墳時代の研究』，2，集落と豪族居館．東京：雄山閣．

大塚昌彦（1998）．土屋根をもつ竪穴住居-焼失家屋の語るもの-，『先史日本の住居とその周辺』，奈良国立文化財研究所シンポジウム報告．東京：同成社．

下山　覚ほか（1996）．『橋牟礼川遺跡』，ＸＩ．鹿児島県指宿：指宿市教育委員会．

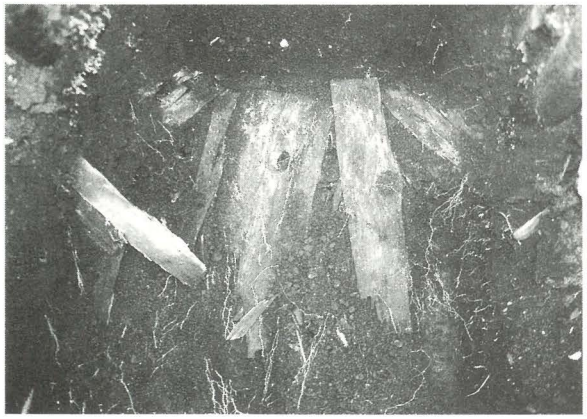
山本輝雄（1996）．住居の変遷，『考古学による日本歴史』，家族と住まい，１５．東京：雄山閣．

焼失直後の２号復元住居

試掘状況全景

崩落部分断面（Ａ－Ａ’）

崩落部分断面（Ｃ－Ｃ’）



竹壁埋没状況

同左（杉皮除去後，竹炭化物露出）

指宿市考古博物館
時遊館COCCOはしむれ
平成１０年度
博物館年報・紀要

1999年3月発行

発行：指宿市考古博物館
指宿市十二町2290
TEL0993-23-5100 FAX0993-23-5000
E-mail cocco@po.minc.ne.jp
印刷：野田印刷
指宿市十町247-3
TEL0993-22-4141 FAX0993-24-5416